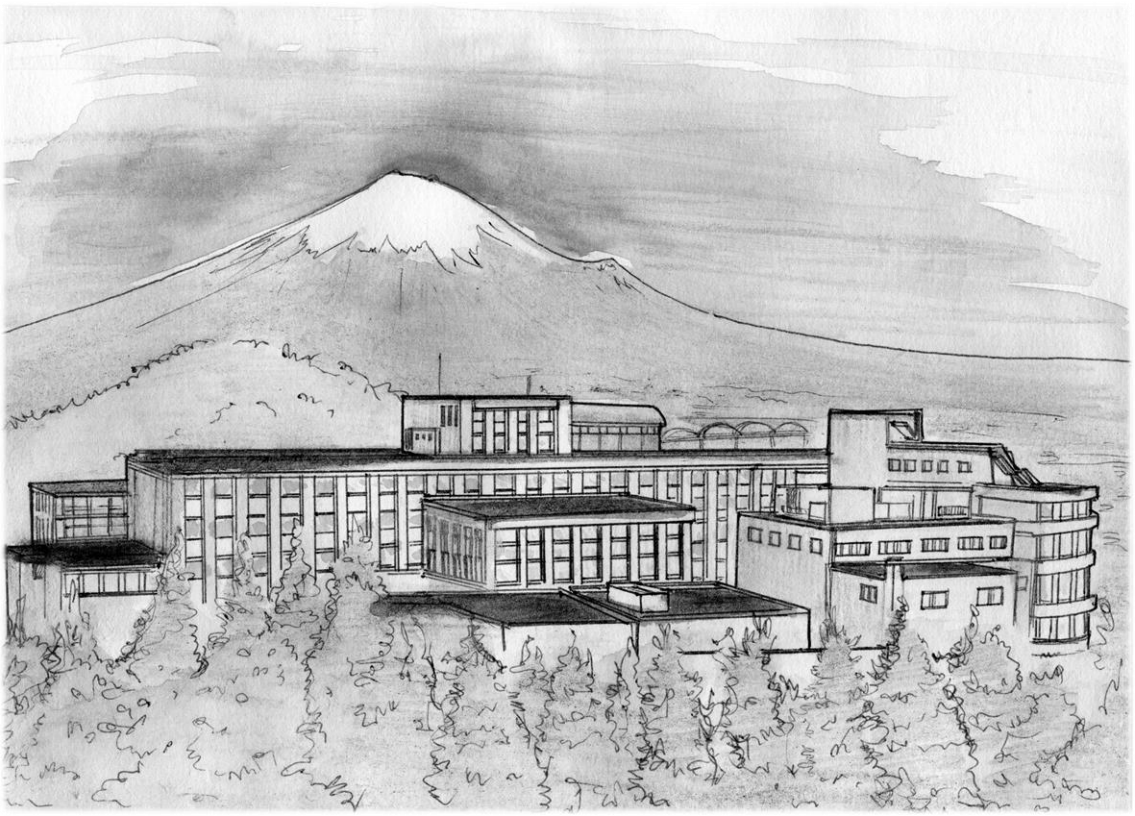
平成 30 年度

共立蒲原総合病院年報



共立蒲原総合病院の理念

１．地域中核病院として、地域住民のニーズに対応した適正な医療を提供する。

２．患者中心の全人的医療を提供する。

３．健全な収支の確立に努める。

４．職員が働き甲斐・誇りをもてる職場を構築し、医療水準の向上に努める。

共立蒲原総合病院の方針

１．病院中期経営計画の目標を達成する。

２．チーム医療を促進する。

３．経営資源を適切に活用する。

４．倫理観を持って行動する。

第８号の発行にあたって

院長　西ケ谷　和　之

平成30年度は、まさに災害が多かった年でした。酷暑の夏で猛暑日が続いたことや平成最大の犠牲者を出した西日本豪雨、東から西へ逆走する台風の連続、関西空港に大被害と閉鎖をもたらしたスーパー台風、さらには関空被害の1週間後に北海道胆振東部地震が発生し、北海道全体に大停電が生じたことなどです。

夏の季節に、当院の入院稼働率が100％となることは今までになかったことですが、猛暑による異常気象により、今年度は満床となった日がありました。幸いこの周辺地域には、大きな災害が発生しませんでしたが、昨今の異常気象はいつ発生するかしれません。災害・地震に対する備えが必要であることを今更ながら痛感させられた年でした。

働き方改革の議論が活発に行われた年でもありました。平成30年７月には「働き方改革関連法」が公布され、平成31年４月から時間外勤務の上限規制導入や年次有給休暇の確実な取得等が、順次、始まります。当院では今年度早々に医師に対しても出退勤管理システムを導入しました。

院内では、４月１日から診療報酬、介護報酬の同時改定がありました。急性期一般入院基本料の区分が７つに細分化され、重症度・看護必要度の見直し、機能評価係数Ⅱの変更などありましたが、改定前に危惧していたほどの厳しい影響は受けませんでした。DPC標準病院群の機能評価係数Ⅱにおいては、県内で19位（38病院中）、全国的には平均値を上回り、その中で効率性係数はほぼ全国平均値（平均在院日数12.9日）、救急医療係数は全国平均を大幅に上回る数値でした。

平成30年１月１日から、診療録も含めてすべてが電子化されました。電子カルテに慣れていくにつれて、細部にわたって不備な点が判明し、その都度改善がなされ、効率性、正確性、安全性など次第に精度を高めていくことができました。しかし、引続いて改善していく必要性があると考えています。

当院の婦人科と泌尿器科に関しては、これまで非常勤医師による外来診療だけでしたが、今年度４月１日に、婦人科は13年ぶり、泌尿器科は９年ぶりに常勤医師を採用することができ、毎日の外来診療や入院治療、手術などが可能となりました。整形外科、内科、健診センターにおいても常勤医師３名の入職がありましたが、その他に内科医師１名の退職があり、全体としては４名の常勤医師の増となりました。その影響もあり、病院全体の手術件数も昨年度と比べ大きく増加しました。

事業収支に関しては、入院外来収益などの病院事業収益は前年度との比較で２億円余の増収となりましたが、減価償却費、給与費、経費などの増により、実質収支では３億6,000万円余の赤字でした。昨年度よりは少し改善されましたが、まだまだ、赤字対策を施し、黒字化を目指す努力をしなければなりません。

今年度初めて開催した外部委員による「共立蒲原総合病院経営懇話会」では、「共立蒲原総合病院公立病院改革プラン（平成29年度～令和２年度)」の平成29年度点検・評価をお願いいたしました。各委員からは忌憚のない多くのご意見があり、当院の経営・運営に関して５段階中「３：中程度」の評価をいただきました。

今後も、地域の住民の方々の疾病の予防や治療のお役に立てられるよう病院の運営、経営に職員一同、更に努力していく考えには変わりありません。引き続き、よろしくお願い申し上げます。

目　次

共立蒲原総合病院の理念

共立蒲原総合病院の方針

第８号の発行にあたって（院長）

Ⅰ　概要・沿革

1　概要……1

2　沿革……2

Ⅱ　現況

1　組織図……6

2　職員数……7

3　正規職員平均年齢……7

4　建物案内・平面図

⑴　建物案内……8

⑵　平面図……9

5　施設概要……15

6　設備概要……15

7　主な医療機器

⑴　病院……16

⑵　健康診断センター……16

8　病床数……17

9　診療科目……17

10　診療受付時間……17

11　診療サービス区分……17

12　施設指定等……17

13　各学会認定（指定）施設……17

14　病院開設許可等……17

15　施設基準

⑴　基本診療料……18

⑵　特掲診療料……18

16　病院組合議会……19

17　院内会議及び委員会……20

18　病院情報システム……23

Ⅲ　経営

1　業務概況……24

⑴　業務の状況……24

⑵　事業収支について……24

⑶　資本的収支について……24

2　業務実績……25

3　損益計算書……26

4　貸借対照表……28

Ⅳ　診療統計

1　入院

⑴　入院総括……30

⑵　診療科別入院患者延数……30

⑶　病棟別入院患者の状況……31

⑷　診療科別・年齢別入院患者延数……33

⑸　地区別・診療科別入院患者延数……34

⑹　地区別入院患者延数推移（５年間）……34

⑺　地区別入院患者割合推移（５年間）……34

2　外来

⑴　外来総括……35

⑵　診療科別外来患者数……35

⑶　診療科別・年齢別外来患者延数……36

⑷　地区別・診療科別外来患者延数……37

⑸　地区別外来患者延数推移（５年間）……37

⑹　地区別外来患者割合推移（５年間）……37

3　救急医療

⑴　診療科別患者延数……38

⑵　診療科別・月別患者延数……39

⑶　地区別・月別患者延数……40

4　手術

⑴　診療科別・年度別手術件数……41

⑵　診療科別・月別手術件数……41

⑶　診療科別・月別麻酔件数……42

⑷　診療科別・内容別手術件数

①　内科……43

②　外科……43

③　整形外科……44

④　脳神経外科……44

⑤　泌尿器科……45

⑥　眼科……45

⑦　耳鼻いんこう科……45

⑧　内視鏡センター……46

目　次

5　人工透析センター……47
6　死亡件数
⑴　診療科別死亡件数……47
⑵　死亡及び剖検件数……47
7　薬局
⑴　処方箋枚数、錠数、疑義照会件数……48
⑵　服薬指導……48
⑶　院内製剤……48
8　検査科……49
9　放射線科
⑴　年度別検査件数……50
⑵　医療機器共同利用件数……50
⑶　健康診断ｾﾝﾀｰにおける年度別検査件数‥50
10　リハビリテーション科
⑴　リハビリ処方箋件数……51
⑵　診断名別リハビリ処方患者実数……51
⑶　年度別リハビリ件数……52
11　栄養管理科
⑴　栄養指導件数……53
⑵　給食数……54
⑶　ＮＳＴ報告……54
12　訪問看護ステーション
⑴　訪問対象者……55
⑵　年齢別訪問対象者……55
⑶　医療機関別訪問対象者……55
⑷　訪問看護対象者の状況……55
⑸　訪問利用者延数……56
⑹　地区別利用者延数推移（５年間）……56
⑺　地区別利用者割合推移（５年間）……56
⑻　訪問対象者の主な疾患……57
⑼　訪問看護の内容……57
⑽　対象者が受けている医療内容……57
13　健康診断センター
⑴　年度別受診者実数……58
⑵　項目別悪性所見発見者数……58
14　診療録管理室
⑴　疾病統計
①　疾病別・診療科別入院患者実数……59
②　疾病別・年齢別入院患者実数……60
③　診療科別・疾病頻度順入院患者状況‥61
⑵　手術統計……64
⑶　死亡統計……66
⑷　医療情報の開示……66
15　地域医療支援室
⑴　診療科別紹介患者延数……67
⑵　紹介率・逆紹介率……67
⑶　医療相談……68
16　医療安全への取り組み……71
17　感染防止への取り組み……75

Ⅴ　看護部

看護部総括……78
1　各部署の年間目標に対する評価
⑴　看護部……78
⑵　外来……82
⑶　東２病棟……83
⑷　西２病棟……85
⑸　東３病棟……86
⑹　西３病棟……88
⑺　本４病棟……89
⑻　新３病棟……90
⑼　人工透析センター……91
⑽　手術室……92
⑾　訪問看護ステーション……93
⑿　健康診断センター……94
2　看護部教育院外研修……95
3　院内看護研究会……97
4　認定看護師の活動報告
⑴　感染管理認定看護師……98
⑵　がん化学療法看護認定看護師……100
⑶　透析看護認定看護師……101
⑷　脳卒中ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護認定看護師……102
⑸　認知症看護認定看護師……103
⑹　緩和ケア認定看護師……104

Ⅵ　研究

1　医局
⑴　学会・研修会等出席者数……105
⑵　著書・刊行論文……105
⑶　学会及び研究会報告……105

目　次

⑷　対外活動‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥105
2　診療技術部
⑴　学会・研修会等出席者数‥‥‥‥‥‥‥‥107
⑵　著書・刊行論文‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥107
⑶　学会及び研究会報告‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥107
⑷　対外活動‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥108
3　看護部
⑴　学会・研修会等出席者数‥‥‥‥‥‥‥‥110
⑵　学会及び研究会報告‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥110
⑶　対外活動‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥110

Ⅶ　その他

1　年間行事‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥111
2　平成30年度蒲原病院健康フェスタ‥‥‥‥117
3　市民公開講座‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥118
4　蒲原病院だより‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥118

Ⅰ　概要・沿革

1　概要

建物総面積16,052平方メートル地上５階の共立蒲原総合病院は、緑に囲まれた小高い丘の上に建てられております。

眼下には伊豆の連山をうかべる紺碧に澄みきった駿河湾、振り返れば間近に四季折々の雄姿を映し出す富士山が･･･。そんな恵まれた環境の総合病院です。

富士川沿いにあり、岳南地域そして庵原地域の住民皆様の医療を担っております。

周辺地域の高齢化を考慮し、救急・急性期から回復期、慢性期医療、予防医学を担い、住民が安心して生活できる病院の存在を目指しております。

多様化する医療要望にこたえて、健康診断センター、人工透析センター、診療棟の増設など医療機能の充実と拡充を進めてきました。

また、高齢者医療・介護にこたえるべく、訪問看護ステーション、介護老人保健施設「芙蓉の丘」も開設しております。

１）経営主体：富士市、静岡市、富士宮市
２）開 設 者：管理者　富士市長　小長井　義　正
３）開　　設：昭和30年10月 1日（移転：昭和58年 5月）
４）院　　長：西ケ谷　和　之（専門科：脳神経外科）
副 院 長：谷　若　弘　一（専門科：外科）
副 院 長：河　合　　勉（専門科：消化器内科）
副 院 長：今　井　　碧（兼看護部長）
診療技術部長：野　沢　政　史（兼検査科技師長兼栄養管理科科長）
事 務 長：吉　田　和　義

2　沿革

昭和30年10月１日	庵原郡蒲原町蒲原六本松137番地に、『国民健康保険蒲原町外三ヶ町村（蒲原町、富士川町、松野村、内房村）組合』の『共立蒲原病院』を開院 診療科：内科、外科、産婦人科 許可病床数：54床
昭和30年11月	結核病床新設 許可病床数：一般病床54床、結核病床56床、計110床
昭和31年４月	付属准看護学院開校
昭和31年７月	新館病棟竣工 許可病床数：一般病床120床、結核病床118床、計238床
昭和31年９月	増床 許可病床数：一般病床176床、結核病床120床、計296床
昭和32年４月	昭和31年9月30日、「内房村」が「富原村」と改名、昭和32年3月31日、富士郡芝富村、柚野村と庵原郡富原村が合併し、「富士郡芝川町」となり、一部事務組合に加入。また、庵原郡松野村が富士川町に合併し、一部事務組合の名称は、『国民健康保険蒲原町外二ヶ町組合』となる
昭和33年９月20日	総合病院の名称許可により、『共立蒲原総合病院』と改称 診療科：内科、小児科、外科、皮膚泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科
昭和34年６月	蒲原町富士川町隔離病舎組合により、病院新館病棟東側に隔離病舎（20床）が新築され、病院に委託される 許可病床数：一般病床176床、結核病床120床、伝染病床20床、計316床
昭和35年３月	構造変更 許可病床数：一般病床183床、結核病床120床、伝染病床16床、計319床
昭和36年10月	整形外科の診療開始
昭和36年12月	構造変更 許可病床数：一般病床237床、結核病床64床、伝染病床16床、計317床
昭和42年４月１日	一部事務組合に由比町が加入し、『国民健康保険蒲原町外三ヶ町組合』となる
昭和44年８月	脳神経外科の開設
昭和46年８月	構造変更 許可病床数：一般病床241床、結核病床45床、伝染病床20床、計306床
昭和47年２月	構造変更 許可病床数：一般病床241床、結核病床42床、伝染病床20床、計303床
昭和48年７月31日	組合規約の変更により、『国民健康保険蒲原町外三ヶ町組合』を『共立蒲原総合病院組合』に改める 組合構成町：蒲原町、富士川町、芝川町、由比町
昭和52年11月	ホールボディ　コンピュータＸ線横断層撮影装置（CTスキャナ）導入
昭和53年12月	富士急バスの乗り入れ
昭和54年３月	結核病棟の全廃、一般病棟に転用 許可病床数：一般病床283床、伝染病床20床、計303床
昭和54年５月	新病院建設に向け、移転候補地選定のため、議会内に小委員会を設置
昭和54年12月	新病院候補地決定（富士川町大楽窪）
昭和55年３月	議会内に共立蒲原総合病院特別委員会を設置
昭和56年12月	新病院移転新築工事起工
昭和57年８月	新病院附帯施設（医師住宅、看護婦寮、准看護学院）移転新築工事起工
昭和58年２月	新病院完成（庵原郡富士川町中之郷2500-1）
昭和58年５月１日	新病院診療開始 許可病床数：一般病床300床、伝染病床10床、計310床 診療科：内科、外科、小児科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、理学診療科

昭和59年９月	全身用CTスキャナ更新
昭和60年４月	検診車による集団検診開始
昭和61年４月	呼吸器科の開設
昭和62年６月	循環器科、麻酔科の開設
昭和63年３月	医師住宅（Ｂ棟）完成
昭和63年10月	消化器科の開設
平成元年２月	健康診断センター増築
平成元年３月	心血管Ｘ線診断システム導入
平成元年６月１日	健康診断センター業務開始、人間ドック10床を増床
	許可病床数：一般病床310床（人間ドック10床を含む）、伝染病床10床、計320床
平成２年３月	RI施設工事完了　ガンマカメラシステム導入
平成３年10月	全身用CTスキャナ更新
平成４年２月	ライナック・MRＩ棟増築　MRI（磁気共鳴断層撮影装置）導入
平成４年11月	透析センター増築
平成４年12月	透析センター診療開始
平成５年３月	医用ライナック放射線治療装置導入
平成６年３月	准看護学院閉校
平成６年４月	神経内科の開設
平成７年２月	駿河看護専門学校竣工
平成７年４月	給食業務委託開始
	駿河看護専門学校開校
平成８年10月	新館建設工事着工
平成９年６月	オーダリングシステム導入
平成10年３月	新館建設工事完了
平成10年４月	新館建設により、一般病床20床増床
	許可病床数：一般病床330床（人間ドック10床を含む）、伝染病床10床、計340床
平成11年４月	法律改正により伝染病床が感染症病床となる
	許可病床数：一般病床330床（人間ドック10床を含む）、感染症病床4床、計334床
平成14年４月	MRI更新（1.5テスラ）
平成15年４月	感染症4床を廃止
	許可病床数：一般病床330床（人間ドック10床を含む）
平成15年10月	呼吸器外科の開設
平成18年３月31日	蒲原町が静岡市に編入合併
	組合構成市町：静岡市、富士川町、芝川町、由比町
平成20年11月1日	富士川町が富士市に、由比町が静岡市に、それぞれ編入合併
	組合構成市町：富士市、静岡市、芝川町
平成21年７月	DPC対象病院
	外部有識者による「共立蒲原総合病院運営検討委員会」を設置
平成22年３月23日	芝川町が富士宮市に編入合併
	組合構成市：富士市、静岡市、富士宮市
平成22年６月	「共立蒲原総合病院運営検討委員会」による答申
平成22年９月	看護師等修学資金貸与制度創設
	病棟再編成
	許可病床：一般病床330床（人間ドック10床を含む）
	稼働病床：一般病床176床
平成22年10月	一般病床を減床し、療養病床を46床開設
	許可病床数：一般病床284床（人間ドック10床を含む）、療養病床46床、計330床
	稼働病床数：一般病床130床、療養病床46床、計176床

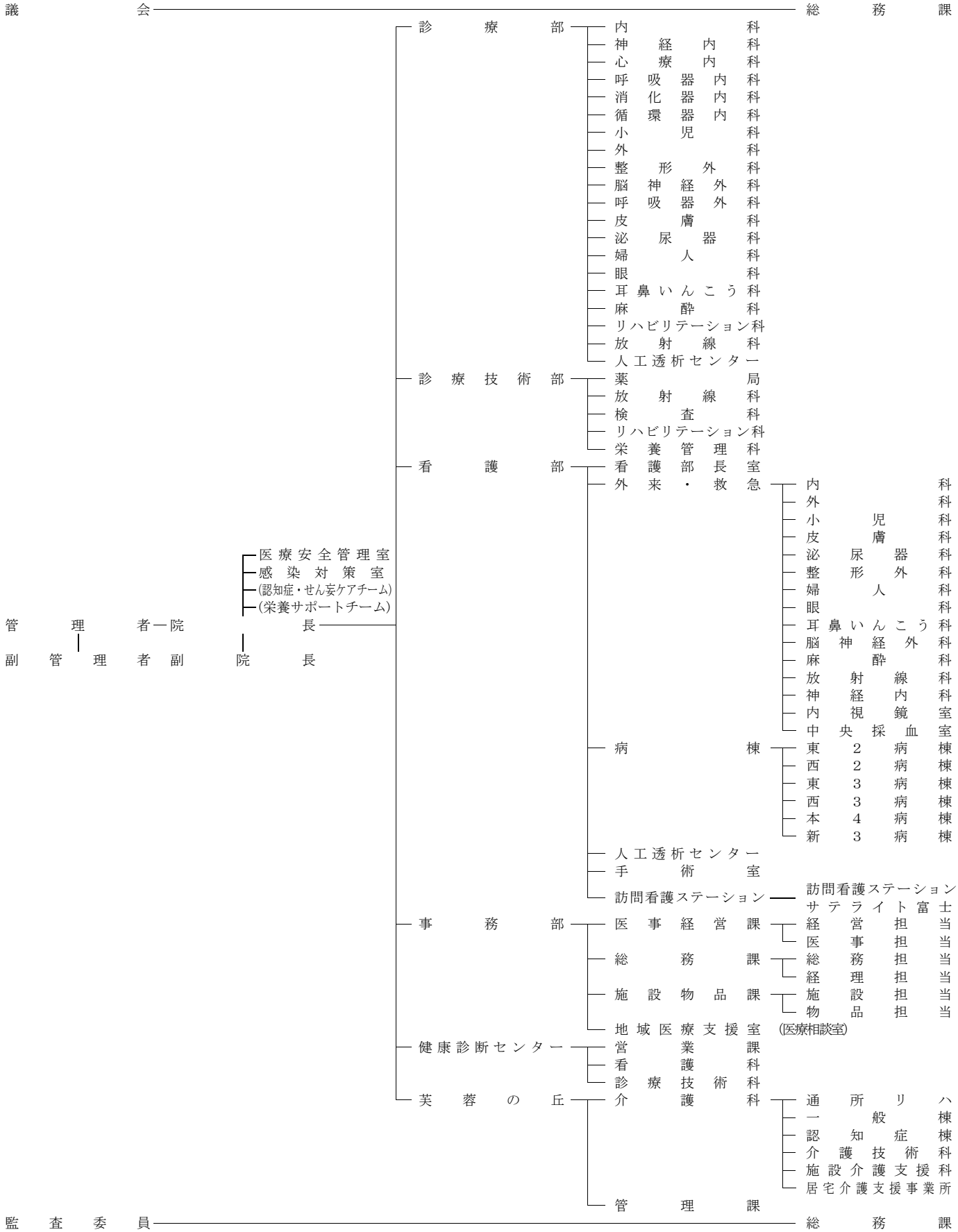
平成22年11月	一般病床を減床し、療養病床を46床増床
	許可病床数：一般病床238床（人間ドック10床を含む）、療養病床92床、計330床
	稼働病床数：一般病床130床、療養病床60床、計190床
平成23年３月	病棟再編成
	許可病床数：一般病床238床（人間ドック10床を含む）、療養病床92床、計330床
	稼働病床数：一般病床143床、療養病床60床、計203床
	駿河看護専門学校閉校
平成23年４月	眼科休診
平成23年９月	全身用CTスキャナ更新（64マルチスライス）
平成23年10月	一般病床を亜急性期病床（東３病棟6床）へ転床により開設
	稼働病床数：一般病床143床（急性期137床、亜急性期6床）、
	療養病床60床、計203床
平成24年２月	一般病床を亜急性期病床（本４病棟4床）へ転床
	稼働病床数：一般病床153床（急性期143床、亜急性期10床）、療養病床60床、計213床
平成24年３月	デジタルＸ線テレビシステム更新
平成24年４月	院内保育所再開
平成24年10月	院外処方導入
平成24年12月	厨房改修工事完了
平成25年２月	眼科再開
平成25年４月	一般病床を20床返還
	許可病床数：一般病床218床（人間ドック10床を含む）、療養病床92床、計310床
	稼働病床数：一般病床143床（急性期133床、亜急性期10床）、
	療養病床60床、計203床
平成25年７月	心療内科開設
平成25年８月	一般病床を33床返還
	許可病床数：一般病床185床（人間ドック10床を含む）、療養病床92床、計277床
	稼働病床数：一般病床143床（急性期133床、亜急性期10床）、
	療養病床60床、計203床
平成25年10月30日	血管造影装置更新
平成25年11月	療養病床を32床稼働
	許可病床数：一般病床185床（人間ドック10床を含む）、療養病床92床、計277床
	稼働病床数：一般病床143床（急性期133床、亜急性期10床）、
	療養病床92床、計235床
平成26年２月25日	移動型Ｘ線テレビ装置更新
平成26年３月７日	骨密度測定装置（病院）更新
平成26年６月	病棟再編成
	許可病床数：一般病床185床（人間ドック10床を含む）、療養病床92床、計277床
	稼働病床数：一般病床143床（急性期133床、亜急性期10床）、
	療養病床92床、計235床
平成26年７月１日	地域包括ケア病棟開設
	許可病床数：一般病床185床（人間ドック10床を含む）、療養病床92床、計277床
	稼働病床数：一般病床143床（急性期106床、地域包括ケア37床）、
	療養病床92床、計235床
平成26年９月17日	Ｘ線テレビ装置（健診センター）更新
平成26年９月24日	Ｘ線テレビ装置（健診センター）更新
平成27年１月	ガンマカメラ更新
平成28年３月17日	骨密度測定装置（健診センター）更新
平成28年３月	医学生修学資金貸与制度創設
	薬学生修学資金貸与制度創設
平成28年４月１日	共立蒲原総合病院訪問看護ステーションサテライト富士開設

平成28年８月31日	循環器健診車１台更新
平成28年10月１日	病棟再編成
	許可病床数：一般病床185床（人間ドック10床を含む）、療養病床92床、計277床
	稼働病床数：一般病床143床（急性期78床、地域包括ケア65床）、
	療養病床92床、計235床
平成29年２月	MRI更新（1.5テスラ）
平成29年６月	デジタルマンモグラフィーシステム更新（FPD）
平成29年７月	デジタルＸ線撮影システム更新（FPD）
平成30年１月１日	電子カルテシステム導入
平成30年１月	Ｘ線一般撮影装置更新
平成30年３月	外壁改修工事完了
平成30年４月	一般病床を10床返還（人間ドック10床）
	許可病床数：一般病床175床、療養病床92床、計267床
	稼働病床数：一般病床143床（急性期78床、地域包括ケア65床）、
	療養病床92床、計235床
平成30年６月26日	胃部・胸部レントゲン検診車１台更新
平成30年12月	Ｘ線一般撮影装置２台更新
平成31年３月	液体酸素タンク更新
	本館非常用発電機更新

Ⅱ　現況

1　組織図

共立蒲原総合病院組織図［関係市：富士市、静岡市、富士宮市］（平成30年４月１日現在）



2　職員数

年度末の職員数　　（単位：人）

職　種		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
正規職員	医師	15	13	14	15	17
	保健師	5	7	7	9	9
	助産師	2	1	1	1	1
	看護師	140	142	147	152	149
	准看護師	8	6	5	4	4
	薬剤師	8	6	8	10	11
	診療放射線技師	16	16	16	15	16
	臨床検査技師	16	16	16	17	16
	臨床工学技士	3	3	3	5	5
	管理栄養士	4	4	4	4	4
	理学療法士	13	13	13	14	14
	作業療法士	6	6	6	6	6
	言語聴覚士	1	1	1	2	2
	視能訓練士	－	1	1	1	1
	事務	28	29	28	28	27
	看護助手他	2	2	2	1	－
	派遣	－	－	－	－	－
	派遣受入	1	1	1	－	－
	計	268	267	273	284	282
臨時・パート職員	嘱託	1	－	－	－	－
	医師	1	2	1	2	3
	看護師等	48	49	46	42	38
	医療技術員等	3	5	4	3	3
	事務	34	37	41	38	31
	看護助手他	58	56	71	67	61
	計	145	149	163	152	136
合　計		413	416	436	436	418

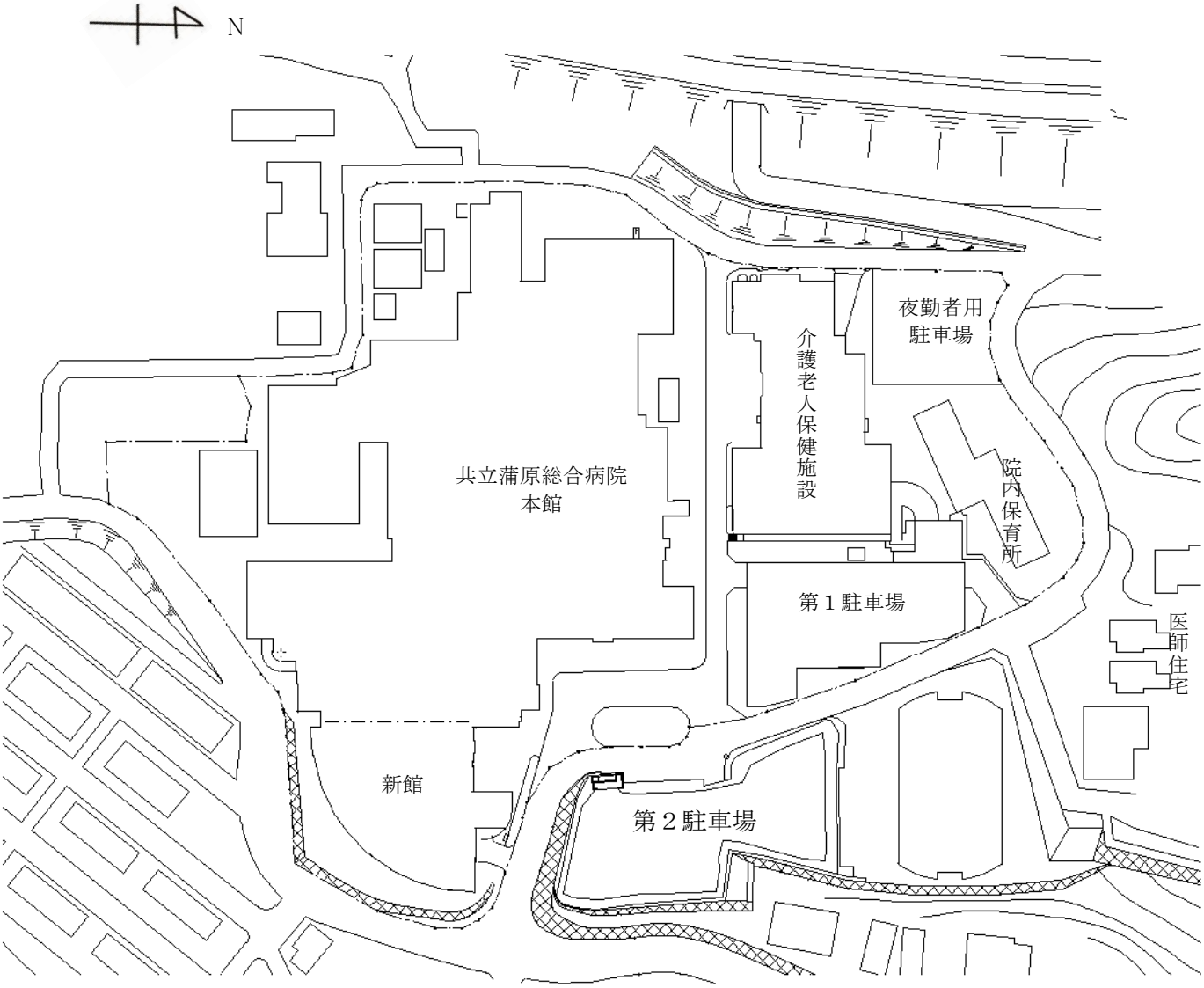
3　正規職員平均年齢

年度末の正規職員平均年齢　　（単位：歳）

職　種	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
医師	52.1	54.2	53.7	52.7	50.1
看護師	37.9	38.7	39.2	39.7	40.4
准看護師	52.1	50.5	52.2	51.3	52.3
医療技術員	40.5	41.4	42.0	41.7	41.8
事務他	41.6	42.0	42.4	42.4	43.2
全職員	40.2	40.8	41.3	41.4	41.8

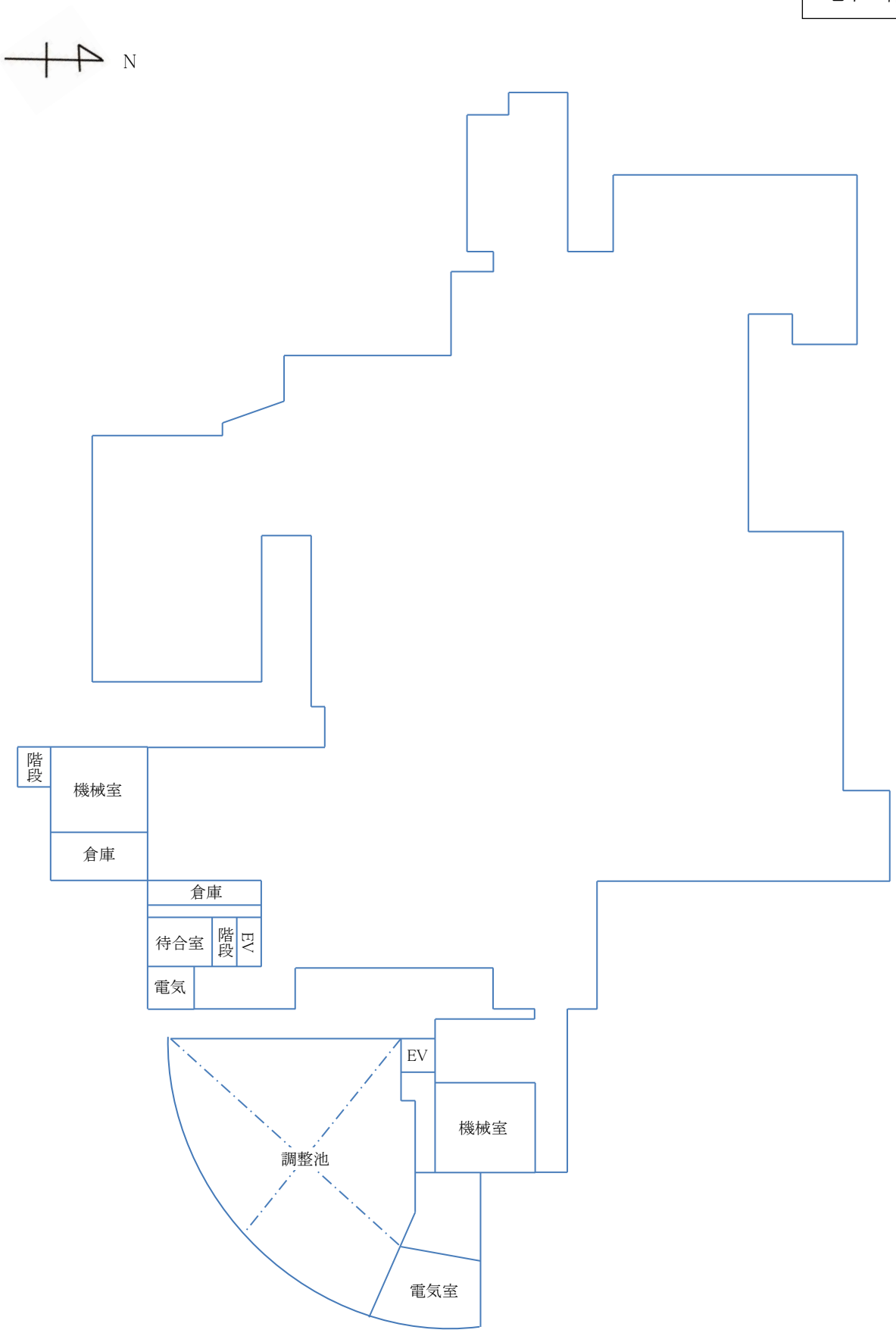
4　建物案内・平面図

⑴　建物案内

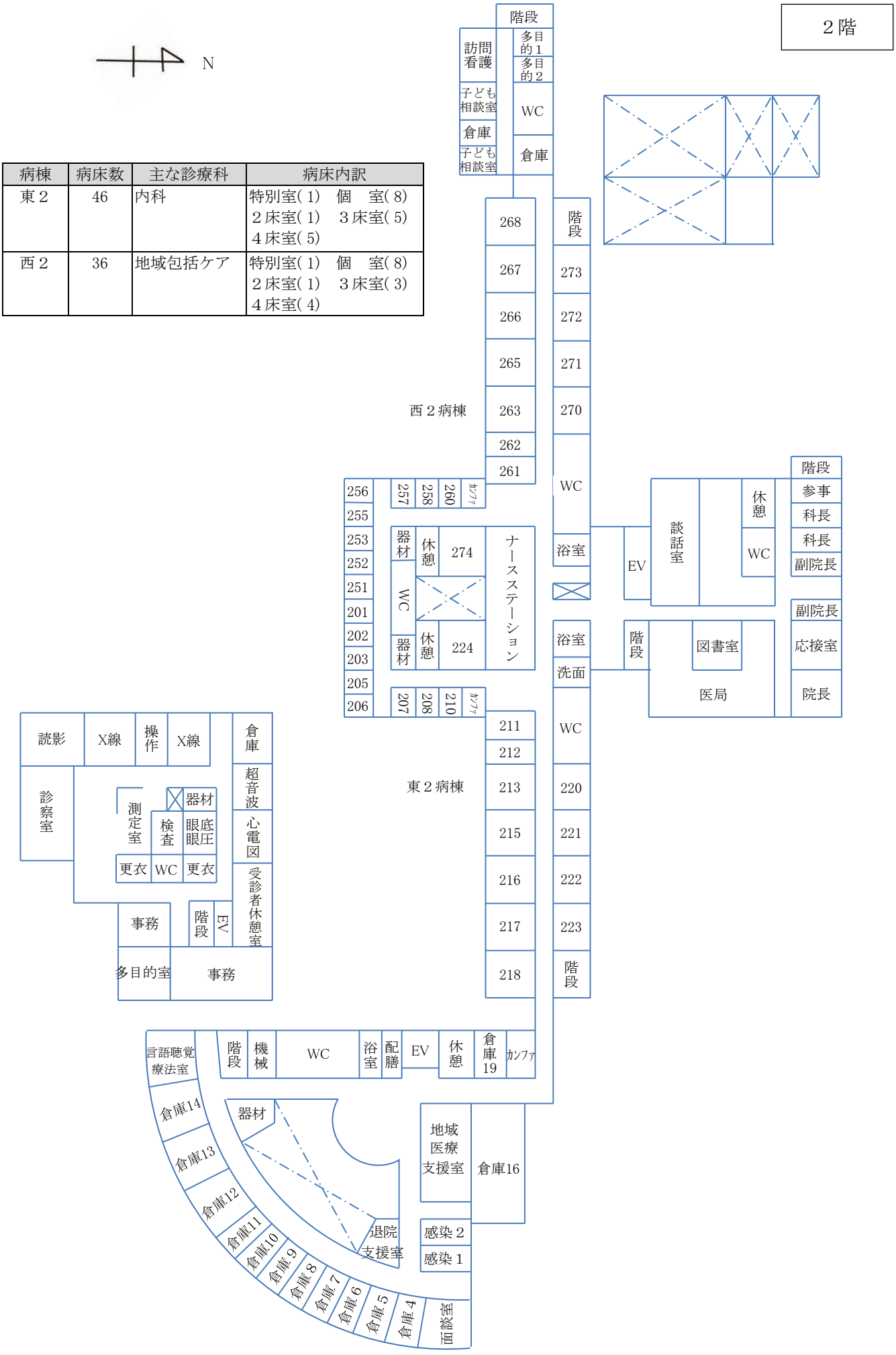


⑵　平面図

地下１階



1階
N
階段
調整室
倉庫
浴室
倉庫
倉庫
リハスタッフ
ボイラー
冷凍機
発電機
リネン
洗濯
霊安
解剖
廃棄物
核医学
管理
ポンプ
蓄電
浴室
階段
空調
更衣
事務
食品庫
超音波
カンファレンス
倉庫
アンギオ
CT
暗室
操作室
放射線科
空調
休憩
冷蔵
WC
内視鏡
カンファレンス
マンモ
脳波
X-TV
一般撮影
骨密度
読影
厨房
工作
処置室
シミュレータ
手術室
ライナック
機械
WC
更衣室
MRI
MRI
当直
検査
心電図
採血
休憩
受付
検査科
細菌
WC
洗浄
検査
面談
脳外科
神経内科
小児科
休憩
滅菌
EV
浴
WC
倉庫
階段
更衣室
倉庫
事務
薬品庫
階段
研究室
薬局事務
更衣室
空調
薬品庫
薬局(調剤)
DI室
印刷
休憩
職員出入口
宿泊室
訓練室
リハビリ科
整形外科
ギプス
空調
売店
多目的室
更衣
婦人科
WC
外来治療室
耳鼻いんこう科
外科
待合ホール
会計
受付
管理事務
応接室
事務長
総合受付
外来出入口
待合ホール
会議室
電算
階段
EV
皮膚科
心療内科
泌尿器科
診療録管理室
カルテ庫
会議室
WC
階段
階段
WC
眼科
EV
夜間出入口
当直
警備室
救急出入口
内科
救急処置室
当直室
アンギオ
CT
一般撮影

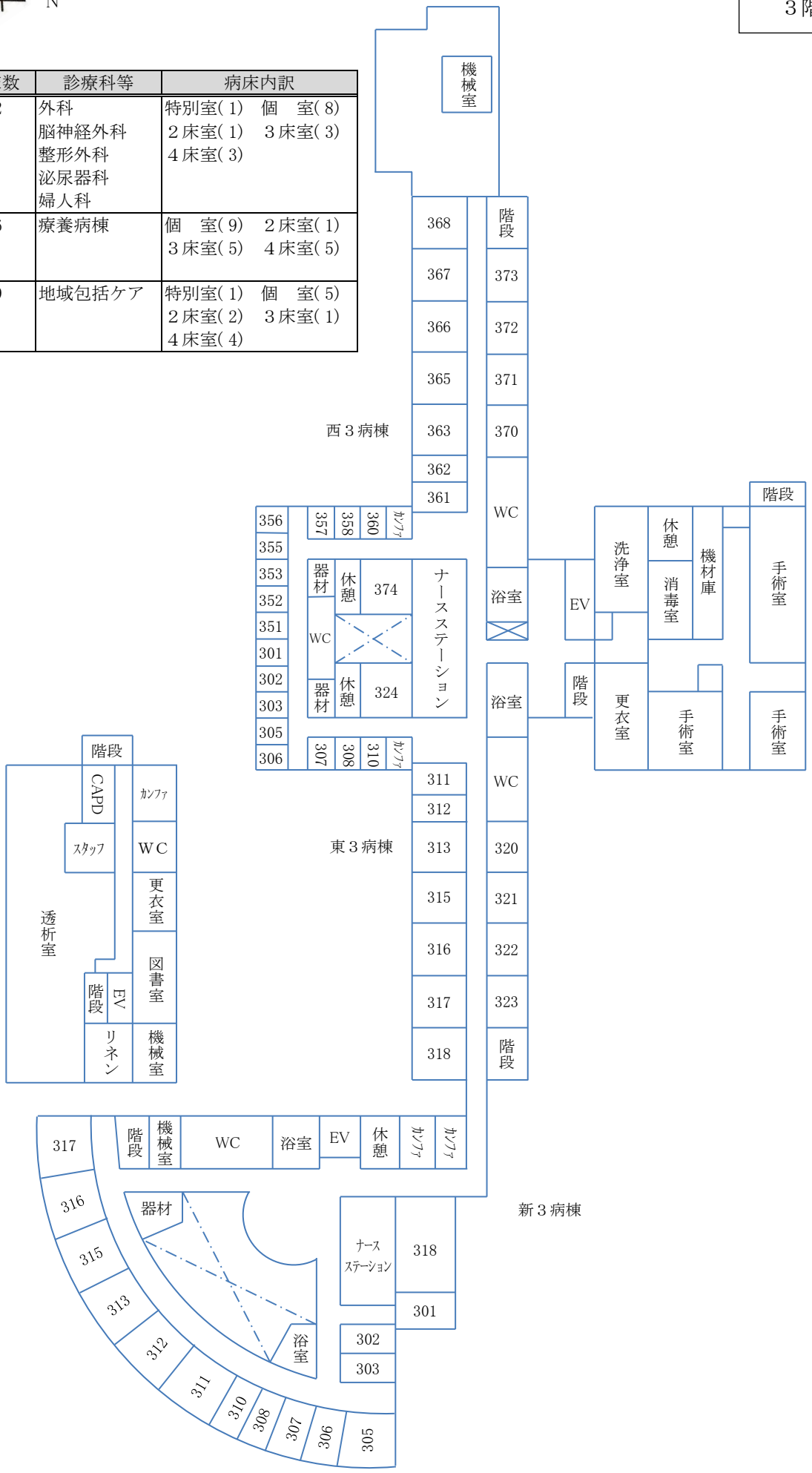


病棟	病床数	主な診療科	病床内訳
東２	46	内科	特別室(1)　個　室(8) ２床室(1)　３床室(5) ４床室(5)
西２	36	地域包括ケア	特別室(1)　個　室(8) ２床室(1)　３床室(3) ４床室(4)

N

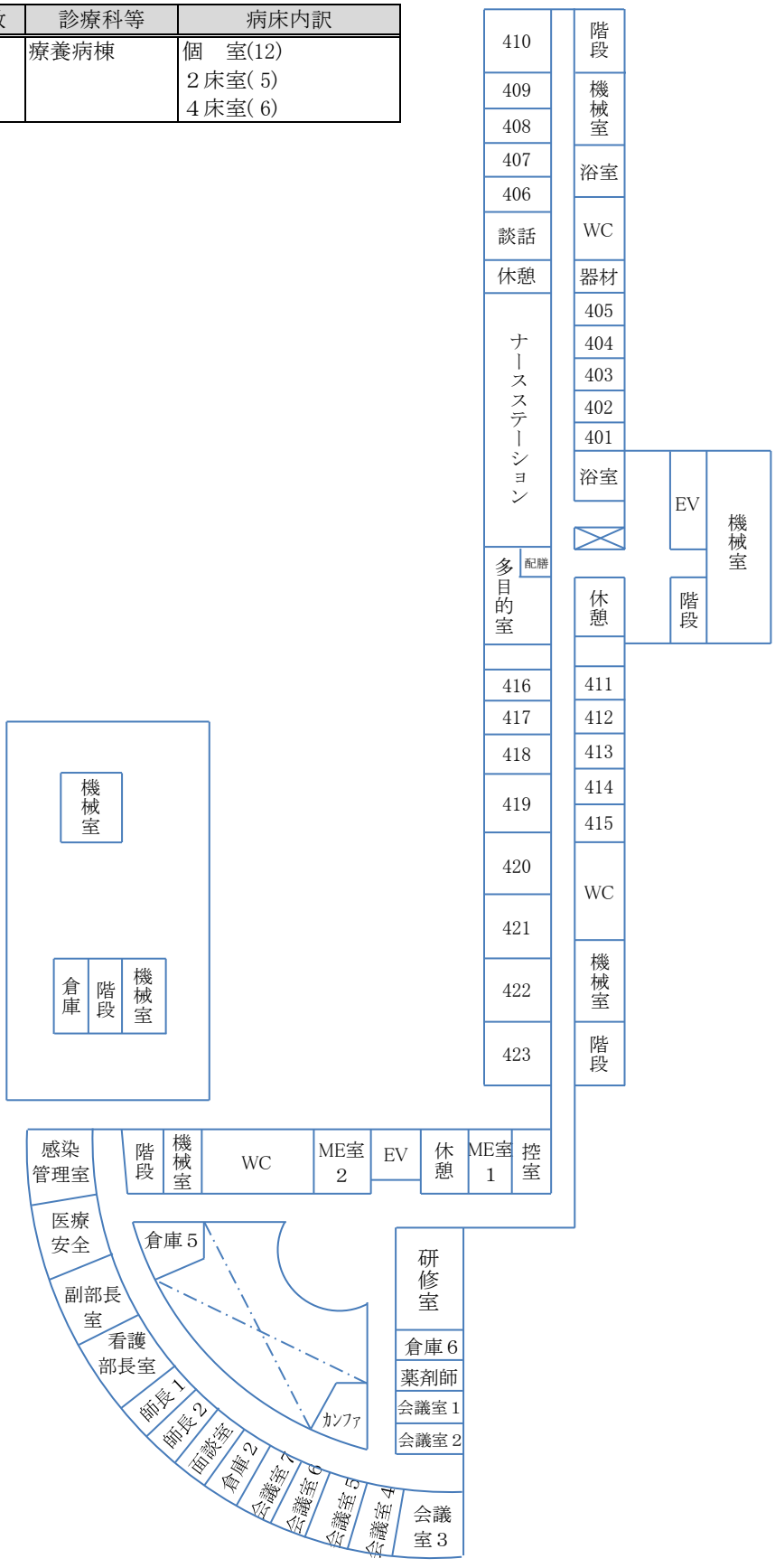
３階

病棟	病床数	診療科等	病床内訳
東３	32	外科 脳神経外科 整形外科 泌尿器科 婦人科	特別室(1)　個　室(8) ２床室(1)　３床室(3) ４床室(3)
西３	46	療養病棟	個　室(9)　２床室(1) ３床室(5)　４床室(5)
新３	29	地域包括ケア	特別室(1)　個　室(5) ２床室(2)　３床室(1) ４床室(4)

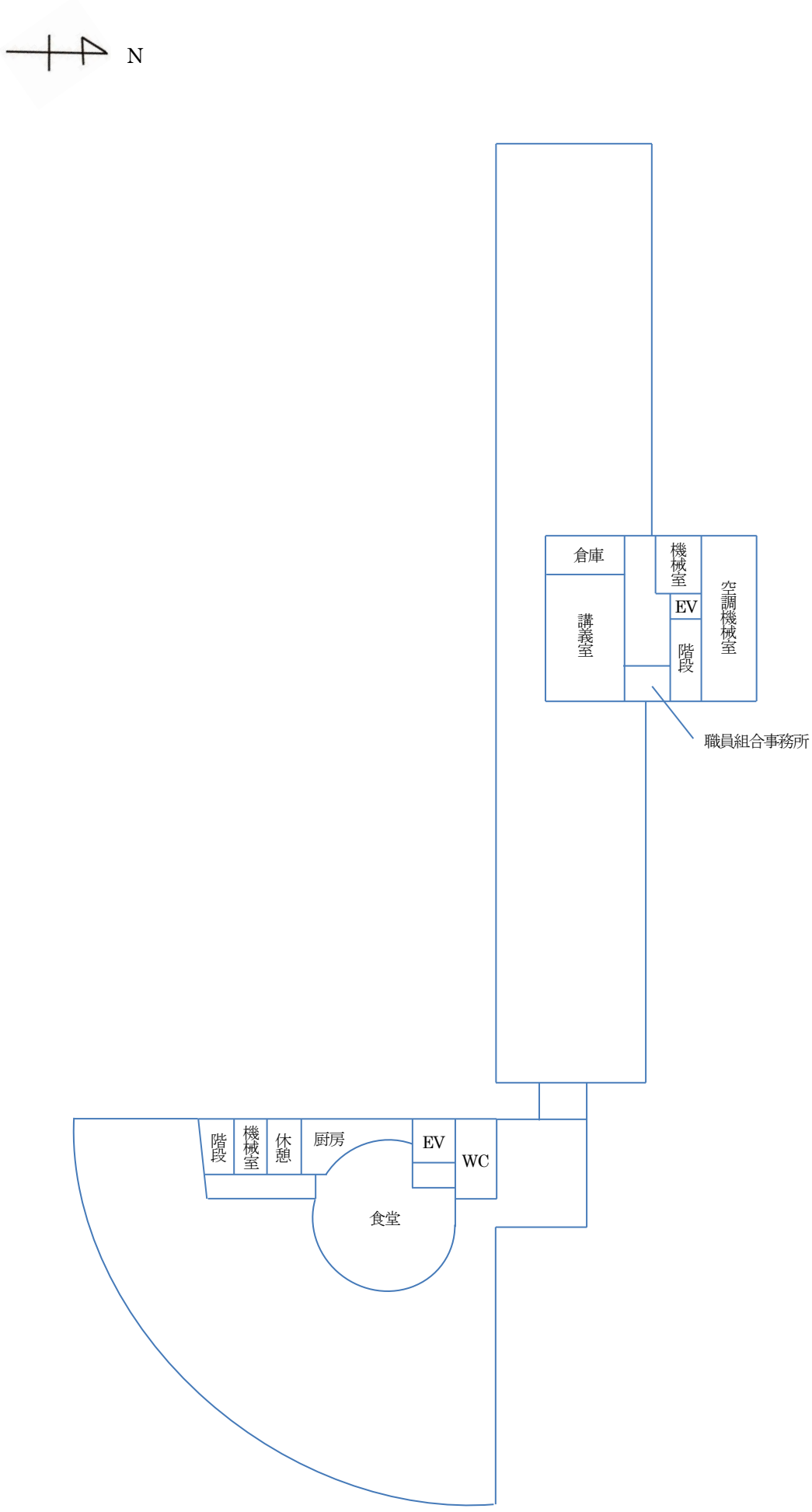


N

病棟	病床数	診療科等	病床内訳
本4	46	療養病棟	個　室(12) 2床室(5) 4床室(6)



５階



5　施設概要

所　在　地：富士市中之郷2500番地の１

敷 地 面 積：37,760.418㎡

	建物面積	延床面積	階数	構造種別
本館	5,644㎡	12,194㎡	地上５階建	鉄筋コンクリート造
新館	1,395㎡	5,598㎡	地下１階地上５階建	鉄骨鉄筋コンクリート造
健診センター・透析センター	1,009㎡	2,919㎡	地下１階地上３階	鉄筋コンクリート造
診療棟	870㎡	870㎡	地上１階	鉄筋コンクリート造

付属設備

医師住宅：2,900㎡　　看護師寮：1,012㎡　　保育所：100㎡　　駐車場：6,873㎡

6　設備概要

設備名	設備内容
電気設備	高圧受電設備 （三相３線　6,600V　60HZ） 非常用発電設備 500KVA　１基　6,600V　60HZ 275KVA　１基　220V　60HZ 250KVA　１基　220V　60HZ 200KVA　１基　220V　60HZ 蓄電池設備 本館・新館各１セット 常用発電設備 350KVA　２基　6,600V　60HZ 中央監視設備、電話設備、放送設備、 テレビ共聴設備、ナースコール、PHS 防災設備、監視カメラ設備
昇　降　機	給食用エレベータ　１基 寝台用エレベータ　３基 乗用エレベータ　２基 小荷物用昇降機　３基

設備名	設備内容
空調設備	排熱投入型冷温水発生機　１基 吸収式冷温水発生機　３基 FCUユニット ヒートポンプパッケージ エアーハンドリングユニット
衛生設備	給水設備、給湯設備、合併処理設備 消火設備 スプリンクラー設備、屋内消火栓、 連結送水管設備、ハロン消火設備 医療ガス設備 酸素、笑気、窒素、圧縮空気、吸引 洗濯設備 自動洗濯機１基、蒸気式乾燥機２基
そ の 他	非常用燃料タンク　5,000ℓ　１機

7　主な医療機器

⑴　病院

医療機器名	数量	医療機器名	数量
X線撮影装置（頭部、骨部、胸腹部）	4	パラフィンブロック作成装置	1
X線透視撮影装置（FPD）	1	電子式診断用スパイロメータ	1
移動型X線撮影装置	2	血圧脈波検査装置	1
外科用TV装置	1	筋電図誘発電位検査装置	1
血管造影撮影システム	1	尿化学分析装置	2
X線コンピュータ断層撮影装置	1	自動浸透圧分析装置	1
磁気共鳴断層撮影装置	1	便潜血分析装置	1
ガンマカメラシステム	1	全自動錠剤分包機	1
骨密度測定装置	1	高圧蒸気滅菌器	2
マンモグラフィー装置	1	エチレンオキサイドガス滅菌装置	1
画像ファイリングシステム	1	全自動超音波洗浄機	1
生化学自動分析装置	2	透析液供給システム	1
全自動免疫化学分析装置	2	人工腎臓装置	26
自動血球計数器	2	人工呼吸器	2
全自動血液ガス分析装置	1	手術用顕微鏡装置	2
全自動グリコヘモグロビン分析装置	2	内視鏡下手術装置	3
自動グルコース測定装置	1	内視鏡ビデオ画像システム	4
全自動凝固測定装置	1	ビデオ軟性鏡	32
凍結組織切片薄切装置	1	マルチカラーレーザー光凝固装置	1
超音波診断装置	10	解析機能付セントラルモニタ	7
長時間心電図記録解析装置	1	重要パラメーター付多項目モニタ	21
心電計	5	麻酔システム	1
心電図ファイリングシステム	1	神経内視鏡	1
脳波計	1	ベッセルシーリングシステム	1
採血管準備システム	1	スリットランプ	2
密閉式自動固定包埋装置	1	自動視野計（ハンフリー）	1
自動視野計（ゴールドマン）	1	除細動器	6
眼底カメラ	1	アルゴンプラズマ凝固装置	1
白内障手術装置	1	アイソレーター	1
シャワーベッド	3	光干渉断層計	1
超音波凝固切開装置	1		

⑵　健康診断センター

医療機器名	数量	医療機器名	数量
X線撮影装置（FPD）	3	眼底カメラ	3
X線透視撮影装置（FPD）	2	眼圧計	1
X線透視撮影装置（I.I）	3	自動体組成計	1
X線透視撮影装置（DR）	1	電子式診断用スパイロメータ	1
骨密度測定装置（前腕DEXA）	1	聴力計	6
画像ファイリングシステム	1	防音聴力検査室	1
超音波診断装置	3	視力計	4
心電計	4		

8　病床数（平成31年３月31日現在）

許可病床：267床　内訳：一般病床175床、療養病床92床

稼働病床：235床　内訳：一般病床143床（急性期78床、地域包括ケア65床）、療養病床92床

9　診療科目

内科　神経内科　心療内科　精神科　呼吸器内科　消化器内科　循環器内科　糖尿病・内分泌内科　小児科
外科　整形外科　脳神経外科　呼吸器外科　皮膚科　泌尿器科　婦人科　眼科　耳鼻いんこう科　放射線科
麻酔科　リハビリテーション科

10　診療受付時間

新患・再診：午前７時30分～午前11時15分　※診療科により午後診療あり

休　診　日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12月29日～１月３日）

11　診療サービス区分

急　性　期　病　棟：急性期一般入院料１

地域包括ケア病棟：地域包括ケア病棟入院料２

療　養　病　棟：療養病棟入院料１

入院時食事療養費（Ⅰ）

12　施設指定等

健康保険医療機関　国民健康保険医療機関　労災指定医療機関　生活保護法指定医療機関
結核予防法指定医療機関　精神通院医療指定医療機関　ＤＰＣ対象医療機関　病院群輪番制医療機関　ほか

13　各学会認定（指定）施設

日本禁煙学会認定教育施設
日本外科学会専門医制度修練関連施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本整形外科学会専門医研修施設
日本総合健診医学会・日本人間ドック学会人間ドック健診専門医制度暫定研修施設
日本脳神経外科学会専門医研修関連施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本病院総合診療医学会認定施設

14　病院開設許可等

申請項目	許可年月日等	備考
病院開設許可	昭和58年２月１日	医第49－9号
保険医療機関指定		平成28年５月１日～平成34年４月30日
労災保険指定医療機関		（昭和31年２月１日）
結核予防法指定医療機関	昭和58年５月１日	
生活保護法指定医療機関		平成28年５月１日～平成34年４月30日
指定自立支援医療機関（精神通院医療）	平成19年２月１日	平成31年２月１日～平成37年１月31日
指定小児慢性特定疾病医療機関		平成27年１月１日～平成32年12月31日
原子爆弾被害者医療指定医療機関		
救急医療協力申出機関（病院群輪番制）		平成29年３月25日～平成32年３月23日
指定難病指定医療機関		平成27年１月１日～平成32年12月31日

15　施設基準

⑴　基本診療料

急性期一般入院基１（２病棟・78床）
地域包括ケア病棟入院料２（２病棟・65床）
療養病棟入院料１（２病棟・92床）
急性期看護補助体制加算（25対１・看護補助者５割以上）
看護職員夜間配置加算１　イ
看護職員配置加算
看護補助者配置加算
看護職員夜間配置加算（１病棟・36床）
在宅復帰機能強化加算（２病棟・92床）
夜間看護加算（２病棟・92床）
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算１
医師事務作業補助体制加算１（30対１）
療養環境加算
重傷者等療養環境特別加算（２病棟・４床）
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算２
医療安全対策地域連携加算２
感染防止対策加算１
感染防止対策地域連携加算
患者サポート体制充実加算
総合評価加算
後発医薬品使用体制加算１
データ提出加算２　ロ（200床未満）
入退院支援加算１
認知症ケア加算１
入院時食事療養／生活療養（Ｉ）

⑵　特掲診療料

糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ・ロ
糖尿病透析予防指導管理料
夜間休日救急搬送医学管理料
救急搬送看護体制加算
ニコチン依存症管理料
がん治療連携指導料
排尿自立指導料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
地域連携診療計画加算
検査・画像情報提供加算
電子的診療情報評価料
医療機器安全管理料１
在宅患者訪問看護・指導料
HPV核酸検出・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
検体検査管理加算（Ⅰ）（Ⅱ）
時間内歩行試験
シャトルウォーキングテスト
神経学的検査
ＣＴ撮影（16列以上64列未満のマルチスライス）
ＭＲＩ撮影（1.5テスラ以上3テスラ未満）
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算１
無菌製剤処理料１
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
がん患者リハビリテーション料
集団コミュニケーション療法料
人工腎臓：慢性維持透析を行った場合１
導入期加算１
透析液水質確保加算
慢性維持透析濾過加算
センチネルリンパ節生検（単独法）
ペースメーカー移植術
ペースメーカー交換術
大動脈バルーンパンピング法（IABP）
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
手術の通則５及び６に掲げる手術
胃瘻造設術
輸血管理料Ⅱ
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
在宅療養後方支援病院

16　病院組合議会

○　平成30年５月30日　臨時会

・　副議長選挙

・　議案

議案番号	件　名	議　決 年月日	議決の 結　果
議第８号	静岡県市町総合事務組合規約の変更について	H30.５.30	原案可決

○　平成30年９月３日　定例会

・　議案

議案番号	件　名	議　決 年月日	議決の 結　果
認第１号	平成29年度共立蒲原総合病院組合病院事業会計決算認定について	H30.９.３	原案認定
認第２号	平成29年度共立蒲原総合病院組合介護老人保健施設事業会計決算認定について	H30.９.３	原案認定
議第９号	平成30年度共立蒲原総合病院組合病院事業会計補正予算（第１号）について	H30.９.３	原案可決
議第10号	共立蒲原総合病院組合職員の分限に関する条例の一部を改正する条例制定について	H30.９.３	原案可決

○　平成31年３月25日　定例会

・　議案

議案番号	件　名	議　決 年月日	議決の 結　果
議第１号	平成30年度共立蒲原総合病院組合病院事業会計補正予算（第２号）について	H31.３.25	原案可決
議第２号	平成30年度共立蒲原総合病院組合介護老人保健施設事業会計補正予算（第１号）について	H31.３.25	原案可決
議第３号	平成31年度共立蒲原総合病院組合病院事業会計予算について	H31.３.25	原案可決
議第４号	平成31年度共立蒲原総合病院組合介護老人保健施設事業会計予算について	H31.３.25	原案可決
議第５号	共立蒲原総合病院組合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例制定について	H31.３.25	原案可決
議第６号	共立蒲原総合病院組合監査委員の選任につき同意を求めることについて	H31.３.25	原案同意

17　院内会議及び委員会

委員会	目　的				
	委員長	副委員長	委　員	開催日	事務局
正副管理者会議	病院経営に関する事項の審議				
	富士市長	静岡市長 富士宮市長	院長 副院長 看護部長 診療技術部長 事務長 医事経営課長 総務課長 施設物品課長 地域医療支援室長 営業課長 介護長 管理課長	必要時	総務課長
管理会議	病院運営全般についての意思決定及び連絡調整を行う。				
	院長 西ヶ谷和之	副院長	医局長 看護部長 副看護部長 診療技術部(薬局長・技師長) 健診技師長 事務長 医事経営課長 総務課長 施設物品課長 営業課長 地域医療支援室長 介護長 管理課長	第４木曜	総務課長
病院改革委員会	病院経営上の重要課題について協議し、病院の円滑な運営を図る。				
	(休会)				
医療機器等購入選定委員会	購入し使用する診療材料、医療機器等の審査・検討及び採用、廃止に関する事項を検討し、機器の適正かつ効率的な購入を図る				
	院長 西ヶ谷和之	副院長	看護部長 薬局長 技師長 健診技師長 事務長 医事経営課長 総務課長 施設物品課長 施設物品課(五十嵐) 臨床工学技士(岩堀)	必要時	施設物品課長
運営連絡会議	管理会議での決定事項の伝達等を行い、病院の円滑な運営を図る。				
	(休会)				
医療倫理委員会	医療の倫理と患者の人権保護に関する基本的事項を審議し、あわせて病院職員の倫理意識の向上を図る。				
	管理会議にて			必要時	総務課長
医療事故防止対策委員会	患者及び医療従事者の安全管理を図り、事故原因の分析・調査等を検討し、防止対策の提案を図る。				
	院長 西ヶ谷和之	副院長	診療部(真鍋・後藤・奥田) 看護部長 医療安全管理室看護師長 診療技術部(薬局長・技師長) 事務長医事経営課長 総務課長	必要時	医療安全管理室看護師長
医療安全管理委員会	事故原因分析や事故防止の具体策等について、調査・検討し、迅速に職場にフィードバックする。				
	内科部長 真鍋雄一	医療安全管理者 小林千也子	看護部(渡辺・佐藤・麻布) 薬局長 臨床工学技士(岩堀) 診療技術部(柚木・佐野・神谷) 健診営業課(星﨑) 総務課(廣野)	月１回	総務課
防災管理委員会	防火管理業務及び地震防災応急計画のマニュアルを作成し、火災・地震その他の災害防止を図る。				
	院長 西ヶ谷和之	副院長 看護部長 事務長	診療部(後藤・野口) 看護部(渡辺・高井) 診療技術部(薬局長・技師長) 健診技師長 栄養管理(中西) 施設物品課長 管理課長 医事経営課長 営業課長 総務課長　施設物品課物品担当	必要時	施設物品課施設担当
防災部会	防災管理委員会の下部組織として、火災、震災の発生に対処するために防災の基本的事項について審議する。				
	外科部長 後藤秀樹		事務長 看護部(渡辺・高井) 診療技術部(浅見・竹下・佐野智・鈴木健) 栄養管理 健診技術科(佐野吉) 老健(望月・金子) 医事経営課(齋藤) 営業課(細田) 総務課(廣野) 施設物品課長 施設物品課４人	月１回	施設物品課
衛生委員会	労使が互いに協力し、労働条件の改善等を通じて職場における職員の安全と健康を確保するための審議を行う。				
	薬局長 久保田倫代		副院長(谷若) 看護部長 事務長 介護長 職員組合(笠井・田中裕・小林史) 健診主任保健師 総務課(石川) 営業課長 管理課(望月)	月１回	健診主任保健師、総務課、営業課長、管理課
給食委員会	入院患者の食事、栄養等を審査・検討し、その改善・向上を図る。				
	内科医長 古川卓		診療部(野口武) 看護部(佐藤・麻布・山島・伊藤・岩崎・松永・手塚・後藤) 言語聴覚士(青島) 栄養管理(中西・石川) 施設物品課(川上) 委託職員(宮本・勝又・添野)	月１回	栄養管理
薬事審議委員会	薬品の新規採用及び変更について審議、検討をする。				
	副院長 谷若弘一		診療部(河合・真鍋・後藤・奥田) 薬局長 副看護部長 医事経営課参事補 主任薬剤師(井出・竹下)	３月１回	主任薬剤師
治験審議委員会	治験実施に関して、その必要性を審議・検討をする。				
	副院長 谷若弘一		診療部(河合・真鍋・後藤・奥田) 副院長兼看護部長 薬局長 主任薬剤師 医事経営課(佐野・望月) 富士市健康対策課・介護保険課	必要時	医事経営課(望月)
院内感染防止対策委員会	患者及び職員等の院内感染の発生防止、感染症が発生した際の対応を検討する。				
	院長 西ヶ谷和之		診療部(真鍋・野口正) 看護部(今井・佐野・佐藤・鈴木・若林・桑原) 医療安全管理室看護師長 薬局長 健診技師長 検査科技師長 放射線科技師長 リハビリ科(藤巻) 栄養管理(中西) 事務長 総務課(永井)	月１回	総務課(永井)
ＩＣＴ部会	院内感染率を現場の医療従事者にフィードバックし、感染リスクの低減のための職員教育を行いケアの改善を図る。				
	看護師長 佐藤八千代		診療部(真鍋) 看護部(鈴木智・桑原) 検査科(熊井) 薬局(渡辺) リハビリ科(藤巻) 医事経営課(佐野)	月２回	医事経営課(佐野)
放射線安全管理委員会(休会)	電離放射線について、安全管理を検討・調査する。				
	(休会)				

医療ガス管理委員会	医療ガスの使用状況や設備に関する事項について協議し、適切な医療ガスの管理を促進する。				
	院長 西ヶ谷和之		医療安全管理室看護師長 看護部(岩崎・若林) 臨床工学技士(岩堀) 薬局長 放射線科技師長 検査科技師長 事務長 施設物品課長 施設物品課(井出・勝又・川上)	年１回 必要時	施設物品課(井出・勝又・川上)
救急業務委員会	救急業務の円滑な運営を図るため、救急診療に関する事項について審議する。				
	内科科長 野口武雄		診療部(真鍋・後藤・奥田・加藤) 看護部(今井・高井・山本) 薬局(佐野) 検査科技師長 放射線科技師長 総務課長 医事経営課(望月)	２月１回及び必要時	医事経営課(望月)
救急部会	救急業務委員会の下部組織として委員会への提言、又は委員会からの問題点等を整理する。				
	看護師長 高井裕美		看護部(山本・伊東・石川・西山・小田・小林・岡田・大村・内垣内) 健診技術科(河辺) 放射線科(岩本) 検査科(近藤) リハビリ科(伊東) 薬局(川名) 総務課(村上)	必要時	総務課(村上)
手術業務委員会	手術室・中央滅菌室の円滑な運営を図り、関係各診療科間の調整を図る。				
	外科部長 後藤秀樹		診療部(加藤) 看護部(佐藤・久保田) 薬局(井出) 臨床工学技士(岩堀)	２月１回	臨床工学技士(岩堀)
輸血療法委員会	患者への安全な血液製剤の提供と適正使用の推進を図る。				
	副院長 河合勉		診療部(中島・加藤) 看護部(小林・遠藤・小野) 薬局(川名) 検査科(勝又) 医事経営課(岩﨑)	２月１回	検査科(勝又)
地域医療支援委員会	紹介患者を介し地域医療機関との連携を図る。				
	副院長 河合勉		診療部(野口・中島) 地域医療支援室長 地域医療支援室(蛭川) 看護部(髙井・伊藤・鈴木智・後藤) 放射線科技師長 検査科(山田) 薬局(漆畑) リハビリ科(漆畑) 事務長 医事経営課長	３月１回	地域医療支援室(蛭川)
クリニカルパス委員会	各種クリニカルパスの推進を図り、医療の標準化を目指す。				
	外科部長 後藤秀樹		診療部(加藤) 看護部(渡辺・伊藤・松永) 放射線科(澤瀬) 検査科(山田) リハビリ科(曾根) 薬局(矢野) 栄養管理(依田) 医事経営課長 医事経営課(松原・岩﨑)	月１回	医事経営課(岩﨑)
保険診療委員会	適切な保険診療を遂行するため、査定対策・情報の伝達・疑義の検討等を実施、医療収益の確保を図ると共に、臨床検査の精度管理をする。				
	副院長 谷若弘一		診療部(真鍋) 看護部(今井・松永) 検査科(山田) 放射線科技師長 リハビリ科(早川) 薬局(井出) 医事経営課長 医事経営課(佐野) 医事担当(全員) 委託職員	月１回	委託職員(曽我)
個人情報保護委員会	個人情報保護に関する諸問題について審議する。				
	事務長 吉田和義		看護部(今井・佐藤・小林) 薬局(井出) 検査科(稲葉) 放射線科(澤瀬) リハビリ科(三上) 営業課長 老健主任看護師(舩木) 老健支援相談員(佐藤) 総務課(村上) 医事経営課(佐野・丹野・佐々木)	年２回	医事経営課(佐々木)
病院情報システム委員会	新たな病院情報システムの企画・仕様・運用の検討、実施と運用の管理と、既存の病院情報システムの規格・運用変更の検討、実施を病院全体の観点で運営していく。				
	副院長 河合勉		看護部(今井・高井・松永) 薬局長 薬局(竹下) 検査科技師長 検査科(鈴木) 放射線科(中村) リハビリ科(川上) 営業課(小林) 医事経営課(佐野・松原・丹野)	月１回	医事経営課(松原・丹野)
ファイルメーカー標準化部会	既存のファイルメーカーの標準化規格の検討、ソフトウェアの改修・保守と新たなシステム化の検討及び開発、保守を行う。				
	副院長 河合勉	検査科副技師長 野澤政史	看護部(高井・松永・稲葉) 薬局(漆畑) 検査科(田中) 放射線科(中村) リハビリ科(小野田) 健診技術科(鈴木昭) 医事経営課(松原・丹野)	月１回	医事経営課(松原・丹野)
診療材料委員会	医療機器、診療材料等のコスト調査、検討、選定を行い診療機材等の購入、整理に資することを目的とする。				
	副院長兼看護部長 今井碧		診療部(中島) 看護部(麻布・小林) 臨床工学技士(岩堀) 薬局(佐野) 検査科(中西) 放射線科(谷本) 事務長 施設物品課長 施設物品課(五十嵐)	月１回	施設物品課(五十嵐)
診療録管理委員会	診療録・医学資料の保存、廃棄について検討し、診療録の管理運営を適正に行なう。診療録の記載内容についても検討、診療録の質向上を図る。				
	小児科部長 奥田裕朗		看護部(伊藤・松永) 薬局(漆畑) 放射線科技師長 検査科(稲葉) リハビリ科副技師長 医事経営課(松原・齋藤・沖・佐々木・仲川)	２月１回	医事経営課(沖・佐々木・仲川)
ＤＰＣ委員会	適切なコーディングによる保険請求の向上を目的とする。				
	院長 西ヶ谷和之	外科科長 中島亨	看護部(今井・麻布) 薬局(渡辺) 放射線科(澤瀬) 検査科(稲葉) リハビリ科技師長 医事経営課(沖・佐々木) 医事担当(全員)	３月１回	医事経営課(沖・佐々木)
肝炎対策委員会	肝炎疾病の対策を目的とする。				
	副院長 河合勉		診療部(松田) 看護部(麻布・渡辺) 放射線科(澤瀬) 検査科(勝又) 薬局(漆畑) 地域医療支援室(蛭川)	月１回	地域医療支援室(蛭川)
褥瘡対策委員会	褥瘡対策における管理、評価を行い褥瘡対策の質の向上を図る。				
	皮膚科 松田めぐみ		診療部(野口) 看護部(後藤・久保・村上・澤田・平尾) 薬局(井出) リハビリ科(飯田) 栄養管理(石川) 検査科(勝又)	２月１回	

ＮＳＴ委員会	栄養に関わる問題点の抽出と評価を行い、患者の栄養状態の改善や早期快復に向けたチーム医療活動に関する事項を審議する。				
	内科医長 古川卓		看護部(渡辺・久保・村上・小野・藤崎・中谷・見上・栗田・遠藤) 薬局(井出) 検査科(勝又) リハビリ科(青島) 栄養管理(中西・石川) 医事経営課(沖)	月１回	医事経営課(沖)
接遇委員会	医療職としてふさわしい接遇マナーの浸透を図る。職員一人ひとりの接遇マナー「挨拶・身だしなみ・態度・言葉遣い」の向上を図る。				
	看護師長 若林孝子		看護部(上野・篠原) 薬局(鈴木) 検査科(浜田) 営業課(米山) 医事経営課(清成) 委託職員(曽我) 老健(佐伯) 総務課(永井・芹澤)	２月1回	総務課(永井・芹澤)
健康診断センター委員会	新規事業や継続事業を円滑に実施するために病院各部署との連携及び調整を行う。事業計画や損益状況を院内各部署及びセンター内で確認し、今後の事業運営について審議する。				
	副院長 谷若弘一		看護部(今井・大川・渡辺) 検査科技師長 健診副技師長 放射線科技師長 営業課長 営業課(星﨑・細田・小林)	月１回	健診営業課(細田・小林)
臨床検査適正化委員会	臨床検査を適生かつ円満に遂行することを目的とする。				
	副院長 河合勉		診療部(中島) 看護部(渡辺・小野) 検査科技師長 健診副技師長 医事経営課(望月) 検査科(勝又)	年３回以上	検査科(勝又)
院外広報委員会	広報誌の編集・発行をはじめ、広報全般について審議する。				
	地域医療支援室 蛭川昭章		看護部(若林・岡田・遠藤) 薬局(佐野) 健診副技師長 リハビリ科(増田) 健診技術科(鈴木) 事務長 医事経営課(斉藤)	必要時	医事経営課(斉藤)
医師負担軽減対策委員会	医師業務の緩和を目的とする。				
	整形外科科長 加藤純一郎		診療部(宇山) 看護部(今井・伊藤・高井) 薬局長 検査科技師長 リハビリ科技師長 放射線科技師長 事務長 医事経営課長 総務課長 医事経営課(佐野・若林)	年２回	医事経営課(若林)
リスクマネージャー部会	各部署の医療安全対策を推進することを目的とする。				
			看護部(小川・篠原・村松・小永井・大村・地田・窪田・佐野・勝又・遠藤・大畑) 薬局(山本) 検査科(芳川) 放射線科(柚木) リハビリ科(上原) 営業課(田辺) 総務課(山本) 医事経営課(清)	月１回	医療安全管理室
外来化学療法委員会	化学療法の円滑な推進を図る。				
	副院長 谷若弘一		診療部(河合・後藤) 看護部(松永・上野・有永・藤原・遠藤和) 薬局(竹下・鈴木・川名) 医事経営課(齋藤)	必要時	薬局
看護職員負担軽減対策委員会	看護職員業務の緩和を目的とする。				
	副院長兼看護部長 今井碧		看護部(山島・高井・麻布) 薬局長 検査科技師長 リハビリ科技師長 放射線科技師長 事務長 総務課(山本)	月１回	総務課(山本)
透析液清浄化委員会	安全な透析治療の提供のための透析液清浄化を目的とする。				
	臨床工学技士 岩堀光宏		手塚看護師長 臨床工学技士(篠原・渡辺・重橋・石川)		臨床工学技士(石川)
業務改善委員会	組織及び経営の効率化を検討することを目的とする。				
	院長 西ヶ谷和之	副院長	医局長 看護部長 副看護部長 診療技術部(薬局長・技師長) 健診技師長 事務長 医事経営課長 施設物品課長 営業課長 管理課長 総務課長 医事経営課(佐野)	必要時	医事経営課(佐野)
認知症・せん妄ケア委員会	認知症患者の認知症症状の悪化を予防し、身体疾患の治療を円滑に受け入れられるよう環境調整やコミュニケーションの方法等について評価や検討を行うことを目的とする。				
	院長 西ヶ谷和之	認知症看護認定看護師 齋藤美和	薬局(竹下) リハビリ科(鈴木) 地域医療支援室(原) 看護部(山島・岩崎・後藤・大垣・伏見) 医事経営課(岩﨑)	月１回	医事経営課(岩﨑)
健康フェスタ実行委員会	健康フェスタを開催する。				
	看護師長 佐藤八千代		施設物品課参事 放射線科技師長 検査科(島) リハビリ科(増田) 薬局(山本) 看護部(久保田・岡田) 健診(綿野) 医事経営課長 施設物品課(五十嵐) 老健(佐野)	必要時	医事経営課長
ＲＩＳ部会	ＲＩＳを円滑に運用することを目的とする。				
	検査科副技師長 野澤政史		リハビリ科(川上) 放射線科(澤瀬・中村) 看護部(高井) 健診技師長 検査科(稲葉) 医事経営課(松原・丹野) 委託(曽我・望月)	必要時	医事経営課
患者満足度調査ワーキンググループ	外来・入院患者の実態や当院への評価・満足度を把握し、その問題点の改善や満足度の向上に役立てることを目的とする。				
	看護師長 小林千也子		看護部(上野) 健診(河辺) リハビリ科(遠藤) 医事経営課長 医事経営課(佐野・丹野)	必要時	医事経営課
電子カルテシステム導入委員会	電子カルテシステムを円滑に運用することを目的とする。				
	院長 西ヶ谷和之	副院長兼看護部長	診療部(河合・谷若・野口武) 薬局(渡辺) 放射線科(中村) 検査科技師長 リハビリ科(曾根) 栄養管理(石川) 看護部(若林・髙井・松永・稲葉・錦織) 医事経営課長 健診(鈴木) 医事経営課(佐野・松原・丹野・佐々木)	月１回	医事経営課

18　病院情報システム

平成31年３月現在

診察券発行機
（ドッドウェル）

自動再来受付機
（アルメックス）

窓口精算機
（アルメックス）

自動紙カルテ検索
（イトーキ）

診療情報統合管理ｼｽﾃﾑ
（インフォコム）

診療情報提供書
（インフォコム）

診断書作成
（インフォコム）

病歴管理・DPC コーディング
（インフォコム）

様式１入力支援
（インフォコム）

院内がん登録
（インフォコム）

地域連携診療支援
（インフォコム）

電子署名
（インフォコム）

調剤支援
（ユヤマ）

病棟業務支援
（ユヤマ）

医薬品統合 DB
（ユヤマ）

医事会計システム
（明円ソフト開発）

電子カルテシステム
（ＮＴＴ ＤＡＴＡ、ＣＳＩ、ＭＣＳ）

【診療記録】
・基本機能
・診療記録

【参照】
・放射線レポート
・PACS 画像
・生理画像

【看護部門】
・看護支援システム
・医療過誤防止支援
（バーコード認証）
・褥瘡、転倒転落
・看護必要度、勤務計画
・Ｈファイル

【クリニカルパス】

【文書作成】

【サマリー機能】

【多目的 DB(DWH)】

【オーダリング】
・処方オーダ
・注射オーダ
・処置オーダ
・外来化学療法オーダ
・服薬指導オーダ
・検体検査オーダ
・手術オーダ
・生理検査オーダ
・内視鏡オーダ
・病理検査オーダ
・輸血オーダ
・リハビリオーダ
・画像、生理オーダ
・食事オーダ
・栄養食事指導オーダ
・予約オーダ
・入退院、転科転棟
・病名オーダ

【参照用 WEB カルテ】

検査システム
（システムサプライ）

輸血システム
（システムサプライ）

ＲＩＳ
（システムサプライ）

ＰＡＣＳ
（スリーゼット）

放射線レポーティング
（院内開発）

人間ドック胸部経時差分処理
（フクダ電子）

心電図管理
（フクダ電子）

脳波管理
（日本光電）

リハビリ部門
（タック）

栄養管理
（タス）

健康診断
（システムサプライ）

健康診断支援
（院内開発）

人工透析支援
（ノーザ）

レセプト審査支援
（日立メディカル）

ＤＰＣ分析
（メディカル・データ・ビジョン）

手術管理
（院内開発）

訪問看護ステーション
（ワイズマン）

核医学解析
（AZE）

遠隔読影
（PSP）

手術動画記録
（院内開発）

薬品発注在庫管理
（メディセオ）

給与管理
（日通システム）

財務管理
（フューチャーイン）

出退勤人事管理
（アマノ）

物流管理
（メディアスホールディングス）

グループウェア
（ネオジャパン）

機器資産管理
（SKY）

院内端末認証
（ジャパンシステム）

インターネット仮想化
（ジャパンシステム）

Ⅲ　経営

1　業務概況

平成30年度は、婦人科、泌尿器科、整形外科、内科の常勤医師採用に伴い、診療体制の拡充が図られ、入院収益の増加、外来収益の増加となりました。また、10月には健康診断センター専属の常勤医師の採用が実現した事で、非常勤医師の雇用を抑えるなど健康診断センター収支の改善につながっております。

医師不足による診療体制の縮小は徐々に改善しておりますが、依然として、非常勤医師への依存が高いことで、高コスト体質となりますので、特に常勤医師が不在の診療科について、常勤化に努めて参ります。

以下、事業概況について報告いたします。

⑴　業務の状況

延入院患者数は74,929人(１日平均205.3人)、延外来患者数は78,037人(１日平均319.8人)で、前年度と比較して、入院患者につきましては、1,847人(2.5%)増加し、外来患者につきましては、590人(0.8%)増加いたしました。

また、病床稼働率は87.4%(急性期病床80.5%、地域包括ケア病床82.0%、療養病床97.0%)で、前年度に比べ2.2%上昇いたしました。

⑵　事業収支について

入院収益及び外来収益の状況は、前年度と比較し、入院では1億7,129万6,912円(7.6%)の増加（急性期病床6,928万6,972円増、地域包括ケア病床5,840万9,814円増、療養病床4,360万126円増）、外来では3,890万5,910円(4.5%)の増となり、入院及び外来収益合計では、2億1,020万2,822円（6.7%）の増となりました。患者1人1日当たりの診療収入では入院32,303円(急性期病床47,023円、地域包括ケア病床33,827円、療養病床21,033円)、外来11,668円であり、前年度と比較し入院では1,528円(5.0%)の増(急性期病床600円増、地域包括ケア病床1,363円増、療養病床1,538円増)、外来では413円(3.7%)の増となりました。これらに、当年度純損失補填分3億6,795万3,082円の他会計補助を含む医業外収益及び附帯事業収益を加えた病院事業収益の合計は、前年度と比較し、2億3,234万3,105円(4.7%)の増で計51億6,794万7,527円となりました。

一方、事業に要した費用では、前年度と比較し減価償却費が、8,005万2,889円(24.5%)、給与費が5,732万595円(2.0%)の増、経費で4,091万2,467円(7.3%)の増、材料費で3,304万7,275円(8.1%)増加いたしました。これらに、医業外費用及び附帯事業費用を加えた病院事業費用全体では、2億3,234万3,105円(4.7%)の増で計51億6,794万7,527円となりました。

この結果、実質収支では、3億6,795万3,082円の純損失となりました。

⑶　資本的収支について

資本的収入は、看護師等修学資金返還による69万円、企業債9,000万円を主財源として事業を進めて参りました。

資本的支出は、施設改良費として非常用発電機更新工事に7,452万円、液化酸素タンク更新工事に1,695万6,000円、照明ＬＥＤ化工事で982万8,000円を実施し、固定資産購入では、健診レントゲン車の更新、超音波診断装置2台、一般Ｘ線撮影装置2台、透析監視装置7台の更新など1億5,800万6,824円を整備いたしました。このほか、リース債務の支払いに316万9,521円、看護師等修学資金の貸与に1,548万円、企業債の償還に3億554万3,885円など合計5億8,350万4,230円となりました。

この結果、資本的収支の不足額4億9,281万4,230円は当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額1,920万986円及び過年度分損益勘定留保資金4億7,361万3,244円で補填致しました。

2　業務実績

区　分				単位	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
収益	患者１人１日当たり診療収入	入院	薬品収益	円	241	145	162	169	137
			検査収益		134	100	77	67	77
			Ｘ線収益		37	41	36	29	31
			その他収益		30,080	29,913	30,192	30,510	32,058
			計		30,492	30,199	30,467	30,775	32,303
		外来	薬品収益	円	500	470	518	543	562
			検査収益		3,152	3,281	3,356	3,312	3,309
			Ｘ線収益		1,402	1,461	1,450	1,435	1,533
			その他収益		6,233	5,990	5,787	5,965	6,264
			計		11,287	11,202	11,111	11,255	11,668
	診療収入構成比	薬品収益		%	1.9	1.6	1.7	1.7	1.6
		検査収益			8.7	8.7	8.7	8.4	7.9
		Ｘ線収益			3.8	3.9	3.8	3.6	3.6
		その他の収益			85.6	85.8	85.8	86.3	86.9
	職員１人１日当たり診療収益	医師		円	428,984	418,921	415,246	387,528	408,507
		看護部門			56,747	56,578	55,292	57,735	63,008
費用	費用構成比	給与費		%	61.7	64.7	65.5	66.0	64.0
		材料費			10.5	9.6	9.5	9.5	9.8
		うち薬品費			5.6	4.8	4.6	4.9	4.7
		その他材料費			4.9	4.7	4.9	4.6	5.1
		減価償却費			7.5	6.9	7.2	7.6	9.0
	患者１人１日当たり材料費	薬品費		円	1,519	1,283	1,238	1,395	1,378
		診療材料費			1,310	1,260	1,323	1,328	1,518
		給食材料費			0	0	0	0	0
	対医業収益比	給与費		%	74.3	77.2	79.1	82.7	79.3
		材料費			12.7	11.4	11.4	11.9	12.1
		うち薬品費			6.8	5.7	5.5	6.1	5.8
患者状況	１日平均患者数	入院		人	192.4	199.6	200.0	200.2	205.3
		外来			341.7	333.3	327.4	317.4	319.8
	外来・入院比率			%	118.7	110.9	109.0	106.0	104.1
	職員１人１日当たり患者数	医師	入院	人	9.8	9.9	9.8	9.1	9.2
			外来		11.6	10.9	10.6	9.6	9.6
		看護部門	入院	人	1.3	1.3	1.3	1.4	1.4
			外来		1.5	1.5	1.4	1.4	1.5
病床100床当たり職員数		医師		人	6.8	6.4	6.4	7.2	8.1
		看護部門			99.1	100.1	104.0	103.5	97.7
		薬剤部門			4.6	4.1	5.0	5.5	5.9
		検査部門			5.5	6.0	6.0	6.0	5.5
		Ｘ線部門			4.5	4.5	4.5	4.5	4.9
		リハビリ部門			8.1	8.1	8.1	9.0	9.0
		臨床工学部門			1.3	1.3	1.3	2.1	2.1
		栄養部門			1.7	1.3	1.3	1.3	1.3
		事務部門			17.3	19.0	20.6	19.7	18.4
		全職員			148.9	150.8	157.2	158.8	153.0

※　附帯事業（健康診断センター及び訪問看護ステーション）は除く。

3　損益計算書

（単位：円）

1　医業収益			
(1) 入院収益	2,420,408,176		
(2) 外来収益	910,556,298		
(3) 他会計負担金	243,983,000		
(4) その他医業収益	75,292,056	3,650,239,530	
2　医業費用			
(1) 給与費	2,893,588,956		
(2) 材料費	442,922,488		
(3) 経費	598,908,762		
(4) 減価償却費	406,674,998		
(5) 資産減耗費	9,470,568		
(6) 研究研修費	10,977,187	4,362,542,959	
医業損失			712,303,429
3　医業外収益			
(1) 受取利息及び配当金	41,306		
(2) 他会計負担金	405,199,000		
(3) 他会計補助金	367,953,082		
(4) 国県補助金	422,000		
(5) 長期前受金戻入	30,822,089		
(6) その他医業外収益	58,544,665	862,982,142	
4　医業外費用			
(1) 支払利息及び企業債取扱諸費	51,139,888		
(2) 保育所運営費	21,310,364		
(3) 雑損失	81,372,766		
(4) 消費税及び地方消費税	5,363,608	159,186,626	703,795,516
5　附帯事業収益			
(1) 健康診断センター収益	568,659,124		
(2) 訪問看護ステーション収益	86,066,731	654,725,855	
6　附帯事業費用			
(1) 健康診断センター費用	559,987,287		
(2) 訪問看護ステーション費用	86,230,655	646,217,942	8,507,913
経常利益			0
当年度純利益			0
前年度繰越利益剰余金			0
当年度未処理利益剰余金			0

4　貸借対照表

（単位：円）

資　産　の　部

1 固定資産			
⑴ 有形固定資産			
イ 土地		1,195,405,594	
ロ 建物	9,306,746,920		
減価償却累計額	△ 6,667,476,978	2,639,269,942	
ハ 構築物	416,810,602		
減価償却累計額	△ 376,901,560	39,909,042	
ニ 器械備品	1,444,329,748		
減価償却累計額	△ 934,001,918	510,327,830	
ホ 車両	302,689,078		
減価償却累計額	△ 212,266,293	90,422,785	
ヘ リース資産	20,330,763		
減価償却累計額	△ 6,367,596	13,963,167	
有形固定資産合計			4,489,298,360
⑵ 無形固定資産			
イ ソフトウェア		343,147,440	
無形固定資産合計			343,147,440
⑶ 投資			
イ 長期貸付金	37,440,000		
長期貸付金貸倒引当金	△ 8,640,000	28,800,000	
ロ 破産更生債権等	3,962,472		
破産更生債権等貸倒引当金	△ 3,962,472	0	
ハ その他投資		43,285,156	
投資合計			72,085,156
固定資産合計			4,904,530,956
2 流動資産			
⑴ 現金預金			593,547,208
⑵ 未収金			
イ 医業未収金	544,430,189		
ロ 医業外未収金	385,067,942		
ハ 健康診断センター未収金	95,265,299		
ニ 訪問看護ステーション未収金	13,401,972		
未収金合計		1,038,165,402	
未収金貸倒引当金		△ 1,440,852	1,036,724,550
⑶ 貯蔵品			
イ 薬品		9,916,937	
ロ 診療材料		19,625,573	
貯蔵品合計			29,542,510
⑷ 前払費用			819,051
⑸ その他流動資産			2,312,974
流動資産合計			1,662,946,293
資産合計			6,567,477,249

（単位：円）

負　債　の　部

3　固　定　負　債			
⑴　企　業　債			
イ　建設改良費等の財源に充てるための企業債	1,498,115,561		
企　業　債　合　計		1,498,115,561	
⑵　リ　ー　ス　債　務		4,592,947	
固　定　負　債　合　計			1,502,708,508
4　流　動　負　債			
⑴　企　業　債			
イ　建設改良費等の財源に充てるための企業債	290,992,641		
企　業　債　合　計		290,992,641	
⑵　リ　ー　ス　債　務		2,345,766	
⑶　未　払　金			
イ　医　業　未　払　金	79,457,858		
ロ　医　業　外　未　払　金	12,272,200		
ハ　そ　の　他　未　払　金	130,847,291		
未　払　金　合　計		222,577,349	
⑷　未　払　費　用		14,852,795	
⑸　引　当　金			
イ　賞　与　引　当　金	164,473,567		
ロ　そ　の　他　引　当　金	30,204,415		
引　当　金　合　計		194,677,982	
⑹　そ　の　他　流　動　負　債			
イ　預　り　金	33,614,083		
その他流動負債合計		33,614,083	
流　動　負　債　合　計			759,060,616
5　繰　延　収　益			
長　期　前　受　金		1,313,976,676	
長期前受金収益化累計額		△ 993,113,595	
繰　延　収　益　合　計			320,863,081
負　債　合　計			2,582,632,205

資　本　の　部

6　資　本　金			
⑴　自　己　資　本　金			
イ　固　有　資　本　金	55,907,420		
ロ　繰　入　資　本　金	2,810,080,869		
ハ　組　入　資　本　金	1,000,327,524		
自　己　資　本　金　合　計		3,866,315,813	
⑵　借　入　資　本　金		0	
資　本　金　合　計			3,866,315,813
7　剰　余　金			
⑴　資　本　剰　余　金			
イ　補　助　金	34,101,356		
ロ　その他資本剰余金	1,427,875		
資　本　剰　余　金　合　計		35,529,231	
⑵　利　益　剰　余　金			
イ　減　債　積　立　金	83,000,000		
ロ　当年度未処理欠損金	0		
利　益　剰　余　金　合　計		83,000,000	
剰　余　金　合　計			118,529,231
資　本　合　計			3,984,845,044
負　債　資　本　合　計			6,567,477,249

Ⅳ　診療統計

1　入院

(1)　入院総括

			H26年度※2	H27年度	H28年度※3	H29年度	H30年度
一般病棟※1	急　性　期	入院患者延数	31,504人	30,061人	25,016人	21,723人	22,919人
		病床稼働率	76.6%	77.5%	74.5%	76.3%	80.5%
		一日平均患者数	86.3人	82.1人	68.5人	59.5人	62.8人
		稼働病床数	133→106床	106床	106→78床	78床	78床
		平均在院日数	16.4日	15.5日	13.5日	12.5日	12.9日
	亜 急 性 期	入院患者延数	661人	－	－	－	－
		病床稼働率	72.6%	－	－	－	－
		一日平均患者数	7.3人	－	－	－	－
		稼働病床数	10→0床	－	－	－	－
	地域包括ケア	入院患者延数	7,758人	10,835人	14,965人	18,461人	19,444人
		病床稼働率	76.5%	80.0%	80.5%	77.8%	82.0%
		一日平均患者数	28.3人	29.6人	41.0人	50.6人	53.3人
		稼働病床数	37床	37床	37→65床	65床	65床
	計	入院患者延数	39,923人	40,896人	39,981人	40,184人	42,363人
		病床稼働率	76.5%	78.1%	76.6%	77.0%	81.2%
		一日平均患者数	109.4人	111.7人	109.5人	110.1人	116.1人
		稼働病床数	143床	143床	143床	143床	143床
療養病棟		入院患者延数	30,316人	32,144人	33,025人	32,898人	32,566人
		病床稼働率	90.3%	95.5%	98.3%	98.0%	97.0%
		一日平均患者数	83.1人	87.8人	90.5人	90.1人	89.2人
		稼働病床数	92床	92床	92床	92床	92床
全 病 棟		入院患者延数	70,239人	73,040人	73,006人	73,082人	74,929人
		病床稼働率	81.9%	84.9%	85.1%	85.2%	87.4%
		一日平均患者数	192.4人	199.6人	200.0人	200.2人	205.3人
		稼働病床数	235床	235床	235床	235床	235床
稼働日数			365日	366日	365日	365日	365日

※1　一般病棟の人間ドック用病床10床は除く。
※2　H26年度　病棟再編により「亜急性期」は平成26年６月まで、「地域包括ケア」は平成26年７月から稼働した。
※3　H28年度　病棟再編により平成28年10月から、「急性期」78床、「地域包括ケア」65床で稼働した。

(2)　診療科別入院患者延数

診療科	H26年度			H27年度			H28年度			H29年度			H30年度		
	患者延数(人)	1日平均患者数(人)	構成比(%)	患者延数(人)	1日平均患者数(人)	構成比(%)	患者延数(人)	1日平均患者数(人)	構成比(%)	患者延数(人)	1日平均患者数(人)	構成比(%)	患者延数(人)	1日平均患者数(人)	構成比(%)
内科	46,885	128.5	66.8	42,406	115.9	58.1	43,977	120.5	60.2	44,278	121.3	60.6	45,536	124.8	60.8
神経内科	－	－	－	－	－	－	1	0.0	0.0	－	－	－	－	－	－
外科	10,225	28.0	14.6	11,745	32.1	16.1	7,229	19.8	9.9	5,546	15.2	7.6	4,982	13.6	6.6
整形外科	3,931	10.8	5.6	5,280	14.4	7.2	4,971	13.6	6.8	6,554	18.0	9.0	8,656	23.7	11.6
脳神経外科	9,147	25.1	13.0	13,536	37.0	18.5	16,740	45.9	22.9	16,685	45.7	22.8	14,321	39.2	19.1
皮膚科	51	0.1	0.1	64	0.2	0.1	88	0.2	0.1	19	0.1	0.0	－	－	－
泌尿器科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1,352	3.7	1.8
婦人科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	82	0.2	0.1
眼科	－	－	－	9	0.0	0.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
計	70,239	192.4	100.0	73,040	199.6	100.0	73,006	200.0	100.0	73,082	200.2	100.0	74,929	205.3	100.0

※　端数処理の関係で、合計と一致しないことがあります。

⑶　病棟別入院患者の状況

①　東２病棟【内科系】

	病床機能	病床数（床）	患者延数（人）	入院実数（人）	退院実数（人）	１日平均（人）	稼働率（%）
H26年度	療養	46	2,806	0	1	46.0	100.0
	急性期	60	15,188	859	688	50.0	83.8
H27年度	急性期	60	18,220	1,049	860	49.8	83.0
H28年度	急性期	60→46	15,439	1,085	785	42.3	81.5
H29年度	急性期	46	13,077	1,031	667	35.8	77.9
H30年度	急性期	46	13,245	1,061	636	36.3	78.9

平成26年６月　病棟再編により西２病棟の14床を加え急性期病棟60床となる。
平成28年10月　病棟再編により急性期病棟46床となる。

②　東３病棟【外科系】

	病床機能	病床数（床）	患者延数（人）	入院実数（人）	退院実数（人）	１日平均（人）	稼働率（%）
H26年度	急性期(亜急)	60→46	11,788	958	813	32.3	66.8
H27年度	急性期	46	11,800	953	740	32.2	70.1
H28年度	急性期	46→32	9,209	968	717	25.2	66.6
H29年度	急性期	32	8,606	873	611	23.6	73.7
H30年度	急性期	32	9,633	910	606	26.4	82.5

平成23年10月から平成26年５月まで亜急性期病床（６床）を含む。
平成26年６月　病棟再編により46床となる。
平成28年10月　病棟再編により32床となる。

③　西２病棟【内科系】

	病床機能	病床数（床）	患者延数（人）	入院実数（人）	退院実数（人）	１日平均（人）	稼働率（%）
H26年度	療養	46→0	2,333	0	17	38.2	83.1
H27年度	－	－	－	－	－	－	－
H28年度	急性期	0→28→ 0	327	3	12	10.9	38.9
	地域包括ケア	0→ 8→36	4,910	40	159	23.2	72.3
H29年度	地域包括ケア	36	10,113	53	337	27.7	77.0
H30年度	地域包括ケア	36	10,296	165	451	28.2	78.4

平成26年６月　病棟再編により32床を休床とする。
平成28年９月　病棟再編により急性期28床及び地域包括ケア８床となる。
平成28年10月　病棟再編により地域包括ケア病棟36床となる。

④　新３病棟【外科系】

	病床機能	病床数（床）	患者延数（人）	入院実数（人）	退院実数（人）	１日平均（人）	稼働率（%）
H26年度	急性期(亜急)	37	2,611	106	129	28.7	72.6
	地域包括ケア	37	7,758	70	245	28.3	76.5
H27年度	地域包括ケア	37	10,835	79	359	29.6	80.0
H28年度	地域包括ケア	37→29	10,055	53	347	27.5	85.1
H29年度	地域包括ケア	29	8,348	83	323	22.9	78.9
H30年度	地域包括ケア	29	9,148	85	346	25.1	86.4

平成26年７月　地域包括ケア病棟となる。
平成28年10月　病棟再編により29床となる。

⑤　西３病棟

	病床機能	病床数(床)	患者延数(人)	入院実数(人)	退院実数(人)	１日平均(人)	稼働率(%)
H26年度	療養	0→46	11,712	2	66	38.5	83.8
H27年度	療養	46	16,005	4	68	43.7	95.1
H28年度	療養	46	16,490	3	62	45.2	98.2
H29年度	療養	46	16,528	4	65	45.3	98.4
H30年度	療養	46	16,280	30	108	44.6	97.0

平成26年６月　病棟再編により療養病棟46床となる。

⑥　本４病棟

	病床機能	病床数(床)	患者延数(人)	入院実数(人)	退院実数(人)	１日平均(人)	稼働率(%)
H26年度	急性期(亜急)	46	2,532	108	98	41.5	90.2
	療養	46	13,465	1	31	44.3	96.3
H27年度	療養	46	16,139	0	74	44.1	95.9
H28年度	療養	46	16,535	0	54	45.3	98.5
H29年度	療養	46	16,370	1	64	44.8	97.5
H30年度	療養	46	16,286	4	95	44.6	97.0

平成24年２月から平成26年５月まで亜急性期病床（４床）を含む。
平成26年６月　病棟再編により療養病棟となる。

⑦　その他（救急外来）

	病床機能	病床数(床)	患者延数(人)	入院実数(人)	退院実数(人)	１日平均(人)	稼働率(%)
H26年度	－	－	46	46	46	0.1	－
H27年度	－	－	41	41	41	0.1	－
H28年度	－	－	41	41	41	0.1	－
H29年度	－	－	40	40	40	0.1	－
H30年度	－	－	41	41	41	0.1	－

⑧　合計

	病床機能	病床数(床)	患者延数(人)	入院実数(人)	退院実数(人)	１日平均(人)	稼働率(%)
H26年度	－	235	70,239	2,150	2,134	192.4	81.9
H27年度	－	235	73,040	2,126	2,142	199.6	84.9
H28年度	－	235	73,006	2,193	2,177	200.0	85.1
H29年度	－	235	73,082	2,085	2,107	200.2	85.2
H30年度	－	235	74,929	2,296	2,283	205.3	87.4

⑷　診療科別・年齢別入院患者延数

（単位：人）

科		新生児	乳児	1～3歳	4～6歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳	19～23歳	24～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	71～80歳	81～90歳	91歳～	計	構成比
内科	男	－	－	－	－	－	－	14	5	37	50	964	961	2,860	5,270	7,486	2,374	20,021	26.7%
	女	－	－	－	－	－	1	7	13	2	60	386	320	1,903	5,945	8,674	8,204	25,515	34.1%
	計	－	－	－	－	－	1	21	18	39	110	1,350	1,281	4,763	11,215	16,160	10,578	45,536	60.8%
外科	男	－	－	－	－	－	－	6	15	3	22	84	181	514	790	1,030	11	2,656	3.5%
	女	－	－	－	－	－	－	－	－	－	62	295	151	317	750	619	132	2,326	3.1%
	計	－	－	－	－	－	－	6	15	3	84	379	332	831	1,540	1,649	143	4,982	6.6%
整形外科	男	－	－	－	2	－	－	9	－	17	49	45	333	266	503	609	92	1,925	2.6%
	女	－	－	－	－	－	－	－	12	6	－	20	15	233	1,320	3,832	1,293	6,731	9.0%
	計	－	－	－	2	－	－	9	12	23	49	65	348	499	1,823	4,441	1,385	8,656	11.6%
脳神経外科	男	－	－	－	－	2	－	－	18	－	22	151	1,263	845	1,918	776	520	5,515	7.4%
	女	－	－	－	－	－	－	－	－	－	17	－	8	950	1,863	5,083	885	8,806	11.8%
	計	－	－	－	－	2	－	－	18	－	39	151	1,271	1,795	3,781	5,859	1,405	14,321	19.1%
泌尿器科	男	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	23	20	141	268	298	48	798	1.1%
	女	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	11	61	66	270	146	554	0.7%
	計	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	23	31	202	334	568	194	1,352	1.8%
婦人科	男	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.0%
	女	－	－	－	－	－	－	－	－	10	－	－	－	－	72	－	－	82	0.1%
	計	－	－	－	－	－	－	－	－	10	－	－	－	－	72	－	－	82	0.1%
合計	男	－	－	－	2	2	－	29	38	57	143	1,267	2,758	4,626	8,749	10,199	3,045	30,915	41.3%
	女	－	－	－	－	－	1	7	25	18	139	701	505	3,464	10,016	18,478	10,660	44,014	58.7%
	計	－	－	－	2	2	1	36	63	75	282	1,968	3,263	8,090	18,765	28,677	13,705	74,929	100.0%
構成比	男	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.5%	4.1%	8.9%	15.0%	28.3%	33.0%	9.9%	100.0%	
	女	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.3%	1.6%	1.1%	7.9%	22.8%	42.0%	24.2%	100.0%	
	計	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.4%	2.6%	4.4%	10.8%	25.0%	38.3%	18.3%	100.0%	

※　端数処理の関係で、構成比合計が100%とならないことがあります。

⑸　地区別・診療科別入院患者延数　（単位：人）

地区		内科	外科	整形外科	脳外科	泌尿器科	婦人科	合計	構成比
富士市	旧富士川町	11,059	1,188	2,334	3,551	344	－	18,476	24.7%
	旧富士市	13,687	1,852	2,290	5,200	158	－	23,187	30.9%
	計	24,746	3,040	4,624	8,751	502	－	41,663	55.6%
静岡市	旧蒲原町	8,795	573	1,631	2,400	361	72	13,832	18.5%
	旧由比町	4,656	445	1,108	1,332	343	－	7,884	10.5%
	旧清水市	2,184	32	113	599	－	－	2,928	3.9%
	旧静岡市	137	7	8	10	－	10	172	0.2%
	計	15,772	1,057	2,860	4,341	704	82	24,816	33.1%
富士宮市	旧芝川町	1,141	192	241	9	38	－	1,621	2.2%
	旧富士宮市	2,824	614	837	474	108	－	4,857	6.5%
	計	3,965	806	1,078	483	146	－	6,478	8.6%
上記以外の県内		442	3	9	379	－	－	833	1.1%
県外		611	76	85	367	－	－	1,139	1.5%
合　計		45,536	4,982	8,656	14,321	1,352	82	74,929	100.0%

※　端数処理の関係で、構成比合計が100%とならないことがあります。

⑹　地区別入院患者延数推移（５年間）　（単位：人）

地区		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
富士市	旧富士川町	15,699	16,141	16,645	16,786	18,476
	旧富士市	18,015	22,199	20,936	21,893	23,187
	計	33,714	38,340	37,581	38,679	41,663
静岡市	旧蒲原町	16,479	16,272	17,115	14,273	13,832
	旧由比町	8,788	9,412	9,920	11,463	7,884
	旧清水市				2,741	2,928
	旧静岡市				284	172
	上記以外	6,383	4,354	2,753		
	計	31,650	30,038	29,788	28,761	24,816
富士宮市	旧芝川町	736	1,118	1,481	1,115	1,621
	旧富士宮市	2,572	2,282	2,502	3,015	4,857
	計	3,308	3,400	3,983	4,130	6,478
上記以外の県内		862	434	872	784	833
県外		705	828	782	728	1,139
合　計		70,239	73,040	73,006	73,082	74,929

⑺　地区別入院患者割合推移（５年間）　（単位：%）

地区		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
富士市	旧富士川町	22.4	22.1	22.8	23.0	24.7
	旧富士市	25.6	30.3	28.7	30.0	30.9
	計	48.0	52.5	51.5	52.9	55.6
静岡市	旧蒲原町	23.5	22.3	23.4	19.5	18.5
	旧由比町	12.5	12.9	13.6	15.7	10.5
	旧清水市				3.8	3.9
	旧静岡市				0.4	0.2
	上記以外	9.1	6.0	3.8		
	計	45.1	41.1	40.8	39.4	33.1
富士宮市	旧芝川町	1.0	1.5	2.0	1.5	2.2
	旧富士宮市	3.7	3.1	3.4	4.1	6.5
	計	4.7	4.7	5.5	5.7	8.6
上記以外の県内		1.2	0.6	1.2	1.1	1.1
県外		1.0	1.1	1.1	1.0	1.5
合　計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※　端数処理の関係で、合計と合わないことがあります。

2　外来

※　ワクチン接種等を除いた稼働統計上の患者数

⑴　外来総括

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
外来患者延数	83,367人	80,988人	79,547人	77,447人	78,037人
1日平均患者数	341.7人	333.3人	327.4人	317.4人	319.8人
稼働日数	244日	243日	243日	244日	244日

⑵　診療科別外来患者数

診療科	H26年度			H27年度			H28年度			H29年度			H30年度		
	患者延数（人）	1日平均患者数（人）	構成比（%）	患者延数（人）	1日平均患者数（人）	構成比（%）	患者延数（人）	1日平均患者数（人）	構成比（%）	患者延数（人）	1日平均患者数（人）	構成比（%）	患者延数（人）	1日平均患者数（人）	構成比（%）
内科	29,759	122.0	35.7	29,109	119.8	35.9	28,028	115.3	35.2	27,957	114.6	36.1	28,631	117.3	36.7
神経内科	1,273	5.2	1.5	1,244	5.1	1.5	1,199	4.9	1.5	1,220	5.0	1.6	1,346	5.5	1.7
呼吸器内科	610	2.5	0.7	586	2.4	0.7	434	1.8	0.5	418	1.7	0.5	319	1.3	0.4
小児科	3,882	15.9	4.7	3,888	16.0	4.8	3,786	15.6	4.8	3,304	13.5	4.3	3,355	13.8	4.3
外科	10,064	41.2	12.1	8,955	36.9	11.1	8,878	36.5	11.2	8,060	33.0	10.4	7,134	29.2	9.1
整形外科	12,161	49.8	14.6	12,029	49.5	14.9	12,266	50.5	15.4	12,563	51.5	16.2	11,513	47.2	14.8
脳神経外科	7,681	31.5	9.2	7,211	29.7	8.9	6,816	28.0	8.6	6,540	26.8	8.4	6,078	24.9	7.8
皮膚科	3,200	13.1	3.8	2,958	12.2	3.7	3,555	14.6	4.5	3,606	14.8	4.7	3,222	13.2	4.1
泌尿器科	1,312	5.4	1.6	1,308	5.4	1.6	1,167	4.8	1.5	1,109	4.5	1.4	2,628	10.8	3.4
婦人科	1,188	4.9	1.4	1,135	4.7	1.4	1,075	4.4	1.4	997	4.1	1.3	1,249	5.1	1.6
眼科	2,902	11.9	3.5	3,489	14.4	4.3	3,755	15.5	4.7	3,685	15.1	4.8	4,189	17.2	5.4
耳鼻いんこう科	2,963	12.1	3.6	2,833	11.7	3.5	2,752	11.3	3.5	2,802	11.5	3.6	2,944	12.1	3.8
放射線科	530	2.2	0.6	571	2.3	0.7	521	2.1	0.7	470	1.9	0.6	462	1.9	0.6
心療内科	328	1.3	0.4	358	1.5	0.4	473	1.9	0.6	335	1.4	0.4	377	1.5	0.5
透析	5,514	22.6	6.6	5,314	21.9	6.6	4,842	19.9	6.1	4,381	18.0	5.7	4,590	18.8	5.9
計	83,367	341.7	100.0	80,988	333.3	100.0	79,547	327.4	100.0	77,447	317.4	100.0	78,037	319.8	100.0

※　端数処理の関係で、合計と一致しないことがあります。

(3) 診療科別・年齢別外来患者延数

（単位：人）

科		新生児	乳児	1～3歳	4～6歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳	19～23歳	24～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	71～80歳	81～90歳	91歳～	計	構成比
内科	男						26	85	123	210	586	1,388	2,078	3,595	4,273	2,590	242	15,196	19.5%
	女					1	11	77	101	173	353	698	1,309	2,754	4,123	3,066	769	13,435	17.2%
	計					1	37	162	224	383	939	2,086	3,387	6,349	8,396	5,656	1,011	28,631	36.7%
神経内科	男						1	1	4	2	11	50	58	131	213	167	28	666	0.9%
	女							1	6	12	8	23	30	76	221	240	63	680	0.9%
	計						1	2	10	14	19	73	88	207	434	407	91	1,346	1.7%
呼吸器内科	男										5	2	10	41	85	11		154	0.2%
	女									1	4	1	23	45	66	20	5	165	0.2%
	計									1	9	3	33	86	151	31	5	319	0.4%
小児科	男		80	483	413	558	250	30	41	34								1,889	2.4%
	女		64	409	283	457	199	22	19	13								1,466	1.9%
	計		144	892	696	1,015	449	52	60	47								3,355	4.3%
外科	男			3	2	2	4	8	15	24	135	335	553	1,040	928	482	36	3,567	4.6%
	女			1			1	2	6	25	78	309	538	1,076	1,001	460	70	3,567	4.6%
	計			4	2	2	5	10	21	49	213	644	1,091	2,116	1,929	942	106	7,134	9.1%
整形外科	男			7	11	17	17	30	17	33	144	236	343	799	1,109	892	79	3,734	4.8%
	女		1	3	2	15	7	14	33	20	77	184	391	1,203	2,749	2,623	457	7,779	10.0%
	計		1	10	13	32	24	44	50	53	221	420	734	2,002	3,858	3,515	536	11,513	14.8%
脳神経外科	男		1	17	22	17	6	15	19	41	40	168	410	633	1,200	562	61	3,212	4.1%
	女			4	7	6	7	7	2	18	55	153	243	534	764	839	227	2,866	3.7%
	計		1	21	29	23	13	22	21	59	95	321	653	1,167	1,964	1,401	288	6,078	7.8%
皮膚科	男		2	31	24	18	6	20	9	24	67	96	125	286	501	275	19	1,503	1.9%
	女		7	26	12	20	7	7	16	26	94	135	176	284	476	354	79	1,719	2.2%
	計		9	57	36	38	13	27	25	50	161	231	301	570	977	629	98	3,222	4.1%
泌尿器科	男			1	3	2			8	13	20	58	98	311	703	463	65	1,745	2.2%
	女			1			1		1	16	12	30	57	152	284	288	41	883	1.1%
	計			2	3	2	1		9	29	32	88	155	463	987	751	106	2,628	3.4%
婦人科	男												2	1				3	0.0%
	女					1			16	24	94	348	212	214	263	55	19	1,246	1.6%
	計					1			16	24	94	348	214	215	263	55	19	1,249	1.6%
眼科	男			23	17	7	2	3	2	8	33	90	175	388	684	362	37	1,831	2.3%
	女		3	27	14	6	3	2	4	7	11	46	100	315	982	690	148	2,358	3.0%
	計		3	50	31	13	5	5	6	15	44	136	275	703	1,666	1,052	185	4,189	5.4%
耳鼻いんこう科	男		3	15	15	28	12	22	7	39	55	86	117	198	334	180	25	1,136	1.5%
	女			12	23	17	3	8	25	29	86	177	189	433	470	285	51	1,808	2.3%
	計		3	27	38	45	15	30	32	68	141	263	306	631	804	465	76	2,944	3.8%
放射線科	男				1	1	15	13	9	13	23	61	32	43	22	10	2	245	0.3%
	女					1	5	10	10	8	28	36	38	37	33	9	2	217	0.3%
	計				1	2	20	23	19	21	51	97	70	80	55	19	4	462	0.6%
心療内科	男									6	5	16	6	37	73	5	3	151	0.2%
	女								1	2	7	26	4	21	97	53	15	226	0.3%
	計								1	8	12	42	10	58	170	58	18	377	0.5%
透析	男											148	165	311	803	525		1,952	2.5%
	女												321	837	739	700	41	2,638	3.4%
	計											148	486	1,148	1,542	1,225	41	4,590	5.9%
合計	男		86	580	508	650	339	227	254	447	1,124	2,734	4,172	7,814	10,928	6,524	597	36,984	47.4%
	女		75	483	341	524	244	150	240	374	907	2,166	3,631	7,981	12,268	9,682	1,987	41,053	52.6%
	計		161	1,063	849	1,174	583	377	494	821	2,031	4,900	7,803	15,795	23,196	16,206	2,584	78,037	100.0%
構成比	男	0.0%	0.2%	1.6%	1.4%	1.8%	0.9%	0.6%	0.7%	1.2%	3.0%	7.4%	11.3%	21.1%	29.5%	17.6%	1.6%	100.0%	
	女	0.0%	0.2%	1.2%	0.8%	1.3%	0.6%	0.4%	0.6%	0.9%	2.2%	5.3%	8.8%	19.4%	29.9%	23.6%	4.8%	100.0%	
	計	0.0%	0.2%	1.4%	1.1%	1.5%	0.7%	0.5%	0.6%	1.1%	2.6%	6.3%	10.0%	20.2%	29.7%	20.8%	3.3%	100.0%	

※　端数処理の関係で、合計と一致しないことがあります。

(4)　地区別・診療科別外来患者延数

（単位：人）

地区		内科	神経内科	呼吸器内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	放射線科	心療内科	透析	計	構成比
富士市	旧富士川町	8,689	415	76	736	1,682	3,893	1,948	1,056	949	305	1,333	1,063	43	87	1,552	23,827	30.5%
	旧富士市	6,451	215	82	590	2,242	1,920	931	490	410	278	520	484	356	55	530	15,554	19.9%
	計	15,140	630	158	1,326	3,924	5,813	2,879	1,546	1,359	583	1,853	1,547	399	142	2,082	39,381	50.5%
静岡市	旧蒲原町	7,343	441	37	1,248	1,205	3,494	1,772	1,004	698	247	1,395	830	18	158	2,001	21,891	28.1%
	旧由比町	3,002	165	7	598	650	1,541	1,040	487	360	135	660	377	14	51	350	9,437	12.1%
	旧清水市	391	35	19	39	137	185	126	38	24	18	27	29	3	7		1,078	1.4%
	旧静岡市	79	1		15	28	29	21	4	3	7	7	2	1			197	0.3%
	計	10,815	642	63	1,900	2,020	5,249	2,959	1,533	1,085	407	2,089	1,238	36	216	2,351	32,603	41.8%
富士宮市	旧芝川町	609	16	42	2	307	66	58	44	77	46	53	45		7	148	1,520	1.9%
	旧富士宮市	1,641	51	56	82	755	290	149	67	95	190	176	79	14	11		3,656	4.7%
	計	2,250	67	98	84	1,062	356	207	111	172	236	229	124	14	18	148	5,176	6.6%
上記以外の県内		151			22	54	26	15	14	2	1	5	16	11	1	9	327	0.4%
県外		275	7		23	74	69	18	18	10	22	13	19	2			550	0.7%
合計		28,631	1,346	319	3,355	7,134	11,513	6,078	3,222	2,628	1,249	4,189	2,944	462	377	4,590	78,037	100.0%

※　端数処理の関係で、構成比合計が100%とならないことがあります。

(5)　地区別外来患者延数推移（５年間）

（単位：人）

地区		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
富士市	旧富士川町	26,380	26,034	25,348	24,541	23,827
	旧富士市	13,951	14,072	13,902	13,633	15,554
	計	40,331	40,106	39,250	38,174	39,381
静岡市	旧蒲原町	24,347	23,047	22,874	22,288	21,891
	旧由比町	10,774	10,360	10,122	9,812	9,437
	旧清水市				1,018	1,078
	旧静岡市				246	197
	上記以外	1,352	1,276	1,261		
	計	36,473	34,683	34,257	33,364	32,603
富士宮市	旧芝川町	1,847	1,696	1,481	1,524	1,520
	旧富士宮市	3,528	3,404	3,505	3,407	3,656
	計	5,375	5,100	4,986	4,931	5,176
上記以外の県内		456	396	350	316	327
県外		732	703	704	662	550
合　計		83,367	80,988	79,547	77,447	78,037

(6)　地区別外来患者割合推移（５年間）

（単位：%）

地区		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
富士市	旧富士川町	31.6	32.1	31.9	31.7	30.5
	旧富士市	16.7	17.4	17.5	17.6	19.9
	計	48.4	49.5	49.3	49.3	50.5
静岡市	旧蒲原町	29.2	28.5	28.8	28.8	28.1
	旧由比町	12.9	12.8	12.7	12.7	12.1
	旧清水市				1.3	1.4
	旧静岡市				0.3	0.3
	上記以外	1.6	1.6	1.6		
	計	43.7	42.8	43.1	43.1	41.8
富士宮市	旧芝川町	2.2	2.1	1.9	2.0	1.9
	旧富士宮市	4.2	4.2	4.4	4.4	4.7
	計	6.4	6.3	6.3	6.4	6.6
上記以外の県内		0.5	0.5	0.4	0.4	0.4
県外		0.9	0.9	0.9	0.9	0.7
合　計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3　救急診療

⑴　診療科別患者延数

（単位：人）

	H26年度			H27年度			H28年度			H29年度			H30年度		
	外来患者延数	入院患者延数	計	外来患者延数	入院患者延数	計	外来患者延数	入院患者延数	計	外来患者延数	入院患者延数	計	外来患者延数	入院患者延数	計
内科	1,669	516	2,185	1,943	463	2,406	1,867	539	2,406	1,543	517	2,060	1,526	503	2,029
神経内科	4	－	4	7	－	7	5	2	7	5	－	5	4	－	4
呼吸器内科	4	－	4	4	－	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－
小児科	48	－	48	71	－	71	50	－	50	259	－	259	28	－	28
外科	316	94	410	197	79	276	251	76	327	99	53	152	103	55	158
整形外科	167	33	200	351	74	425	276	72	348	301	110	411	308	141	449
脳神経外科	244	151	395	278	156	434	242	161	403	275	121	396	242	112	354
皮膚科	93	－	93	110	－	110	121	－	121	154	－	154	128	－	128
泌尿器科	28	－	28	43	1	44	42	－	42	42	－	42	77	5	82
婦人科	1	－	1	1	－	1	1	－	1	3	－	3	1	－	1
眼科	2	－	2	71	－	71	91	－	91	2	－	2	2	－	2
耳鼻いんこう科	34	－	34	40	1	41	36	－	36	55	－	55	67	－	67
合計	2,610	794	3,404	3,116	774	3,890	2,982	850	3,832	2,738	801	3,539	2,486	816	3,302

※　救急患者数は、時間外（救急外来）受付患者数及び時間内救急車搬入患者数の合計です。なお、H29年度の小児科には夜間外来の患者数を含みます。

⑵　診療科別・月別患者延数

（単位：人）

		H30年4月		H30年5月		H30年6月		H30年7月		H30年8月		H30年9月		H30年10月		H30年11月		H30年12月		H31年1月		H31年2月		H31年3月		計	
		延数	救急車	延数	救急車	延数	救急車	延数	救急車	延数	救急車	延数	救急車	延数	救急車	延数	救急車	延数	救急車	延数	救急車	延数	救急車	延数	救急車	延数	救急車
入院	内科	42	(32)	28	(17)	39	(28)	49	(35)	47	(34)	42	(29)	34	(21)	37	(23)	36	(24)	63	(43)	52	(43)	34	(26)	503	(355)
	外科	9	(4)	7	(1)	5	(−)	4	(1)	4	(2)	6	(4)	3	(−)	3	(3)	3	(2)	6	(2)	2	(−)	3	(2)	55	(21)
	整形外科	11	(10)	14	(11)	11	(11)	12	(11)	10	(8)	11	(11)	13	(12)	18	(17)	12	(12)	6	(6)	13	(10)	10	(10)	141	(129)
	脳神経外科	8	(7)	10	(10)	5	(5)	8	(7)	8	(8)	7	(3)	11	(10)	7	(7)	16	(13)	14	(9)	9	(7)	9	(6)	112	(92)
	泌尿器科	−	(−)	−	(−)	−	(−)	−	(−)	−	(−)	3	(3)	−	(−)	−	(−)	1	(−)	−	(−)	1	(−)	−	(−)	5	(3)
	小計	70	(53)	59	(39)	60	(44)	73	(54)	69	(52)	69	(50)	61	(43)	65	(50)	68	(51)	89	(60)	77	(60)	56	(44)	816	(600)
外来	内科	61	(15)	117	(16)	63	(15)	112	(34)	135	(35)	82	(27)	66	(17)	80	(19)	163	(26)	450	(27)	104	(21)	93	(21)	1,526	(273)
	神経内科	−	(−)	−	(−)	−	(−)	−	(−)	−	(−)	−	(−)	−	(−)	−	(−)	1	(1)	2	(−)	−	(−)	1	(1)	4	(2)
	小児科	21	(−)	21	(−)	13	(−)	29	(−)	16	(−)	20	(−)	24	(−)	34	(−)	39	(−)	39	(−)	26	(−)	19	(−)	301	(−)
	外科	8	(1)	8	(−)	9	(1)	15	(1)	9	(1)	9	(2)	8	(2)	8	(−)	11	(2)	11	(−)	2	(1)	5	(3)	103	(14)
	整形外科	18	(7)	36	(6)	17	(7)	17	(6)	25	(8)	23	(5)	28	(9)	32	(8)	28	(11)	27	(14)	34	(12)	23	(9)	308	(102)
	脳神経外科	22	(9)	19	(10)	19	(6)	20	(7)	17	(8)	16	(7)	20	(13)	18	(5)	20	(10)	21	(10)	26	(18)	24	(15)	242	(118)
	皮膚科	6	(−)	24	(1)	6	(−)	16	(1)	15	(1)	11	(−)	10	(−)	6	(−)	8	(−)	14	(−)	4	(−)	8	(1)	128	(4)
	泌尿器科	6	(2)	7	(−)	4	(−)	5	(−)	9	(1)	9	(2)	5	(1)	5	(−)	12	(1)	4	(1)	3	(1)	8	(1)	77	(10)
	婦人科	−	(−)	−	(−)	−	(−)	−	(−)	1	(1)	−	(−)	−	(−)	−	(−)	−	(−)	−	(−)	−	(−)	−	(−)	1	(1)
	眼科	−	(−)	−	(−)	−	(−)	−	(−)	−	(−)	−	(−)	1	(−)	−	(−)	−	(−)	−	(−)	1	(−)	−	(−)	2	(−)
	耳鼻いんこう科	8	(1)	9	(1)	3	(−)	6	(1)	4	(−)	9	(1)	5	(1)	4	(−)	2	(−)	9	(3)	7	(−)	1	(−)	67	(8)
	小計	150	(35)	241	(34)	134	(29)	220	(50)	231	(55)	179	(44)	167	(43)	187	(32)	284	(51)	577	(55)	207	(53)	182	(51)	2,759	(532)
合計		220	(88)	300	(73)	194	(73)	293	(104)	300	(107)	248	(94)	228	(86)	252	(82)	352	(102)	666	(115)	284	(113)	238	(95)	3,575	(1,132)

※１　「時間外（救急外来）受付患者数」及び「時間内救急外来受付患者数」を集計しました。

※２　（　）は、救急車による搬入患者数（延数の再掲）です。

※３　外来・小児科には夜間外来（平日19:00まで）の患者数（計273人）を含みます。

(3)　地区別・月別患者延数

（単位：人）

地区			H30年4月	H30年5月	H30年6月	H30年7月	H30年8月	H30年9月	H30年10月	H30年11月	H30年12月	H31年1月	H31年2月	H31年3月	合計
入院	富士市	旧富士川町	19	18	13	19	20	20	20	14	14	18	21	12	208
		旧富士市	18	19	16	22	14	16	12	18	17	25	25	18	220
		計	37	37	29	41	34	36	32	32	31	43	46	30	428
	静岡市	旧蒲原町	14	8	15	17	13	18	17	9	16	19	10	11	167
		旧由比町	11	6	9	8	17	9	9	16	14	15	11	7	132
		他静岡市	2	2	－	1	1	1	－	1	1	2	2	2	15
		計	27	16	24	26	31	28	26	26	31	36	23	20	314
	富士宮市	旧芝川町	3	1	－	－	－	1	－	－	－	4	1	－	10
		旧富士宮市	3	3	4	5	4	2	2	6	5	4	5	6	49
		計	6	4	4	5	4	3	2	6	5	8	6	6	59
	上記以外の県内		－	1	－	－	－	1	－	1	－	－	－	－	3
	県外		－	1	3	1	－	1	1	－	1	2	2	－	12
	計		70	59	60	73	69	69	61	65	68	89	77	56	816
外来	富士市	旧富士川町	35	58	31	51	78	45	55	67	81	143	57	57	758
		旧富士市	36	60	33	48	35	36	21	25	54	179	54	38	619
		計	71	118	64	99	113	81	76	92	135	322	111	95	1,377
	静岡市	旧蒲原町	44	56	35	65	62	50	51	48	70	118	45	46	690
		旧由比町	21	43	14	38	32	32	24	29	49	79	34	28	423
		他静岡市	3	4	4	8	9	6	3	4	10	13	6	1	71
		計	68	103	53	111	103	88	78	81	129	210	85	75	1,184
	富士宮市	旧芝川町	1	5	2	1	－	1	－	－	－	1	－	1	12
		旧富士宮市	7	7	8	6	7	7	9	9	6	16	7	6	95
		計	8	12	10	7	7	8	9	9	6	17	7	7	107
	上記以外の県内		2	3	4	2	4	－	3	4	3	11	2	－	38
	県外		1	5	3	1	4	2	1	1	11	17	2	5	53
	計		150	241	134	220	231	179	167	187	284	577	207	182	2,759
合計			220	300	194	293	300	248	228	252	352	666	284	238	3,575

※　外来には小児科の夜間外来患者数（計273人）を含みます。

4　手術

⑴　診療科別・年度別手術件数

（単位：件）

診療科	時間別	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
内科	時間内	－	－	2	5	76
	緊急	－	－	－	－	6
外科	時間内	87	76	67	55	68
	緊急	4	8	6	5	3
整形外科	時間内	76	94	70	104	109
	緊急	5	6	4	9	22
脳神経外科	時間内	12	11	16	19	7
	緊急	8	12	6	4	4
泌尿器科	時間内	－	－	－	－	82
	緊急	－	－	－	－	25
眼科	時間内	9	91	106	86	157
	緊急	－	2	－	－	－
耳鼻いんこう科	時間内	1	－	－	－	－
	緊急	－	－	－	－	－
総　計		202	300	277	287	559

⑵　診療科別・月別手術件数

（単位：件）

診療科	時間別	H30年4月	H30年5月	H30年6月	H30年7月	H30年8月	H30年9月	H30年10月	H30年11月	H30年12月	H31年1月	H31年2月	H31年3月	計
内科	時間内	7	9	5	6	3	5	9	9	5	5	5	8	76
	緊急		1				1		1	1	1		1	6
外科	時間内	3	5	7	3	6	5	7	6	9	8	4	5	68
	緊急	1		2										3
整形外科	時間内	12	13	10	10	6	9	9	8	5	11	7	9	109
	緊急		3	2	3	3		2	3	2	2	2		22
脳神経外科	時間内			1	2	1		1	1				1	7
	緊急	1			1						1		1	4
泌尿器科	時間内	3	3	3	8	18	9	8	1	7	9	6	7	82
	緊急			2	3	3	3	1	2	2	4	1	4	25
眼科	時間内	12	8	9	10	17	11	16	16	16	8	16	18	157
	緊急													
総　計		39	42	41	46	57	43	53	47	47	49	41	54	559

⑶　診療科別・月別麻酔件数　　（単位：件）

診療科	麻酔別	H30年4月	H30年5月	H30年6月	H30年7月	H30年8月	H30年9月	H30年10月	H30年11月	H30年12月	H31年1月	H31年2月	H31年3月	計
内科	全身麻酔								1					1
	伝達麻酔							1	2	1	1		3	8
	局所麻酔	7	10	5	6	3	6	8	7	5	5	5	6	73
外科	全身麻酔	1	4	7	3	4	2	6	6	5	5	4	4	51
	脊椎麻酔	2	1	2		1				2	2		1	11
	局所麻酔	1				1	3	1		2	1			9
整形外科	全身麻酔	5	10	6	4	4	5	4	8	5	7	5	1	64
	脊椎麻酔	5	3	4	5	2	2	7	1	2	3	1	5	40
	局所麻酔	1	3	1	4	2	1	1	1		2	2	2	20
	静脈麻酔			1					1					2
	伝達麻酔	1				1	1				1	1	1	6
脳神経外科	全身麻酔	1		1	2	1		1						6
	局所麻酔				1				1		1		2	5
泌尿器科	全身麻酔		1											1
	脊椎麻酔	3	2	2	3	6	4	4	1	4	4	4	7	44
	局所麻酔			1	1	10	5			2		2	2	23
眼科	局所麻酔	12	8	9	8	12	11	13	13	13	7	13	17	136
総　計		39	42	39	37	47	40	46	42	41	39	37	51	500

※　同一目的のために２種類以上の麻酔を行った場合（全身麻酔時に硬膜外麻酔を併用した場合等）は、主たる麻酔の件数のみを表示しています。

⑷　診療科別・内容別手術件数

①　内科　　（単位：件）

H26	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
シャント造設術	－	－	－	4	48
内シャント造設	－	－	－	2	23
人工血管使用	－	－	－	1	13
再建	－	－	－	1	12
長期留置カテーテル挿入術	－	－	－	－	16
動脈形成術・吻合術	－	－	－	－	12
気管切開術	－	－	2	－	－
その他	－	－	－	1	7
合　計	－	－	2	5	83

※　患者１人に対し複数の手術を実施することがあるため、手術患者数と合わない場合があります。

②　外科　　（単位：件）

手術名	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
乳癌手術	9	9	9	9	14
乳腺腫瘤手術	4	8	2	－	2
胃癌手術（腹腔鏡補助下含む）	9	9	6	6	6
胃部分切除手術	8	6	5	4	5
胃全摘出手術	1	3	1	2	1
膵脾領域手術	－	－	－	2	1
脾臓摘出手術	－	－	－	2	1
肝摘出手術（拡大胆嚢摘出手術含む）	1	－	－	－	－
胆嚢手術	12	14	12	16	16
腹腔鏡下胆嚢摘出手術	12	4	7	6	9
開腹胆嚢摘出手術	－	10	5	10	7
大腸癌手術（腹腔鏡補助下含む）	14	8	9	7	10
結腸切除手術	12	5	6	6	5
直腸前方切除手術	2	3	2	－	3
直腸切除手術	－	－	1	1	2
腸閉塞手術	3	1	－	2	2
腸穿孔手術	1	－	－	－	－
虫垂切除手術	4	2	－	－	4
人工肛門（造設、閉鎖）	1	6	1	－	－
鼠径ヘルニア手術	11	14	20	10	10
痔手術	1	－	1	－	－
持続注入用植込型カテーテル設置手術	8	5	3	3	8
その他	13	17	14	15	5
合　計	91	93	77	70	78

※　患者１人に対し複数の手術を実施することがあるため、手術患者数と合わない場合があります。

③　整形外科　　（単位：件）

手術名	部位	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
観血的整復固定手術(創外固定)		－	－	1	－	－
観血的整復固定手術(上肢)		1	12	3	6	13
観血的整復固定手術(下肢)		30	48	45	58	60
観血的整復固定手術(その他)		2	2	－	1	－
抜釘手術		－	－	3	9	5
偽関節手術		－	1	－	－	－
人工骨頭置換手術	股関節	13	11	12	10	19
人工関節置換手術	股関節	－	－	1	－	－
筋・腱縫合手術、剥離手術	アキレス腱	7	－	5	2	2
	手・指	－	2	－	1	1
関節鏡検査・手術		－	－	－	1	－
半月板・滑膜切除手術(関節鏡)		－	3	1	1	2
腱鞘切開手術		4	2	－	9	14
神経・血管縫合手術		－	2	－	－	－
断端形成手術・切断手術		2	1	－	4	6
関節形成手術		－	1	－	－	－
骨・軟部腫瘍手術		1	2	－	1	－
生検手術		－	－	－	1	－
徒手整復手術		1	1	－	1	3
異物除去手術・デブリードマン		13	5	2	－	2
その他		7	7	1	8	4
合　計		81	100	74	113	131

④　脳神経外科　　（単位：件）

手術名	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
血管内手術（コイリング手術）	1	1	3	－	1
脳出血開頭血腫除去手術	1	3	2	1	－
急性硬膜下血腫除去手術	－	－	－	1	－
慢性硬膜下血腫除去手術	13	12	13	14	10
頭蓋形成手術	1	1	1	1	－
脳減圧手術	－	1	－	－	－
その他	4	5	3	6	－
合　計	20	23	22	23	11

⑤　泌尿器科　　（単位：件）

手術名	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
経尿道的膀胱腫瘍切除術	－	－	－	－	10
経尿道的前立腺手術	－	－	－	－	2
経尿道的腎瘻造設術	－	－	－	－	4
精巣摘出術（除睾術）	－	－	－	－	3
尿道ステント前立腺部尿道拡張術	－	－	－	－	5
経尿道的異物摘出術	－	－	－	－	7
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	－	－	－	－	39
前立腺生検（経会陰）	－	－	－	－	29
尿管カテーテル法	－	－	－	－	3
その他	－	－	－	－	6
合　計	－	－	－	－	108

※　患者１人に対し複数の手術を実施することがあるため、手術患者数と合わない場合があります。

⑥　眼科　　（単位：件）

手術名	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
内眼手術	4	90	103	85	155
白内障手術	－	74	85	62	128
緑内障手術	－	1	－	－	－
硝子体内注射	4	13	18	23	27
その他	－	2	－	－	－
外眼手術	5	3	3	1	2
眼瞼下垂手術	3	3	1	－	－
眼瞼内反手術	1	－	－	－	1
翼状片手術	1	－	1	1	1
その他	－	－	1	－	－
合　計	9	93	106	86	157

⑦　耳鼻いんこう科　　（単位：件）

手術名	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
耳瘻孔摘出術	1	－	－	－	－
合　計	1	－	－	－	－

⑧　内視鏡センター

ア　病院業務

（単位：件）

				H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合計				2,610	2,838	2,625	2,162	2,354
	上部内視鏡検査			1,806	1,964	1,795	1,438	1,464
		経鼻		683	1,211	662	617	508
		経口		1,087	733	1,133	805	930
			内視鏡的止血術	8	13	24	8	20
			食道動脈瘤硬化療法	5	8	2	－	4
			食道動脈瘤結紮療法	2	－	6	1	1
			胃粘膜切除術	2	－	－	－	－
			胃瘻造設・交換	3	14	10	6	33
			超音波内視鏡	1	5	6	3	－
			食道狭窄拡張術	4	2	－	1	4
			粘膜下層剥離術	6	12	5	3	4
		ERCP検査		36	20	29	16	26
			胆道拡張術	4	1	2	－	10
			胆道砕石	8	13	21	12	13
			胆道ステント留置術	7	3	2	4	16
			胆道ドレナージ術	－	3	－	－	5
	下部内視鏡検査			783	863	830	711	877
		大腸ポリープ切除術		280	321	342	243	373
	気管支鏡			21	11	25	13	13

イ　健康診断センター業務

（単位：件）

			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合計			4,048	4,066	4,162	4,272	4,362
	上部内視鏡検査		3,957	3,956	4,052	4,170	4,263
		経鼻	2,293	2,335	2,383	2,466	2,595
		経口	1,664	1,621	1,669	1,704	1,668
	下部内視鏡検査		91	110	110	102	99
		大腸ポリープ切除術	17	25	27	24	15

5　人工透析センター

	患者監視装置（台）	患者延数（人）	外来延数（人）	入院延数（人）	導入（人）
H26年度	25	6,024	5,529	495	5
H27年度	25	5,788	5,310	478	1
H28年度	25	5,491	4,843	648	5
H29年度	25	5,324	4,382	942	3
H30年度	25	5,792	4,589	1,203	5

6　死亡件数

⑴　診療科別死亡件数　（単位：人）

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
一般病棟	内科	191	146	174	177	178
	神経内科	－	－	1	－	－
	外科	48	33	19	18	9
	整形外科	1	－	1	2	3
	脳神経外科	20	22	15	16	10
	泌尿器科	－	－	－	－	2
	婦人科	－	－	－	－	1
	小　計	260	201	210	213	203
療養病棟	内科	77	87	65	73	115
	外科	20	25	16	12	13
	脳神経外科	7	11	18	25	22
	小　計	104	123	99	110	150
合　計		364	324	309	323	353

⑵　死亡及び剖検件数　（単位：人）

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
死亡数	364	324	309	323	353
剖検数	－	－	－	－	－
剖検率	0%	0%	0%	0%	0%

7　薬局

⑴　処方箋枚数、錠数、疑義照会件数

	院内処方				院外処方		注射箋
	外来		入院				
	枚数	錠数	枚数	錠数	枚数	疑義照会件数	枚数
H26年度	2,179	50,486	13,150	254,759	54,187	821	34,909
H27年度	1,964	31,090	13,799	319,197	52,447	762	32,552
H28年度	1,853	39,124	14,026	322,309	52,025	787	33,858
H29年度	2,023	36,547	15,278	300,752	52,385	903	35,881
H30年度	2,028	27,397	19,171	317,862	53,954	1,284	40,440

※　入院は介護老人保健施設を含む。

⑵　服薬指導

（単位：件）

	内科	神経内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	計
H26年度	1,545	－	－	325	174	128	6	－	－	－	－	2,178
H27年度	782	－	－	125	114	119	1	－	－	1	－	1,142
H28年度	864	－	－	218	169	210	9	－	－	1	1	1,472
H29年度	784	1	－	136	163	130	2	－	－	－	－	1,216
H30年度	1,483	1	1	212	377	267	－	175	6	－	－	2,522

⑶　院内製剤

	単位	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
ボスミン5000倍	ml	5,200	5,000	5,100	5,200	5,300
ネブライザーアレルギー用	ml	3,900	3,675	3,825	3,825	3,900
ネブライザーのど用	ml	3,900	3,600	3,825	3,825	4,260
ネブライザー鼻用	ml	3,900	3,675	3,825	3,825	3,900
トリクロロ酢酸25%	ml	1,200	1,400	1,300	1,200	1,200
硝酸銀20%	ml	600	700	650	600	600
アネステジングリセリン3%	ml	100	20	100	－	－
耳垢水	ml	100	－	100	90	110
消泡剤（内視鏡）	l	270	323	345	294	216
CP	g	54	－	－	－	－
NP	g	216	－	－	－	－
メトロニダゾール軟膏	g	－	390	500	300	100
ゲーベンシュガー軟膏	g	300	300	－	－	－
酢酸液1.5%	ml	200	－	－	－	－
3%Nacl（高張食塩水）	ml	－	－	－	120	－
キシロカインアズノールうがい液	ml	－	－	－	－	9,500
3%酢酸水溶液	ml	－	－	－	－	1,400

8　検査科

（単位：件）

			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
生化学検査		外来	420,902	417,928	420,699	411,882	404,560
		入院	99,022	90,878	98,962	96,442	101,074
		健診	366,076	373,836	384,215	382,640	389,799
		計	886,000	882,642	903,876	890,964	895,433
輸血・血清検査		外来	23,870	25,647	23,927	22,292	22,144
		入院	4,173	3,931	3,863	4,082	5,635
		健診	14,839	15,797	15,724	16,454	17,545
		計	42,882	45,375	43,514	42,828	45,324
血液検査		外来	121,124	118,827	119,544	116,467	116,657
		入院	39,164	36,993	37,713	36,906	40,555
		健診	119,033	120,224	123,431	122,234	128,787
		計	279,321	276,044	280,688	275,607	285,999
一般検査		外来	14,976	15,797	15,960	14,957	17,215
		入院	2,200	2,234	2,240	2,070	2,673
		健診	74,187	75,476	76,896	75,677	77,854
		計	91,363	93,507	95,096	92,704	97,742
生理検査		外来	10,664	10,990	10,592	9,661	9,199
		入院	921	882	988	1,199	1,392
		健診	35,894	37,816	39,162	38,868	70,511
		計	47,479	49,688	50,742	49,728	81,102
病理検査	組織	外来	1,113	1,028	1,028	963	706
		入院	106	69	112	126	504
		健診	－	－	－	－	－
		計	1,219	1,097	1,140	1,089	1,210
	細胞診	外来	446	572	531	335	592
		入院	69	60	97	67	119
		健診	2,157	2,144	2,163	2,292	2,299
		計	2,672	2,776	2,791	2,694	3,010
小　計		外来	593,095	590,789	592,281	576,557	571,073
		入院	145,655	135,047	143,975	140,892	151,952
		健診	612,186	625,293	641,591	638,165	686,795
		計	1,350,936	1,351,129	1,377,847	1,355,614	1,409,820
外注検査		外来	20,654	18,655	20,002	18,482	17,318
		入院	4,984	4,486	5,724	5,839	6,566
		健診	6,104	5,652	6,474	4,798	10,440
		計	31,742	28,793	32,200	29,119	34,324
総合計		外来	613,749	609,444	612,283	595,039	588,391
		入院	150,639	139,533	149,699	146,731	158,518
		健診	618,290	630,945	648,065	642,963	697,235
		計	1,382,678	1,379,922	1,410,047	1,384,733	1,444,144

9　放射線科

⑴　年度別検査件数

（単位：件）

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
一般	入院	2,819	2,339	2,450	2,459	3,053
	外来	12,735	12,744	12,782	12,937	12,717
	健診	1,335	1,668	1,716	1,599	1,152
	計	16,889	16,751	16,948	16,995	16,922
ＣＴ（本館）	入院	606	642	656	625	705
	外来	3,268	3,515	3,568	3,532	4,030
	健診	308	421	444	437	457
	計	4,182	4,578	4,668	4,594	5,192
ＣＴ（新館）	入院	7	－	－	－	－
	外来	196	－	－	－	－
	健診	－	－	－	－	－
	計	203	－	－	－	－
手術室透視	入院	－	－	－	－	160
	外来	－	－	－	－	6
	健診	－	－	－	－	－
	計	－	－	－	－	166
ＭＲＩ	入院	292	266	302	303	309
	外来	1,705	1,709	1,651	1,567	1,776
	健診	271	268	213	244	239
	計	2,268	2,243	2,166	2,114	2,324
血管造影	入院	71	63	55	42	31
	外来	－	－	－	－	－
	健診	－	－	－	－	－
	計	71	63	55	42	31
核医学	入院	9	12	6	13	16
	外来	82	108	118	68	94
	健診	－	－	－	－	－
	計	91	120	124	81	110
Ｘ線テレビ	入院	191	172	158	124	215
	外来	66	52	65	62	77
	健診	－	－	－	－	－
	計	257	224	223	186	292
骨密度測定	入院	5	1	2	3	1
	外来	1,085	1,397	1,674	1,750	1,703
	健診	－	－	－	－	－
	計	1,090	1,398	1,676	1,753	1,704
合　計	入院	4,000	3,495	3,629	3,569	4,490
	外来	19,137	19,525	19,858	19,916	20,403
	健診	1,914	2,357	2,373	2,280	1,848
	計	25,051	25,377	25,860	25,765	26,741

⑵　医療機器共同利用件数

（単位：件）

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
ＣＴ	67	78	68	53	49
ＭＲＩ	461	445	441	413	409
核医学	2	1	4	4	－
骨密度測定	2	21	15	7	7
骨盤計測	15	4	7	5	3
合　計	547	549	535	482	468

⑶　健康診断センターにおける年度別検査件数

（単位：件）

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
ドック胸部	6,161	6,227	6,315	6,461	6,731
ドック胃部	1,257	1,240	1,303	1,277	1,360
注腸	1	－	－	－	－
ＭＭＧ（乳房撮影）	1,335	1,668	1,623	1,572	1,483
ＤＴＸ（骨密度）	1,610	1,711	1,604	－	－
前腕ＤＥＸＡ（骨密度）	－	－	－	1,698	1,679
バス胸部	23,929	23,614	23,884	23,948	24,781
バス胃部	11,493	11,540	11,545	11,155	10,488
合　計	45,786	46,000	46,274	46,111	46,522

10　リハビリテーション科

⑴　リハビリ処方箋件数

（単位：件）

	H26年度			H27年度			H28年度			H29年度			H30年度		
	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計
内科	18	433	451	43	609	652	22	913	935	27	928	955	36	1,171	1,207
神経内科	1	－	1	8	－	8	16	－	16	10	－	10	8	－	8
小児科	25	－	25	22	－	22	23	－	23	16	－	16	21	－	21
外科	15	170	185	13	147	160	14	91	105	14	68	82	10	84	94
整形外科	103	153	256	139	168	307	127	172	299	79	239	318	70	301	371
脳神経外科	37	114	151	57	370	427	61	417	478	51	354	405	48	348	396
皮膚科	－	1	1	－	1	1	－	2	2	－	1	1	－	－	－
泌尿器科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	19	19
婦人科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1
心療内科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	7	－	7
合　計	199	871	1,070	282	1,295	1,577	263	1,595	1,858	197	1,590	1,787	200	1,924	2,124

⑵　診断名別リハビリ処方患者実数

（単位：人）

診断名	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
脳梗塞	111	90	110	96	107
急性呼吸不全（肺炎他）	65	84	122	141	131
大腿骨頚部・転子部骨折	75	73	74	80	87
四肢骨折（大腿骨頚部・転子部骨折を除く）	68	40	42	54	50
慢性心不全	33	36	38	54	49
がん	34	35	37	34	54
腎不全、腎盂炎、腎盂腎炎	－	31	29	32	29
リウマチ性多発筋痛症、RS3PE	－	29	26	38	29
脳内出血	19	29	17	21	33
脊椎圧迫骨折	28	28	30	47	49
慢性呼吸不全	39	24	24	16	12
頚肩腕症候群、頚椎症性神経根症	15	22	12	9	－
変性脊椎症、すべり症、脊柱管狭窄症他	7	21	23	15	18
頭部外傷、脳挫傷、急性硬膜外血腫	－	17	8	9	－
肩関節周囲炎	8	12	6	9	－
慢性硬膜下血腫	－	11	6	9	9
パーキンソン病	－	－	－	－	13
脊椎小脳変性症	－	－	－	－	12
腰痛症	－	－	－	－	10
変形性股・膝関節症	－	－	－	－	7
他	398	415	330	267	273
合　計	900	997	934	931	972

(3) 年度別リハビリ件数

（単位：件）

			H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度	
			件数	単位	件数	単位	件数	単位	件数	単位	件数	単位
理学療法	脳血管リハ	外来	606	863	678	1,107	711	1,127	630	958	383	559
		入院	8,472	11,585	9,528	14,579	9,277	12,857	9,131	12,733	9,024	12,973
		計	9,078	12,448	10,206	15,686	9,988	13,984	9,761	13,691	9,407	13,532
	廃用リハ	外来	158	235	182	268	228	373	186	314	151	290
		入院	9,643	14,747	9,558	13,008	10,660	17,088	12,230	19,638	11,675	17,290
		計	9,801	14,982	9,740	13,276	10,888	17,461	12,416	19,952	11,826	17,580
	運動器リハ	外来	3,244	4,918	3,358	4,891	2,909	4,501	1,808	2,907	1,450	2,511
		入院	4,414	8,845	4,818	9,619	4,395	8,876	5,571	7,849	6,710	12,685
		計	7,658	13,763	8,176	14,510	7,304	13,377	7,379	10,756	8,160	15,196
	呼吸器リハ	外来	60	65	50	59	－	－	1	1	5	8
		入院	2,327	3,649	2,443	3,557	1,816	3,137	1,511	2,544	1,743	2,669
		計	2,387	3,714	2,493	3,616	1,816	3,137	1,512	2,545	1,748	2,677
	がんリハ	外来	－	－	－	－	－	－	－	－	38	68
		入院	236	360	－	－	－	－	－	－	－	－
		計	236	360	－	－	－	－	－	－	38	68
	小　計	外来	4,068	6,081	4,268	6,325	3,848	6,001	2,625	4,180	1,989	3,368
		入院	25,092	39,186	26,347	40,763	26,148	41,958	28,443	42,764	29,190	45,685
		計	29,160	45,267	30,615	47,088	29,996	47,959	31,068	46,944	31,179	49,053
作業療法	脳血管リハ	外来	764	1,026	569	785	564	691	492	564	328	358
		入院	5,476	8,104	7,180	10,833	6,540	9,633	6,893	9,831	6,493	8,943
		計	6,240	9,130	7,749	11,618	7,104	10,324	7,385	10,395	6,821	9,301
	廃用リハ	外来	8	13	31	56	22	41	22	37	23	45
		入院	4,792	6,889	4,764	6,758	4,718	7,799	7,390	11,073	7,342	9,935
		計	4,800	6,902	4,795	6,814	4,740	7,840	7,412	11,110	7,365	9,980
	運動器リハ	外来	644	966	960	1,481	685	871	551	849	310	508
		入院	1,378	2,523	1,383	2,632	1,144	2,031	1,766	3,105	2,712	4,425
		計	2,022	3,489	2,343	4,113	1,829	2,902	2,317	3,954	3,022	4,933
	呼吸器リハ	外来	－	－	1	2	－	－	－	－	－	－
		入院	1,313	1,806	772	1,048	606	921	672	1,076	1,262	1,685
		計	1,313	1,806	773	1,050	606	921	672	1,076	1,262	1,685
	がんリハ	外来	－	－	－	－	－	－	－	－	4	6
		入院	107	171	－	－	－	－	－	－	－	－
		計	107	171	－	－	－	－	－	－	4	6
	小　計	外来	1,416	2,005	1,561	2,324	1,271	1,603	1,065	1,450	661	911
		入院	13,066	19,493	14,099	21,271	13,008	20,384	16,721	25,085	17,813	24,994
		計	14,482	21,498	15,660	23,595	14,279	21,987	17,786	26,535	18,474	25,905
言語聴覚療法	脳血管リハ	外来	357	678	324	640	337	664	293	575	277	541
		入院	1,376	2,482	1,622	2,793	1,706	3,044	1,731	2,734	2,368	3,966
		計	1,733	3,160	1,946	3,433	2,043	3,708	2,024	3,309	2,645	4,507
	廃用リハ	外来	－	－	－	－	－	－	1	1	1	2
		入院	591	1,073	528	1,098	492	908	826	1,515	1,499	2,395
		計	591	1,073	528	1,098	492	908	827	1,516	1,500	2,397
	摂食機能療法	外来	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－
		入院	－	－	123	123	48	48	95	95	69	69
		計	－	－	123	123	49	49	95	95	69	69
	小　計	外来	357	678	324	640	338	665	294	576	278	543
		入院	1,967	3,555	2,273	4,014	2,246	4,000	2,652	4,344	3,936	6,430
		計	2,324	4,233	2,597	4,654	2,584	4,665	2,946	4,920	4,214	6,973
合　計	脳血管リハ	外来	1,727	2,567	1,571	2,532	1,612	2,482	1,415	2,097	988	1,458
		入院	15,324	22,171	18,330	28,205	17,523	25,534	17,755	25,298	17,885	25,882
		計	17,051	24,738	19,901	30,737	19,135	28,016	19,170	27,395	18,873	27,340
	廃用リハ	外来	166	248	213	324	250	414	209	352	175	337
		入院	15,026	22,709	14,850	20,864	15,870	25,795	20,446	32,226	20,516	29,620
		計	15,192	22,957	15,063	21,188	16,120	26,209	20,655	32,578	20,691	29,957
	運動器リハ	外来	3,888	5,884	4,318	6,372	3,594	5,372	2,359	3,756	1,760	3,019
		入院	5,792	11,368	6,201	12,251	5,539	10,907	7,337	10,954	9,422	17,110
		計	9,680	17,252	10,519	18,623	9,133	16,279	9,696	14,710	11,182	20,129
	呼吸器リハ	外来	60	65	51	61	－	－	1	1	5	8
		入院	3,640	5,455	3,215	4,605	2,422	4,058	2,183	3,620	3,005	4,354
		計	3,700	5,520	3,266	4,666	2,422	4,058	2,184	3,621	3,010	4,362
	がんリハ	外来	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		入院	343	531	－	－	－	－	－	－	42	74
		計	343	531	－	－	－	－	－	－	42	74
	摂食機能療法	外来	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－
		入院	－	－	123	123	48	48	95	95	69	69
		計	－	－	123	123	49	49	95	95	69	69
	小　計	外来	5,841	8,764	6,153	9,289	5,457	8,269	3,984	6,206	2,928	4,822
		入院	40,125	62,234	42,719	66,048	41,402	66,342	47,816	72,193	50,939	77,109
		計	45,966	70,998	48,872	75,337	46,859	74,611	51,800	78,399	53,867	81,931

11　栄養管理科

⑴　栄養指導件数

①　診療科別

（単位：件）

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
内科	外来	105	108	110	113	140
	入院	196	154	94	112	82
	計	301	262	204	225	222
外科	外来	18	8	4	6	11
	入院	71	62	53	58	49
	計	89	70	57	64	60
整形外科	外来	－	1	－	－	－
	入院	89	32	23	15	9
	計	89	33	23	15	9
脳神経外科	外来	5	1	7	22	7
	入院	27	63	72	45	37
	計	32	64	79	67	44
泌尿器科	外来	－	18	－	－	－
	入院	3	－	－	－	1
	計	3	18	－	－	1
合　計	外来	128	136	121	141	158
	入院	386	311	242	230	178
	計	514	447	363	371	336

②　内容別

（単位：件）

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
糖尿病、肥満	外来	43	59	61	57	89
	入院	89	85	72	83	56
	計	132	144	133	140	145
塩分制限	外来	58	47	70	65	42
	入院	246	158	161	121	56
	計	304	205	231	186	98
透析、腎不全、その他の腎炎	外来	17	20	6	6	7
	入院	14	22	13	2	11
	計	31	42	19	8	18
脂質異常症	外来	69	81	63	80	46
	入院	21	13	26	17	23
	計	90	94	89	97	69
炎症性腸疾患（低残渣）	外来	－	－	－	4	－
	入院	4	1	8	29	31
	計	4	1	8	33	31
術後食	外来	－	1	1	1	－
	入院	7	9	16	14	12
	計	7	10	17	15	12
肝炎、肝硬変、膵炎	外来	2	2	1	2	2
	入院	61	38	23	21	2
	計	63	40	24	23	4
低栄養	外来	－	－	－	1	1
	入院	－	－	－	6	15
	計	－	－	－	7	16
その他	外来	26	6	21	15	2
	入院	72	61	64	30	7
	計	98	67	85	45	9
合　計	外来	215	216	223	231	189
	入院	514	387	383	323	213
	計	729	603	606	554	402

※　１件につき複数の病名があるため、診療科別と一致しません。

⑵　給食数　　（単位：食数）

	一般食	特別食	濃厚流動食	合計
H26年度	36,003	70,198	45,333	151,534
H27年度	32,778	75,780	57,581	166,139
H28年度	34,618	72,081	60,367	167,066
H29年度	35,786	73,156	56,267	165,209
H30年度	40,835	80,112	41,011	161,958

⑶　ＮＳＴ報告

①　診療科別ＮＳＴ実施件数　　（単位：件）

	診療科	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
急性期病床	内科	603	545	541	487	333
	外科	50	11	3	6	1
	整形外科	129	139	145	153	135
	脳神経外科	274	377	283	222	110
	皮膚科	－	2	－	－	－
	その他	－	－	－	－	3
	計	1,056	1,074	972	868	582
亜急性期病床	内科	－				
	外科	－				
	整形外科	－				
	脳神経外科	3				
	計	3				
地域包括ケア病床	内科	27	40	82	121	88
	外科	3	3	1	4	－
	整形外科	12	14	38	25	18
	脳神経外科	11	19	46	27	22
	計	53	76	167	177	128
療養病床	内科	87	75	75	31	40
	外科	19	23	1	3	2
	整形外科	－	－	－	－	3
	脳神経外科	37	51	41	55	3
	計	143	149	117	89	48
合　計	内科	717	660	698	639	461
	外科	72	37	5	13	3
	整形外科	141	153	183	178	156
	脳神経外科	325	447	370	304	135
	皮膚科	－	2	－	－	－
	その他	－	－	－	－	3
	計	1,255	1,299	1,256	1,134	758

②　ＮＳＴ介入理由別患者実数　　（単位：人）

NST介入理由	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
改善が見込めるとNSTが判断した患者	67	82	139	131	76
アルブミン低値	158	167	213	203	162
栄養量の検討	10	10	6	10	4
嚥下障害	5	5	2	1	1
経腸・経口栄養への移行	2	5	4	1	－
褥瘡	39	27	20	25	29
食欲不振・食事量低下	46	25	24	28	40
低体重・体重減少	1	－	－	1	－
合　計	328	321	408	400	312

12　訪問看護ステーション

⑴　訪問対象者

（単位：人）

	H26年度						H27年度						H28年度						H29年度						H30年度					
	看護			リハビリ			看護			リハビリ			看護			リハビリ			看護			リハビリ			看護			リハビリ		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
介護保険	48	51	99	17	16	33	45	53	98	11	14	25	52	60	112	8	17	25	56	70	126	6	19	25	61	106	167	16	21	37
医療保険	9	15	24	−	−	−	9	11	20	−	−	−	22	19	41	−	−	−	12	22	34	−	1	1	21	18	39	−	1	1
合　計	57	66	123	17	16	33	54	64	118	11	14	25	74	79	153	8	17	25	68	92	160	6	20	26	82	124	206	16	22	38

※　訪問看護は、看護とリハビリの重複があります。

⑵　年齢別訪問対象者

（単位：人）

	H26年度						H27年度						H28年度						H29年度						H30年度					
	看護			リハビリ			看護			リハビリ			看護			リハビリ			看護			リハビリ			看護			リハビリ		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
～59歳	2	4	6		1	1	2	4	6	−	1	1	7	8	15	−	−	−	6	9	15	−	1	1	7	6	13	−	1	1
60～64歳	−	4	4	−	−	−	−	2	2	−	−	−	2	4	6	−	1	1	2	5	7	−	−	−	1	3	4	−	−	−
65～69歳	7	6	13	1	−	1	7	3	10	1	−	1	6	5	11	1	−	1	2	6	8	−	1	1	8	10	18	2	2	4
70～74歳	7	9	16	1	2	3	7	11	18	1	−	1	9	12	21	1	1	2	7	15	22	2	1	3	9	14	23	3	3	6
75～79歳	8	11	19	3	2	5	8	9	17	1	2	3	9	7	16	1	2	3	11	7	18	−	1	1	13	16	29	1	1	2
80～84歳	16	6	22	3	5	8	14	9	23	3	7	10	16	13	29	3	8	11	13	20	33	2	5	7	13	21	34	3	3	6
85～89歳	10	11	21	6	3	9	10	9	19	3	1	4	17	13	30	1	2	3	17	11	28	1	6	7	20	23	43	4	8	12
90～99歳	7	15	22	3	3	6	6	15	21	2	3	5	8	14	22	1	3	4	10	17	27	1	5	6	11	28	39	3	4	7
100歳～	−	−	−	−	−	−	−	2	2	−	−	−	−	3	3	−	−	−	−	2	2	−	−	−	−	3	3	−	−	−
合　計	57	66	123	17	16	33	54	64	118	11	14	25	74	79	153	8	17	25	68	92	160	6	20	26	82	124	206	16	22	38

⑶　医療機関別訪問対象者

（単位：人）

	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度	
	看護	リハビリ	看護	リハビリ	看護	リハビリ	看護	リハビリ	看護	リハビリ
共立蒲原総合病院	70	18	72	14	63	14	65	16	77	19
内科	45	1	45	−	37	−	40	1	49	9
神経内科	2	1	2	−	3	−	3	−	2	
外科	7	−	7	−	7	−	9	−	5	
整形外科	4	10	6	10	6	10	5	9	10	3
脳神経外科	7	6	8	4	6	4	4	6	10	6
皮膚科	2	−	1	−	2	−	1	−	1	1
泌尿器科	2	−	2	−	1	−	1	−		
透析	1	−	1	−	1	−	2	−		
開業医	27	10	22	8	52	8	46	9	68	13
他病院	26	5	24	3	38	3	49	1	61	6
合　計	123	33	118	25	153	25	160	26	206	38

⑷　訪問看護対象者の状況

（単位：人）

	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度	
	看護	リハビリ	看護	リハビリ	看護	リハビリ	看護	リハビリ	看護	リハビリ
訪問看護継続中	67	25	76	21	92	20	95	22	129	36
施設・老人病院へ	21	−	4	1	15	2	18	−	20	1
死亡	28	3	32	−	39	−	42	1	47	−
ケース終了	7	5	6	3	7	3	5	3	10	1
合　計	123	33	118	25	153	25	160	26	206	38

⑸　訪問利用者延数

①　訪問看護・訪問リハビリ

（単位：人）

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
訪 問 看 護	3,326	3,999	6,506	6,344	6,672
訪問リハビリ	2,507	2,535	2,556	2,521	2,528
計	5,833	6,534	9,062	8,865	9,200

②　介護保険・医療保険

（単位：人）

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
介護保険	4,926 (447)	5,469 (586)	6,781 (793)	7,052 (815)	7,164 (1,097)
医療保険	907	1,065	2,281	1,813	2,036
計	5,833	6,534	9,062	8,865	9,200

※　(括弧)内は、介護予防の再掲です。

⑹　地区別利用者延数推移（５年間）

（単位：人）

地区		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
富士市	旧富士川町	1,645	1,954	2,349	2,192	2,216
	旧富士市	234	314	2,608	2,717	2,751
	計	1,879	2,268	4,957	4,909	4,967
静岡市	旧蒲原町	2,140	2,342	2,305	2,002	2,324
	旧由比町	1,814	1,924	1,707	1,838	1,845
	計	3,954	4,266	4,012	3,840	4,169
富士宮市	旧芝川町	0	0	93	92	41
	旧富士宮市	0	0	0	24	23
	計	0	0	93	116	64
合　計		5,833	6,534	9,062	8,865	9,200

⑺　地区別利用者割合推移（５年間）

（単位：%）

地区		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
富士市	旧富士川町	28.2	29.9	25.9	24.7	24.1
	旧富士市	4.0	4.8	28.8	30.6	29.9
	計	32.2	34.7	54.7	55.4	54.0
静岡市	旧蒲原町	36.7	35.8	25.4	22.6	25.3
	旧由比町	31.1	29.4	18.8	20.7	20.1
	計	67.8	65.3	44.3	43.3	45.3
富士宮市	旧芝川町	0.0	0.0	1.0	1.0	0.4
	旧富士宮市	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3
	計	0.0	0.0	1.0	1.3	0.7
合　計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※　端数処理の関係で、合計と一致しないことがあります。

⑻　訪問対象者の主な疾患

（単位：件）

	訪問看護			訪問リハビリ		
	介護	医療	計	介護	医療	計
脳血管障害	20	1	21	9		9
悪性腫瘍	21	16	37	1		1
神経難病	4	6	10	1	2	3
心疾患	16	3	19	1		1
高血圧症	2		2			
糖尿病	4	1	5	1		1
肺疾患	27	1	28	3		3
認知症	11		11	1		1
骨折	10		10	5		5
消化器疾患	6		6			
褥瘡	2	2	4	1		1
腎･尿路系	18		18	3		3
脊柱管狭窄症				2		2
頚髄損傷	1	3	4			
脊髄横断障害	1	1	2	1		1
その他	25	4	29	7		7
合　計	168	38	206	36	2	38

⑼　訪問看護の内容（訪問看護対象者人数）

（単位：人）

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
バイタルサイン測定	123	118	153	160	206
病状観察･療養生活指導	123	118	153	160	206
福祉サービス導入に関する助言	123	118	153	160	206
医師との連絡調整	123	118	153	160	206
介護用品の紹介	123	118	153	160	206
服薬指導（主に鎮痛剤・抗がん剤）	17	20	35	28	13
保清援助及び指導	76	71	102	105	116
食事療法の指導	4	5	12	26	47
認知症･精神症状の対応方法指導	6	4	20	20	25
リハビリの実施・指導	87	68	42	56	98
医療措置の実施・指導	95	85	94	98	128

⑽　対象者が受けている医療内容

（単位：件）

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
膀胱留置カテーテル	26	23	37	39	34
胃瘻	－	－	1	2	3
経管栄養用チューブ・胃瘻	11	14	18	7	10
人工肛門	2	4	9	9	8
在宅酸素療法	15	20	11	13	20
気管切開	－	3	4	4	3
人工呼吸器	6	5	5	8	6
IVH・ポート	6	4	10	9	9
点滴（末梢）・注射（筋肉・皮下）	11	9	13	7	15
褥瘡等皮膚疾患処置	42	33	21	30	45
麻薬等疼痛管理	11	8	8	13	18
浣腸・摘便	42	36	37	46	48
吸引	7	4	9	13	16
血糖測定・インシュリン注射	4	4	7	12	12
経皮経肝ドレナージ	－	－	1	－	－
腹膜透析	1	－	－	－	－

13　健康診断センター

⑴　年度別受診者実数

①　健診センター

（単位：人）

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
一泊二日ドック	91	103	112	102	99
一日ドック	1,785	1,871	1,909	1,816	2,089
脳専門ドック	34	35	14	32	26
子宮がん・乳がん検診	780	1,044	934	910	697
その他の健診	5,194	4,905	5,222	4,876	4,993
合　計	7,884	7,958	8,191	7,736	7,904

②　検診車

（単位：人）

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
胃部Ｘ線検診	3,937	4,229	4,317	4,037	3,841
胸部Ｘ線検診	2,112	1,980	1,851	1,875	1,732
生活習慣病予防健診	23,505	23,393	23,231	22,094	22,468
特定健診	2,161	2,536	2,446	2,335	2,383
その他の健診	3,742	3,723	4,111	5,091	5,106
合　計	35,457	35,861	35,956	35,432	35,530

③　特定保健指導

（単位：人）

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
受診者実数	379	352	481	492	821

⑵　項目別悪性所見発見者数

①　健診センター

（単位：人）

		胃部検査(ＸＰ)	胃部検査(内視鏡)	胸部検査	便潜血検査
受診者数		1,360	4,263	6,822	6,197
精密検査対象者数		69	340	232	324
精密検査受診者数※1	当院	22	310	158	134
	他院	19	2	42	79
悪性所見診断者数		0	4	1	5
悪性所見発見率※2		0.000%	0.094%	0.015%	0.081%

※１　精密検査を受診したことが把握できた数（精密検査依頼状の返信があった数）
※２　各項目の受診者数に対する悪性所見の発見率

②　検診車

（単位：人）

		胃部検査(ＸＰ)	胸部検査	便潜血検査
受診者数		10,488	24,804	15,655
精密検査対象者数		791	744	1,102
精密検査受診者数※1	当院	112	191	161
	他院	274	182	270
悪性所見診断者数		11	4	14
悪性所見発見率※2		0.105%	0.016%	0.089%

※１　精密検査を受診したことが把握できた数（精密検査依頼状の返信があった数）
※２　各項目の受診者数に対する悪性所見の発見率

14　診療録管理室

⑴　疾病統計

①　疾病別・診療科別入院患者実数（平成30年度退院患者）

（単位：人）

	ICD10		総数	内科	外科	整形外科	脳外科	泌尿器科	婦人科	内科(療養)	外科(療養)	脳外科(療養)
	総数	計	2,283	1,100	484	242	174	101	2	132	19	29
		男	1,212	589	307	66	99	78	−	56	7	10
		女	1,071	511	177	176	75	23	2	76	12	19
Ⅰ	感染症及び寄生虫症	計	46	36	5	1	1	−	−	3	−	−
		男	21	15	2	1	1	−	−	2	−	−
		女	25	21	3	−	−	−	−	1	−	−
Ⅱ	新生物	計	264	120	70	2	4	43	1	18	6	−
		男	147	79	20	−	2	34	−	10	2	−
		女	117	41	50	2	2	9	1	8	4	−
Ⅲ	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計	24	14	4	1	−	1	−	4	−	−
		男	10	4	3	−	−	1	−	2	−	−
		女	14	10	1	1	−	−	−	2	−	−
Ⅳ	内分泌，栄養及び代謝疾患	計	61	51	−	4	2	−	−	4	−	−
		男	27	22	−	3	1	−	−	1	−	−
		女	34	29	−	1	1	−	−	3	−	−
Ⅴ	精神及び行動の障害	計	8	5	2	−	1	−	−	−	−	−
		男	5	3	1	−	1	−	−	−	−	−
		女	3	2	1	−	−	−	−	−	−	−
Ⅵ	神経系の疾患	計	73	49	1	−	19	−	−	4	−	−
		男	48	35	1	−	11	−	−	1	−	−
		女	25	14	−	−	8	−	−	3	−	−
Ⅷ	耳及び乳様突起の疾患	計	51	43	3	−	5	−	−	−	−	−
		男	20	16	1	−	3	−	−	−	−	−
		女	31	27	2	−	2	−	−	−	−	−
Ⅸ	循環器系の疾患	計	290	124	5	1	110	−	−	20	5	25
		男	140	60	2	1	61	−	−	5	2	9
		女	150	64	3	−	49	−	−	15	3	16
Ⅹ	呼吸器系の疾患	計	370	288	18	1	−	1	−	59	3	−
		男	197	157	7	−	−	1	−	31	1	−
		女	173	131	11	1	−	−	−	28	2	−
ⅩⅠ	消化器系の疾患	計	540	162	364	−	−	1	−	8	3	2
		男	366	97	266	−	−	−	−	2	1	−
		女	174	65	98	−	−	1	−	6	2	2
ⅩⅡ	皮膚及び皮下組織の疾患	計	20	15	1	2	1	−	−	−	−	1
		男	11	7	1	1	1	−	−	−	−	1
		女	9	8	−	1	−	−	−	−	−	−
ⅩⅢ	筋骨格系及び結合組織の疾患	計	56	27	2	24	1	−	−	2	−	−
		男	17	9	−	8	−	−	−	−	−	−
		女	39	18	2	16	1	−	−	2	−	−
ⅩⅣ	腎尿路生殖器系の疾患	計	197	133	−	−	2	54	1	7	−	−
		男	116	72	−	−	1	41	−	2	−	−
		女	81	61	−	−	1	13	1	5	−	−
ⅩⅦ	先天奇形，変形及び染色体異常	計	1	−	−	−	1	−	−	−	−	−
		男	1	−	−	−	1	−	−	−	−	−
		女	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ⅩⅨ	損傷，中毒及びその他の外因の影響	計	281	32	9	206	27	1	−	3	2	1
		男	86	13	3	52	16	1	−	−	1	−
		女	195	19	6	154	11	−	−	3	1	1
ⅩⅩ	傷病及び死亡の外因	計	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−
		男	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
		女	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−

②　疾病別・年齢別入院患者実数（平成30年度退院患者）

（単位：人、歳）

	ICD10		総数	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～	平均年齢
	総数	計	2,283	－	1	1	12	12	38	91	176	128	242	253	365	338	319	307	74.5
		男	1,212	－	1	1	7	7	22	67	130	86	146	169	204	163	123	86	71.0
		女	1,071	－	－	－	5	5	16	24	46	42	96	84	161	175	196	221	78.4
Ⅰ	感染症及び寄生虫症	計	46	－	－	－	－	2	6	4	3	3	6	7	5	4	2	4	64.1
		男	21	－	－	－	－	1	3	2	1	－	3	4	3	2	1	1	63.3
		女	25	－	－	－	－	1	3	2	2	3	3	3	2	2	1	3	64.7
Ⅱ	新生物	計	264	－	－	－	－	－	3	5	23	18	41	29	47	44	29	25	74.2
		男	147	－	－	－	－	－	3	3	9	14	24	16	28	27	15	8	73.4
		女	117	－	－	－	－	－	－	2	14	4	17	13	19	17	14	17	75.2
Ⅲ	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計	24	－	－	－	－	－	－	1	2	1	1	1	4	4	6	4	78.3
		男	10	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	2	2	5	－	79.9
		女	14	－	－	－	－	－	－	－	2	1	1	1	2	2	1	4	77.1
Ⅳ	内分泌，栄養及び代謝疾患	計	61	－	－	－	1	－	1	3	6	5	7	3	8	12	9	6	72.6
		男	27	－	－	－	1	－	1	1	5	2	2	2	5	5	3	－	67.3
		女	34	－	－	－	－	－	－	2	1	3	5	1	3	7	6	6	76.8
Ⅴ	精神及び行動の障害	計	8	－	－	－	－	－	－	1	2	1	－	－	2	－	2	－	68.6
		男	5	－	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	1	－	2	－	74.2
		女	3	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	－	1	－	－	－	59.3
Ⅵ	神経系の疾患	計	73	－	－	－	1	1	4	4	11	4	14	3	7	7	11	6	68.4
		男	48	－	－	－	1	1	2	4	10	2	9	1	7	6	2	3	65.0
		女	25	－	－	－	－	－	2	－	1	2	5	2	－	1	9	3	74.9
Ⅷ	耳及び乳様突起の疾患	計	51	－	－	－	－	－	1	2	10	2	5	11	7	6	5	2	70.1
		男	20	－	－	－	－	－	－	－	7	1	3	5	3	－	1	－	66.7
		女	31	－	－	－	－	－	1	2	3	1	2	6	4	6	4	2	72.2
Ⅸ	循環器系の疾患	計	290	－	－	－	1	－	1	－	10	6	14	32	47	45	61	73	81.6
		男	140	－	－	－	1	－	－	－	8	4	8	25	32	19	21	22	77.9
		女	150	－	－	－	－	－	1	－	2	2	6	7	15	26	40	51	85.1
Ⅹ	呼吸器系の疾患	計	370	－	－	－	4	1	5	3	4	9	27	29	70	75	62	81	80.0
		男	197	－	－	－	3	1	2	2	4	4	20	21	34	47	30	29	77.7
		女	173	－	－	－	1	－	3	1	－	5	7	8	36	28	32	52	82.6
ⅩⅠ	消化器系の疾患	計	540	－	－	－	－	－	11	44	65	56	91	85	88	50	30	20	68.3
		男	366	－	－	－	－	－	8	33	57	44	58	58	59	32	14	3	66.3
		女	174	－	－	－	－	－	3	11	8	12	33	27	29	18	16	17	72.5
ⅩⅡ	皮膚及び皮下組織の疾患	計	20	－	－	－	－	－	－	－	3	－	1	4	2	4	2	4	77.0
		男	11	－	－	－	－	－	－	－	3	－	1	3	1	1	1	1	70.5
		女	9	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	3	1	3	85.0
ⅩⅢ	筋骨格系及び結合組織の疾患	計	56	－	－	－	－	2	－	1	4	2	5	5	5	8	11	13	77.4
		男	17	－	－	－	－	1	－	1	2	2	1	2	1	－	3	4	72.0
		女	39	－	－	－	－	1	－	－	2	－	4	3	4	8	8	9	79.8
ⅩⅣ	腎尿路生殖器系の疾患	計	197	－	－	－	－	2	1	16	18	10	13	26	31	28	26	26	73.6
		男	116	－	－	－	－	－	－	15	11	6	8	23	19	13	13	8	70.8
		女	81	－	－	－	－	2	1	1	7	4	5	3	12	15	13	18	77.7
ⅩⅦ	先天奇形，変形及び染色体異常	計	1	－	1	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	41.0
		男	1	－	1	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	41.0
		女	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ⅩⅨ	損傷，中毒及びその他の外因の影響	計	281	－	－	－	5	4	5	6	15	11	17	17	42	51	63	43	76.2
		男	86	－	－	－	1	3	3	4	12	6	9	9	9	9	12	7	67.6
		女	195	－	－	－	4	1	2	2	3	5	8	8	33	42	51	36	80.0
ⅩⅩ	傷病及び死亡の外因	計	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	74.0
		男	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		女	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	74.0

③　診療科別・疾病頻度順入院患者状況（平成30年度退院患者）

診療科	順位	コード	病名	件数	平均在院日数	入院時平均年齢		順位	コード	病名	件数	平均在院日数	入院時平均年齢
内科	1	J189	肺炎，詳細不明	87	24.4	83.0	男	1	J189	肺炎，詳細不明	45	23.1	80.0
	2	J690	食物及び吐物による肺臓炎	72	30.0	81.7		2	J690	食物及び吐物による肺臓炎	39	31.3	78.8
	3	I500	うっ血性心不全	63	25.2	85.7		3	I500	うっ血性心不全	26	21.3	84.3
	4	C220	肝及び肝内胆管の悪性新生物，肝癌	32	19.0	74.2		4	C220	肝及び肝内胆管の悪性新生物，肝癌	23	12.6	70.8
	5	N10	急性尿細管間質性腎炎	29	20.8	79.4		5	G473	睡眠時無呼吸	20	2.0	56.1
							女	1	J189	肺炎，詳細不明	42	25.8	86.1
								2	I500	うっ血性心不全	37	27.9	86.8
								3	J690	食物及び吐物による肺臓炎	33	28.5	85.2
								4	N10	急性尿細管間質性腎炎	21	21.2	78.8
								5	H810	メニエール病	11	8.6	73.5
外科	1	K635	大腸<結腸>のポリープ	230	2.1	64.3	男	1	K635	大腸<結腸>のポリープ	178	2.1	63.5
	2	K621	直腸ポリープ	49	2.0	62.6		2	K621	直腸ポリープ	36	2.0	60.3
	3	C508	乳房の悪性新生物，乳房の境界部病巣	16	7.1	69.4		3	K409	一側性又は患側不明のそけい<鼠径>ヘルニア，閉塞又はえ<壊>疽を伴わないもの	8	5.4	74.9
	4	K913	術後腸閉塞	13	22.2	70.5		4	K913	術後腸閉塞	7	17.7	70.0
	4	C504	乳房の悪性新生物，乳房上外側４分の１	13	8.8	64.2		5	K573	穿孔又は膿瘍を伴わない大腸の憩室性疾患	6	8.2	76.8
	6	J690	食物及び吐物による肺臓炎	9	7.9	78.6			J931	その他の自然気胸	6	11.3	42.2
		K573	穿孔又は膿瘍を伴わない大腸の憩室性疾患	9	7.2	72.0	女	1	K635	大腸<結腸>のポリープ	52	2.1	67.0
								2	C508	乳房の悪性新生物，乳房の境界部病巣	16	7.1	69.4
								3	K621	直腸ポリープ	13	2.0	69.0
									C504	乳房の悪性新生物，乳房上外側４分の１	13	8.8	64.2
								5	J690	食物及び吐物による肺臓炎	9	7.9	78.6
								6	K913	術後腸閉塞	6	27.5	71.0
整形	1	S7210	転子貫通骨折　閉鎖性	42	40.5	87.2	男	1	S3200	腰椎骨折 閉鎖性	9	19.9	75.0
	2	S7200	大腿骨頚部骨折　閉鎖性	40	45.2	83.4		2	S7210	転子貫通骨折　閉鎖性	5	32.0	73.2
	3	S3200	腰椎骨折 閉鎖性	26	24.1	78.3		3	S7200	大腿骨頚部骨折　閉鎖性	4	76.3	84.3
	4	S2200	胸椎骨折 閉鎖性	10	26.1	81.6		4	M4806	腰部脊柱管狭窄症	2	21.5	76.0
	5	S8200	膝蓋骨骨折 閉鎖性	9	35.7	79.7			S2200	胸椎骨折 閉鎖性	2	34.5	76.0
									S860	アキレス腱損傷	2	15.0	52.5
									S626	その他の指の骨折	2	6.5	47.0
								8	I702	(四)肢の動脈のアテローム<じゅく<粥>状>硬化(症)	1	74.0	86.0
									M131	単(発性)関節炎，他に分類されないもの	1	7.0	73.0
									T021	胸部<郭>の骨折，下背部及び骨盤部の骨折を伴うもの	1	49.0	90.0
									S5250	橈骨遠位端骨折 閉鎖性	1	4.0	59.0
									A419	敗血症，詳細不明	1	12.0	74.0
									S3280	腰椎及び骨盤のその他及び部位不明の骨折 閉鎖性	1	41.0	60.0
									S701	大腿の挫傷	1	7.0	60.0
									S141	頚髄のその他及び詳細不明の損傷	1	9.0	36.0
									S520	尺骨近位端骨折	1	35.0	86.0
									S300	下背部及び骨盤部の挫傷	1	43.0	66.0
									S8220	脛骨骨幹部骨折 閉鎖性	1	45.0	71.0
									S920	踵骨骨折	1	27.0	50.0
									S522	尺骨骨幹部骨折	1	2.0	6.0
									S828	下腿のその他の部位の骨折	1	41.0	36.0
									S321	仙骨骨折	1	47.0	101.0
							女	1	S7210	転子貫通骨折　閉鎖性	37	41.7	89.1
								2	S7200	大腿骨頚部骨折　閉鎖性	36	41.7	83.3
								3	S3200	腰椎骨折 閉鎖性	17	26.3	80.0
								4	S8200	膝蓋骨骨折 閉鎖性	9	35.7	79.7
								5	S2200	胸椎骨折 閉鎖性	8	24.0	83.0
脳外科	1	I638	その他の脳梗塞	37	35.6	79.9	男	1	I638	その他の脳梗塞	16	26.3	76.1
	2	I633	脳動脈の血栓症による脳梗塞	21	29.6	79.2		2	I633	脳動脈の血栓症による脳梗塞	12	21.8	73.0
	3	I610	(大脳)半球の脳内出血，皮質下	13	34.4	75.0		3	I610	(大脳)半球の脳内出血，皮質下	9	28.7	69.6
		G408	その他のてんかん	13	11.0	70.6		4	I634	脳動脈の塞栓症による脳梗塞	7	29.9	76.1
	5	I634	脳動脈の塞栓症による脳梗塞	11	34.2	77.5			G408	その他のてんかん	7	10.9	70.6

	6	S0650	外傷性硬膜下出血	8	18.4	80.4		6	I620	硬膜下出血(急性)(非外傷性)	6	23.2	81.2
							女	1	I638	その他の脳梗塞	21	42.6	82.9
								2	I633	脳動脈の血栓症による脳梗塞	9	40.0	87.6
								3	G408	その他のてんかん	6	11.2	70.7
								4	S0650	外傷性硬膜下出血	5	21.6	80.6
								5	I610	(大脳)半球の脳内出血，皮質下	4	47.3	87.3
									I634	脳動脈の塞栓症による脳梗塞	4	41.8	80.0
泌尿器科	1	C61	前立腺の悪性新生物	31	7.9	72.4	男	1	C61	前立腺の悪性新生物	31	7.9	72.4
	2	N201	尿管結石	24	2.6	63.3		2	N201	尿管結石	22	2.4	61.5
	3	N40	前立腺肥大(症)	9	13.1	85.1		3	N40	前立腺肥大(症)	9	13.1	85.1
	4	N390	尿路感染症，部位不明	4	35.3	78.8		4	N390	尿路感染症，部位不明	2	19.5	79.5
	5	N10	急性尿細管間質性腎炎	2	6.5	81.5			N10	急性尿細管間質性腎炎	2	6.5	81.5
								5	J189	肺炎，詳細不明	1	23.0	81.0
									D65	播種性血管内凝固症候群[脱線維素症候群]	1	84.0	89.0
							女	1	N390	尿路感染症，部位不明	2	51.0	78.0
									N201	尿管結石	2	5.0	83.5
								3	N133	その他及び詳細不明の水腎症	1	51.0	92.0
									C66	尿管の悪性新生物	1	102.0	82.0
婦人科	1	C56	卵巣の悪性新生物	1	74.0	72.0	女	1	C56	卵巣の悪性新生物	1	74.0	72.0
		N921	不規則周期を伴う過多月経及び頻発月経	1	10.0	26.0			N921	不規則周期を伴う過多月経及び頻発月経	1	10.0	26.0
内科(療養)	1	J690	食物及び吐物による肺臓炎	35	151.7	82.9	男	1	J690	食物及び吐物による肺臓炎	20	92.8	80.3
	2	I500	うっ血性心不全	14	305.9	88.4		2	J439	肺気腫，詳細不明	3	40.3	88.7
	3	J189	肺炎，詳細不明	8	159.4	89.9		3	C343	気管支及び肺の悪性新生物，下葉，気管支又は肺	2	55.0	85.0
	4	J960	急性呼吸不全	4	6.8	74.5			J189	肺炎，詳細不明	2	38.5	79.5
	5	C343	気管支及び肺の悪性新生物，下葉，気管支又は肺	3	72.3	85.3			I500	うっ血性心不全	2	60.5	84.5
		J439	肺気腫，詳細不明	3	40.3	88.7			C220	肝及び肝内胆管の悪性新生物，肝癌	2	34.5	85.5
		J159	細菌性肺炎，詳細不明	3	37.3	94.3			J960	急性呼吸不全	2	8.5	65.0
									J159	細菌性肺炎，詳細不明	2	41.0	91.0
								9	J841	肺線維症を伴うその他の間質性肺疾患	1	131.0	78.0
								10	I610	(大脳)半球の脳内出血，皮質下	1	2065.0	72.0
									E119	インスリン非依存性糖尿病<ＮＩＤＤＭ>，合併症を伴わないもの	1	59.0	88.0
									C221	肝及び肝内胆管の悪性新生物，肝内胆管癌	1	1081.0	76.0
									D65	播種性血管内凝固症候群[脱線維素症候群]	1	1244.0	81.0
									A419	敗血症，詳細不明	1	82.0	89.0
									C787	肝の続発性悪性新生物	1	38.0	75.0
									C20	直腸の悪性新生物	1	5.0	67.0
									D469	骨髄異形成症候群，詳細不明	1	57.0	81.0
									G931	無酸素性脳損傷，他に分類されないもの	1	410.0	78.0
									I691	脳内出血の続発・後遺症	1	56.0	80.0
									C340	気管支及び肺の悪性新生物，主気管支	1	65.0	86.0
									D619	無形成性貧血，詳細不明	1	65.0	79.0
									J969	呼吸不全，詳細不明	1	800.0	79.0
							女	1	J690	食物及び吐物による肺臓炎	15	230.3	86.5
								2	I500	うっ血性心不全	12	346.8	89.1
								3	J189	肺炎，詳細不明	6	199.7	93.3
								4	J960	急性呼吸不全	2	5.0	84.0
									I509	心不全，詳細不明	2	118.5	83.5
									N189	慢性腎不全，詳細不明	2	398.0	82.5
									M6259	筋の消耗及び萎縮，他に分類されないもの	2	43.0	90.5
									G20	パーキンソン病	2	4.5	85.0
									K562	軸捻(転)	2	177.5	94.0
								10	C343	気管支及び肺の悪性新生物，下葉，気管支又は肺	1	107.0	86.0
									J841	肺線維症を伴うその他の間質性肺疾患	1	109.0	78.0
									N390	尿路感染症，部位不明	1	130.0	92.0
									E86	体液量減少(症)	1	64.0	94.0
									E160	昏睡を伴わない薬物誘発性低血糖症	1	102.0	85.0
									G319	神経系の変性疾患，詳細不明	1	10.0	72.0
									D65	播種性血管内凝固症候群[脱線維素症候群]	1	772.0	78.0

										T021	胸部<郭>の骨折，下背部及び骨盤部の骨折を伴うもの	1	598.0	90.0
										C182	結腸の悪性新生物，上行結腸	1	85.0	94.0
										C341	気管支及び肺の悪性新生物，上葉，気管支又は肺	1	102.0	81.0
										N180	末期腎疾患	1	122.0	80.0
										K830	胆管炎	1	87.0	94.0
										A419	敗血症，詳細不明	1	246.0	74.0
										K210	食道炎を伴う胃食道逆流症	1	63.0	86.0
										C250	膵の悪性新生物，膵頭部	1	89.0	92.0
										K810	急性胆のう<嚢>炎	1	192.0	96.0
										J448	その他の明示された慢性閉塞性肺疾患	1	51.0	88.0
										C240	その他及び部位不明の胆道の悪性新生物，肝外胆管	1	35.0	75.0
										K803	胆管炎を伴う胆管結石	1	13.0	93.0
										J159	細菌性肺炎，詳細不明	1	30.0	101.0
										C795	骨及び骨髄の続発性悪性新生物	1	85.0	80.0
外科(療養)	1	J690	食物及び吐物による肺臓炎	3	59.3	81.0	男	1	I500	うっ血性心不全	1	63.0	89.0
	2	I691	脳内出血の続発・後遺症	2	20.5	77.5			J690	食物及び吐物による肺臓炎	1	156.0	87.0
	3	I500	うっ血性心不全	1	63.0	89.0			S065	外傷性硬膜下出血	1	246.0	87.0
		I633	脳動脈の血栓症による脳梗塞	1	190.0	77.0			K635	大腸<結腸>のポリープ	1	2.0	62.0
		K913	術後腸閉塞	1	119.0	58.0			C20	直腸の悪性新生物	1	23.0	69.0
		K830	胆管炎	1	60.0	92.0	女	1	J690	食物及び吐物による肺臓炎	2	11.0	78.0
		C187	結腸の悪性新生物，Ｓ状結腸	1	28.0	85.0			I691	脳内出血の続発・後遺症	2	20.5	77.5
		S065	外傷性硬膜下出血	1	246.0	87.0		3	I633	脳動脈の血栓症による脳梗塞	1	190.0	77.0
		K635	大腸<結腸>のポリープ	1	2.0	62.0			K913	術後腸閉塞	1	119.0	58.0
		C509	乳房の悪性新生物，乳房，部位不明	1	12.0	67.0			K830	胆管炎	1	60.0	92.0
		C250	膵の悪性新生物，膵頭部	1	171.0	78.0			C187	結腸の悪性新生物，Ｓ状結腸	1	28.0	85.0
		C20	直腸の悪性新生物	1	23.0	69.0			C509	乳房の悪性新生物，乳房，部位不明	1	12.0	67.0
									C250	膵の悪性新生物，膵頭部	1	171.0	78.0
脳外(療養)	1	I634	脳動脈の塞栓症による脳梗塞	6	507.0	85.0	男	1	I633	脳動脈の血栓症による脳梗塞	2	206.0	71.5
	2	I633	脳動脈の血栓症による脳梗塞	4	535.8	81.8			I638	その他の脳梗塞	2	174.5	91.0
	3	I693	脳梗塞の続発・後遺症	3	480.3	74.0		3	I634	脳動脈の塞栓症による脳梗塞	1	64.0	84.0
	3	I691	脳内出血の続発・後遺症	3	431.7	74.0			I693	脳梗塞の続発・後遺症	1	342.0	69.0
	5	I638	その他の脳梗塞	2	174.5	91.0			I615	脳内出血，脳室内	1	32.0	81.0
	6	I610	(大脳)半球の脳内出血，皮質下	1	1955.0	76.0			I691	脳内出血の続発・後遺症	1	1265.0	67.0
		S062	びまん性脳損傷	1	356.0	87.0	女	1	I634	脳動脈の塞栓症による脳梗塞	5	595.6	85.2
		I710	大動脈の解離[各部位]	1	76.0	93.0		2	I633	脳動脈の血栓症による脳梗塞	2	865.5	92.0
		K800	急性胆のう<嚢>炎を伴う胆のう<嚢>結石	1	847.0	81.0			I693	脳梗塞の続発・後遺症	2	549.5	76.5
		I615	脳内出血，脳室内	1	32.0	81.0			I691	脳内出血の続発・後遺症	2	15.0	77.5
		K810	急性胆のう<嚢>炎	1	726.0	91.0		5	I610	(大脳)半球の脳内出血，皮質下	1	1955.0	76.0
									S062	びまん性脳損傷	1	356.0	87.0
									I710	大動脈の解離[各部位]	1	76.0	93.0
									K800	急性胆のう<嚢>炎を伴う胆のう<嚢>結石	1	847.0	81.0
									K810	急性胆のう<嚢>炎	1	726.0	91.0

⑵　手術統計　手術分類別・年齢別患者実数（平成30年度退院患者）

（単位：人、歳）

コード	手術中分類		総数	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～	平均年齢
	総数	計	750	－	2	－	－	－	9	55	85	65	111	110	107	76	82	48	70.4
		男	471	－	2	－	－	－	8	45	72	48	75	80	61	41	28	11	66.7
		女	279	－	－	－	－	－	1	10	13	17	36	30	46	35	54	37	76.6
01	頭蓋骨、脳および髄膜の切開と切除術	計	8	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	2	2	2	1	82.3
		男	6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	2	1	1	1	81.2
		女	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	－	85.5
21	鼻の手術	計	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	72.0
		男	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		女	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	72.0
31	喉頭および気管のその他の手術	計	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	82.0
		男	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	82.0
		女	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
37	心および心膜へのその他の手術	計	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	92.0
		男	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		女	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	92.0
38	血管の切開術、切除術および閉塞術	計	38	－	－	－	－	－	－	－	2	1	10	4	3	11	4	3	76.2
		男	22	－	－	－	－	－	－	－	1	1	9	3	3	4	1	－	72.0
		女	16	－	－	－	－	－	－	－	1	－	1	1	－	7	3	3	82.0
39	血管へのその他の手術	計	59	－	－	－	－	－	－	7	9	3	6	13	6	7	8	－	68.9
		男	40	－	－	－	－	－	－	7	6	2	3	12	2	4	4	－	66.5
		女	19	－	－	－	－	－	－	－	3	1	3	1	4	3	4	－	73.8
40	リンパ系への手術	計	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	78.0
		男	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		女	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	78.0
42	食道の手術	計	23	－	－	－	－	－	－	1	2	2	4	3	2	2	6	1	73.9
		男	17	－	－	－	－	－	－	1	2	2	3	3	－	2	4	－	70.9
		女	6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	2	－	2	1	82.3
43	胃の切開術および切除術	計	16	－	－	－	－	－	－	1	－	1	3	2	3	－	4	2	75.6
		男	8	－	－	－	－	－	－	1	－	－	2	2	1	－	1	1	71.1
		女	8	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	－	2	－	3	1	80.1
45	腸の切開術、切除術および吻合術	計	328	－	－	－	－	－	8	34	50	42	60	58	52	18	4	2	64.9
		男	248	－	－	－	－	－	7	27	47	33	42	42	35	14	－	1	63.6
		女	80	－	－	－	－	－	1	7	3	9	18	16	17	4	4	1	68.7
46	腸のその他の手術	計	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	93.0
		男	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	93.0
		女	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
47	虫垂への手術	計	3	－	－	－	－	－	－	1	2	－	－	－	－	－	－	－	51.0
		男	2	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	49.5
		女	1	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	54.0
48	直腸、直腸Ｓ状結腸および直腸周囲組織の手術	計	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	2	－	－	81.0
		男	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	80.5
		女	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	82.0
51	胆嚢及び胆道の手術	計	37	－	－	－	－	－	－	2	2	3	10	4	3	2	7	4	73.2
		男	19	－	－	－	－	－	－	－	2	3	5	2	3	1	2	1	70.8
		女	18	－	－	－	－	－	－	2	－	－	5	2	－	1	5	3	75.7
52	脾の手術	計	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	60.0
		男	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	60.0
		女	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
53	ヘルニアの修復術	計	11	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	3	4	2	－	－	74.8
		男	9	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	1	4	2	－	－	75.7
		女	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	71.0
55	腎への手術	計	1	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	56.0
		男	1	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	56.0
		女	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
57	膀胱の手術	計	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	92.0
		男	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		女	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	92.0

58	尿道の手術	計	5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	1	1	1	81.2
		男	5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	1	1	1	81.2
		女	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
59	尿路系のその他の手術	計	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	90.0
		男	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		女	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	90.0
60	前立腺及び精のうの手術	計	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	81.0
		男	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	81.0
		女	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
62	精巣の手術	計	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	1	－	79.0
		男	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	1	－	79.0
		女	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
64	陰茎の手術	計	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	78.0
		男	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	78.0
		女	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
77	その他の骨の切開、切除及び切離	計	3	－	－	－	－	－	－	－	1	－	1	－	－	－	1	－	69.0
		男	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	1	－	77.0
		女	1	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	53.0
78	顔面骨以外の骨のその他の手術	計	2	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	1	－	－	－	68.5
		男	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		女	2	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	1	－	－	－	68.5
79	骨折及び脱臼の整復術	計	68	－	2	－	－	－	－	1	5	2	－	4	6	7	21	20	80.8
		男	13	－	2	－	－	－	－	1	4	－	－	3	－	－	2	1	59.0
		女	55	－	－	－	－	－	－	－	1	2	－	1	6	7	19	19	85.9
80	関節構造物の切開術及び切除術	計	6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	3	1	1	81.8
		男	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	66.0
		女	5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	3	1	1	85.0
81	関節構造物の修復術及び形成術	計	19	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	5	5	6	1	81.6
		男	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	1	1	－	79.3
		女	16	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	5	4	5	1	82.1
83	手以外の筋、腱、筋膜および滑液包の処置	計	2	－	－	－	－	－	－	1	－	1	－	－	－	－	－	－	52.5
		男	2	－	－	－	－	－	－	1	－	1	－	－	－	－	－	－	52.5
		女	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
84	筋骨格系へのその他の処置	計	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	3	1	89.3
		男	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	86.0
		女	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	1	90.3
85	乳房の手術	計	13	－	－	－	－	－	－	1	3	1	3	－	4	－	1	－	65.8
		男	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		女	13	－	－	－	－	－	－	1	3	1	3	－	4	－	1	－	65.8
86	皮膚および皮下組織の手術	計	27	－	－	－	－	－	1	1	4	1	4	2	2	4	6	2	72.2
		男	19	－	－	－	－	－	1	1	4	1	3	2	－	2	4	1	68.3
		女	8	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	2	2	2	1	81.4
93	理学療法、呼吸療法、リハビリテーション及び関連処置	計	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	1	－	－	76.5
		男	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		女	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	1	－	－	76.5
98	異物または結石の非手術的な除去術	計	26	－	－	－	－	－	－	4	4	3	2	6	2	1	1	3	66.5
		男	24	－	－	－	－	－	－	4	4	3	2	6	1	1	－	3	65.1
		女	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	1	－	83.5
99	その他の非手術的な処置	計	22	－	－	－	－	－	－	－	－	1	2	4	5	5	5	－	78.3
		男	14	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	4	4	4	－	80.4
		女	8	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	3	1	1	1	－	74.5

⑶　死亡統計　ＩＣＤ大分類別・診療科別死亡（剖検）患者実数

（単位：人）

	ＩＣＤ大分類		総数	内科	外科	整形外科	脳外科	泌尿器科	婦人科	内科(療養)	外科(療養)	脳外科(療養)	剖検数
	総数	計	353	178	9	3	10	2	1	115	13	22	－
		男	173	96	4	1	6	－	－	53	5	8	－
		女	180	82	5	2	4	2	1	62	8	14	－
Ⅰ	感染症及び寄生虫症	計	7	4	－	－	－	－	－	3	－	－	－
		男	6	4	－	－	－	－	－	2	－	－	－
		女	1	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
Ⅱ	新生物	計	64	32	5	1	－	2	1	17	6	－	－
		男	35	21	2	－	－	－	－	10	2	－	－
		女	29	11	3	1	－	2	1	7	4	－	－
Ⅲ	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計	6	2	1	－	－	－	－	3	－	－	－
		男	3	－	1	－	－	－	－	2	－	－	－
		女	3	2	－	－	－	－	－	1	－	－	－
Ⅳ	内分泌，栄養及び代謝疾患	計	8	3	－	－	1	－	－	4	－	－	－
		男	4	2	－	－	1	－	－	1	－	－	－
		女	4	1	－	－	－	－	－	3	－	－	－
Ⅵ	神経系の疾患	計	1	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
		男	1	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
		女	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
Ⅸ	循環器系の疾患	計	108	57	1	1	6	－	－	19	5	19	－
		男	50	30	－	1	4	－	－	5	2	8	－
		女	58	27	1	－	2	－	－	14	3	11	－
Ⅹ	呼吸器系の疾患	計	104	52	－	－	－	－	－	52	－	－	－
		男	55	27	－	－	－	－	－	28	－	－	－
		女	49	25	－	－	－	－	－	24	－	－	－
ⅩⅠ	消化器系の疾患	計	26	13	2	－	－	－	－	8	1	2	－
		男	9	6	1	－	－	－	－	2	－	－	－
		女	17	7	1	－	－	－	－	6	1	2	－
ⅩⅢ	筋骨格系及び結合組織の疾患	計	3	1	－	1	－	－	－	1	－	－	－
		男	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		女	3	1	－	1	－	－	－	1	－	－	－
ⅩⅣ	腎尿路生殖器系の疾患	計	17	10	－	－	1	－	－	6	－	－	－
		男	7	5	－	－	－	－	－	2	－	－	－
		女	10	5	－	－	1	－	－	4	－	－	－
ⅩⅨ	損傷、中毒及びその他の外因の影響	計	8	3	－	－	2	－	－	1	1	1	－
		男	3	1	－	－	1	－	－	－	1	－	－
		女	5	2	－	－	1	－	－	1	－	1	－
ⅩⅩ	傷病及び死亡の外因	計	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		男	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		女	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－

⑷　医療情報の開示

（単位：件）

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
複写	診療録	6	13	18	10	17
	画像記録	20	37	26	36	37
書類の交付		8	16	6	13	16
閲覧及び口頭による説明		12	13	11	13	3
合　計		46	79	61	72	73

15　地域医療支援室

⑴　診療科別紹介患者延数　（単位：人）

診療科	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
内科	707	693	816	818	959
神経内科	10	25	23	26	25
小児科	19	20	44	46	46
外科	335	258	208	183	145
整形外科	152	139	159	163	158
脳神経外科	151	162	178	141	118
皮膚科	22	16	32	33	33
泌尿器科	36	20	32	29	64
婦人科	18	10	11	14	34
眼科	50	58	61	58	58
耳鼻いんこう科	46	38	55	46	52
放射線科	549	578	526	474	461
心療内科	2	3	2	－	7
透析	12	4	3	6	6
救急外来	－	17	18	3	－
合　計	2,109	2,041	2,168	2,040	2,166

⑵　紹介率・逆紹介率

①　紹介率　（単位：件）

	紹介 患者数 A	救急車 来院数 B	初診 算定数 C	紹介 患者率 (A+B)/C
H26年度	1,538	879	9,556	25.3%
H27年度	1,506	1,062	9,462	27.1%
H28年度	1,522	1,036	9,399	27.2%
H29年度	1,454	1,077	9,252	27.4%
H30年度	1,557	1,132	9,203	29.2%

②　逆紹介率　（単位：件）

	診療情報 提供書数 A	初診 算定数 B	逆紹介 患者率 A/B
H26年度	1,902	9,556	19.9%
H27年度	1,838	9,462	19.4%
H28年度	1,919	9,399	20.4%
H29年度	1,908	9,252	20.6%
H30年度	1,960	9,203	21.3%

⑶　医療相談

①－１　援助内容別（平成29年12月まで）　（単位：件）

		H26年度			H27年度			H28年度			H29年度※		
		新規	継続	計	新規	継続	計	新規	継続	計	新規	継続	計
経済的問題	1　医療費、生活費など経済面への援助	12	13	25	9	14	23	6	10	16	11	24	35
療養中の心理社会的問題	2　傷病や療養に伴って生じる家族人間関係の調整	0	5	5	2	4	6	5	6	11	2	1	3
	3　受診や入院、在宅医療に伴う不安等	17	16	33	5	3	8	8	6	14	10	22	32
	4　患者が安心して療養できるための在宅環境整備	3	10	13	7	4	11	3	7	10	4	12	16
	5　難治性疾患、死、傷病等の受容が困難なケースに対する精神的援助・生活の再設計	2	3	5	1	2	3	－	1	1	－	2	2
	小　計	22	34	56	15	13	28	16	20	36	16	37	53
受診受療援助	6　生活と傷病の状況に応じた適切な医療の受け方への援助	44	61	105	47	58	105	41	71	112	30	50	80
	7　診断治療に関して不安がある場合、治療への適応を図る援助	42	62	104	71	62	133	104	54	158	73	75	148
	8　心理社会的原因で症状のでる患者について、心理的情報収集と、スタッフとの連携	4	5	9	1	2	3	1	3	4	3	4	7
	9　入退院に関わる情報収集と提供（カンファ・ミーティング）	54	148	202	32	72	104	34	72	106	17	71	88
	小　計	144	276	420	151	194	345	180	200	380	123	200	323
退院（社会復帰）援助	10　転院・入所のための医療機関、施設の選定援助	50	466	516	60	328	388	57	324	381	68	320	388
	11　在宅ケアのための環境整備、関係機関との連携と制度の利用	81	386	467	138	354	492	106	223	329	55	238	293
	12　復職・復学への援助	－	1	1	－	－	－	1	1	2	2	－	2
	13　退院後の方針設定と不安の軽減	26	77	103	32	47	79	28	46	74	25	54	79
	14　社会復帰が円滑に進むよう他機関との連携・訪問活動を行う	6	35	41	2	8	10	11	21	32	7	11	18
	小　計	163	965	1,128	232	737	969	203	615	818	157	623	780
制度の紹介	15　制度の紹介	55	35	90	59	9	68	63	9	72	49	17	66
その他	16　その他	28	109	137	24	34	58	15	24	39	40	98	138
合　計		424	1,432	1,856	490	1,001	1,491	483	878	1,361	396	999	1,395

※　電子カルテ導入により、平成29年12月までと平成30年１月以降で「援助内容別」項目を変更しました。

①－２　援助内容別（平成30年１月以降）　（単位：件）

		H29年度※			H30年度		
		新規	継続	計	新規	継続	計
心理・社会的問題	在宅ケア	6	9	15	37	33	70
	家事・育児・教育	－	－	－	1	－	1
	心理的問題	1	－	1	6	4	10
	情報提供	2	2	4	50	28	78
	その他	5	11	16	43	71	114
	小　計	14	22	36	137	136	273
退院支援	退院先選定	29	63	92	80	247	327
	在宅ケア	36	100	136	187	444	631
	転院・転施設	44	117	161	100	396	496
	情報提供	27	24	51	127	246	373
	その他	14	28	42	143	255	398
	小　計	150	332	482	637	1,588	2,225
受診・受療	入院相談	2	1	3	3	6	9
	受診相談	8	5	13	28	24	52
	治療	11	12	23	51	44	95
	情報提供	10	13	23	50	40	90
	その他	2	2	4	23	39	62
	小　計	33	33	66	155	153	308
経済的な問題	医療費	6	13	19	28	57	85
	生活費	1	2	3	11	37	48
	情報提供	－	3	3	7	8	15
	その他	－	－	－	6	24	30
	小　計	7	18	25	52	126	178
家族への支援	家族の問題	1	9	10	1	8	9
	家族への支援	2	2	4	3	6	9
	情報提供	2	1	3	10	5	15
	その他	3	－	3	4	5	9
	小　計	8	12	20	18	24	42
社会復帰支援	就労・復職	－	－	－	－	1	1
	就学・復学	－	－	－	－	－	－
	情報提供	－	－	－	2	1	3
	その他	1	1	2	1	3	4
	小　計	1	1	2	3	5	8
合　計		213	418	631	1,002	2,032	3,034

※　電子カルテ導入により、平成29年12月までと平成30年１月以降で「援助内容別」項目を変更しました。

② 診療科別

（単位：件）

	H26年度			H27年度			H28年度			H29年度			H30年度		
	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計
内科	1,051	36	1,087	859	26	885	833	18	851	1,199	35	1,234	1,188	11	1,199
神経内科	2	3	5	3	6	9	0	3	3	3	2	5	－	2	2
呼吸器内科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
小児科	－	1	1	－	2	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－
外科	319	2	321	178	2	180	74	6	80	70	7	77	51	2	53
整形外科	184	3	187	178	3	181	138	18	156	316	22	338	429	6	435
脳神経外科	221	6	227	189	4	193	219	9	228	247	5	252	334	1	335
皮膚科	1	1	2	7	－	7	7	－	7	1	－	1	－	－	－
泌尿器科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	12	－	12
婦人科	－	－	－	－	－	－	1	－	1	－	－	－	－	－	－
眼科	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
耳鼻いんこう科	1	1	2	－	－	－	1	－	1	－	－	－	－	－	－
リハビリテーション科	－	1	1	－	1	1	－	－	－	1	－	1	－	－	－
その他	18	4	22	32	1	33	27	7	34	28	5	33	4	－	4
合　計	1,798	58	1,856	1,446	45	1,491	1,300	61	1,361	1,865	76	1,941	2,018	22	2,040

③－１　相談の方法

（単位：件）

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度※
来室面接	104	65	95	77
院内面接	1,070	994	910	918
電話相談	243	19	186	322
連絡調整	424	404	160	－
自宅訪問	1	3	1	2
申請代行	1	－	1	2
その他	13	6	8	74
合　計	1,856	1,491	1,361	1,395

※　電子カルテ導入により、平成29年12月までと平成30年１月以降で「相談の方法」項目を変更しました。

③－２　相談の方法

（単位：件）

	H29年度※	H30年度
面接	306	1,295
電話	262	899
情報収集	20	89
カンファレンス	37	185
文書	7	58
訪問	1	7
その他	16	102
合　計	649	2,635

※　電子カルテ導入により、平成29年12月までと平成30年１月以降で「相談の方法」項目を変更しました。また、１件に対して複数の相談の方法があります。

16　医療安全への取り組み

⑴　目的

院内職員の医療安全に対する組織能力を高め、有害事象の低減と医療事故の防止に努める。

⑵　目標

- リスクレポートを分析し、再発防止・医療事故防止に努める。
- 院内巡視を実施し、安全な療養環境を提供する。
- リスクマネジャーによる活動報告会を行い、全職員のリスク意識を高める。
- 近隣病院と連携を図り、当院の医療安全に反映させる。

⑶　医療安全活動実績

①　委員会

- 医療安全管理委員会を月１回計12回開催
- リスクマネジャー部会を平成30年５月から平成31年２月まで月１回計11回開催
  ３グループに分かれグループ活動を行い、医療安全に対する感受性を高めるために、ＫＹＴを実施し、活動内容及び結果を院内の後期研修会で発表
- リスク対策に関するカンファレンスを週１回程度開催（メンバーは医療安全管理室室長、医療安全管理者、事務長、医薬品安全管理責任者の４名）
- 看護部のリスクマネージメント委員会（月１回）に参加

②　医療安全対策マニュアルの整備

- 電子カルテ導入に伴い、各部門のマニュアルの一部改訂
- 医療安全対策マニュアルの改訂版を院内30部署に配布

③　広報活動

- 医療安全推進週間における医療安全に対してのＰＲ活動
  医療安全に対しての各部署の取り組みについて、それぞれポスターにして外来ロビーに掲示
- リスクマネジャーの活動報告を全職員対象の研修会として開催

④　医療安全対策地域連携に参加

- 医療安全対策地域連携連絡会議に２回参加
  富士市立中央病院にて開催、参加施設８病院
- 医療安全対策地域連携における富士脳障害研究所付属病院に対する富士宮市立病院の相互評価に同行する。
- 富士脳障害研究所付属病院より医療安全対策地域連携における相互評価を受ける。

⑤　医療安全研修会

ア　院外研修

月　日	研　修　名	人数	会　場
７月２日～４日	医療安全基礎講座2018	1名	東京大学伊藤国際学術研究センター
10月５日	平成30年度　第１回　医療安全推進研修会	1名	静岡県産業経済会館
10月17日	平成30年度　第２回　医療安全推進研修会	1名	静岡県産業経済会館
12月20日	平成30年度　医療安全管理シンポジウム （東部地区）	1名	沼津プラザヴェルデ
１月12日	平成30年度　日本病院薬剤師会 医薬品安全管理責任者等講習会	1名	帝京平成大学　池袋キャンパス

イ　院内研修

月　日	研　修　名	対象者	講師	参加人数
４月３日	新人オリエンテーション	新人職員	医療安全管理室 小林　千也子	11名

5月14日	リスクマネジャー研修	リスクマネジャー	医療安全管理室 小林　千也子	14名
5月14日	新人看護職員研修	新人看護師	医療安全管理室 小林　千也子	5名
5月16日	プレシャスナース研修	看護師	医療安全管理室 小林　千也子	2名
6月7日、25日 7月3日、20日 8月9日、17日 9月25日 10月5日、9日	前期医療安全研修会	全職員	当院顧問弁護士 宮澤　潤	318名
7月10日	プレシャスナース研修	看護師	医療安全管理室 小林　千也子	1名
7月17日	派遣型再就業研修	看護師	医療安全管理室 小林　千也子	1名
9月12日	プレシャスナース研修	看護師	医療安全管理室 小林　千也子	1名
9月21日	新人看護職員研修	新人看護師	医療安全管理室 小林　千也子	5名
12月21日	ラダー研修	ラダーレベルⅣ看護師	医療安全管理室 小林　千也子	4名
1月25日、28日 2月7日、12日、20日	後期医療安全研修会	全職員	リスクマネジャー	324名

⑥　まとめ

医療安全対策マニュアルに関しては電子カルテ導入に伴い、各部署の内容を見直した改訂版を院内30部署に配布した。

リスクマネジャー部会では、３つのグループに分かれて活動した。点滴のリスクについて、院内掲示物の掲示方法とワッポン周知について、採尿室トイレの改善についてそれぞれ取り組み成果を出すことができた。

平成30年度のインシデント・アクシデントレポートの提出件数は516件であり、昨年度より約15%の減少となった。レベル3bのアクシデントは5件であった。レポートの提出件数の減少については、件数そのものが減少したのか提出することを怠ったのかは不明だが、院内で発生したリスクについて共有し再発防止に役立てるため、レポート提出は必要である。今後もリスクレポートに関しては、すみやかに提出するよう啓蒙活動を続けていく必要性がある。

30年度より医療安全対策地域連携が開始され、当院も近隣病院８施設と連携をとることとなった。医療安全対策地域連携連絡会議への参加や他院より相互評価を受けることにより、自院の医療安全対策について見直す機会となった。

⑷　レポート集計結果

①　年度別集計

大項目	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年
1：注射	42(3)	60	59	94	69
2：内服	56	50	63	73	61
3：輸血	−	−	−	1	2
4：麻薬	5	11	8	1	5
5：不適切な指示	−	−	−	−	−
6：器材類	14(2)	21	24	3	6
7：検査	57(1)	55(1)	62	68	51(2)
8：処置	3	6(2)	4	7	6
9：手術	1	2(1)	−	4	−
10：食事	16	29	59	56	34
11：転倒・転落	123(7)	161(1)	128	128(4)	144(2)
12：生活環境	−	1	−	−	−
13：対応	6	1(1)	3	3	1
14：自己抜去	25	28(1)	23	49(1)	48
15：その他	43(1)	47(1)	32	105(2)	89(1)
合　計	391(14)	472(8)	465	592(7)	516(5)

(　)内はレベル３以上のアクシデント

平成27年度から(　)内はレベル3b以上のアクシデント

②　部署別集計

大項目	医局	看護部	薬局	放射線	検査	リハビリ	事務	健診	厨房	その他	合計
1：注射	−	66	1	2	−	−	−	−	−	−	69
2：内服	−	54	6	−	−	1	−	−	−	−	61
3：輸血	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	2
4：麻薬	−	5	−	−	−	−	−	−	−	−	5
5：不適切な指示	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
6：器材類	−	5	−	−	1	−	−	−	−	−	6
7：検査	−	28(1)	−	8(1)	5	−	−	10	−	−	51(2)
8：処置	−	6	−	−	−	−	−	−	−	−	6
9：手術	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
10：食事	−	13	−	−	−	−	−	−	21	−	34
11：転倒・転落	−	141(2)	−	−	−	3	−	−	−	−	144(2)
12：生活環境	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
13：対応	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	1
14：自己抜去	−	47	−	−	−	1	−	−	−	−	48
15：その他	−	65(1)	2	2	4	9	2	5	−	−	89(1)
合　計	−	433(4)	9	12(1)	10	14	2	15	21	−	516(5)

(　)内はレベル３以上のアクシデント

③　発生要因別集計

	医局	看護部	薬局	放射線	検査	ﾘﾊﾋﾞﾘ	事務	健診	厨房	合計
1．確認を怠った	－	193	7	9(1)	7	3	3	15	18	255(1)
2．観察が不十分	－	49(1)	－	－	1	3	－	－	－	53(1)
3．判断を誤った	－	78(2)	1	1	－	7	－	－	1	88(2)
4．知識が不足していた	－	1	－	－	1	－	－	－	－	2
5．知識に誤りがあった	－	3	－	－	1	－	－	－	－	4
6．技術・手技に問題があった	－	1	－	－	－	－	－	－	－	1
7．基準・手順を守らなかった	－	2	－	－	－	－	－	－	－	2
8．心理的状況（思い込み、慌てていた等）	－	15	－	－	－	－	－	－	－	15
9．記録などの不備	－	1	－	－	－	－	－	－	－	1
10.環境に問題があった（Ｐトイレの準備等）	－	1	－	－	－	－	－	－	－	1
11．説明不足	－	13	－	1	－	－	－	－	－	14
12．勤務条件が繁忙だった	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
13．連携ができていなかった	－	10	1	－	－	－	－	－	－	11
14．システムに問題があった	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
15．医薬品の問題	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
16．医療機器の問題	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
17．諸物品の問題	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
18．施設・設備の問題	－	－	－	1	－	－	1	－	－	2
19．患者・家族の理解が不十分であった	－	19(1)	－	－	－	－	－	－	－	19(1)
20．自己抜去	－	47	－	－	－	1	－	－	－	48
21．患者自己判断	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
22．患者自身が説明内容を理解できない	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
23．その他	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
24．未選択（危険な物、場所の発見等）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
合　　計	－	433(4)	9	12(1)	10	14	4	15	19	516(5)

17　感染防止への取り組み

⑴　目的

安全・安心な療養生活が維持できるために、感染リスク低減のための職員教育を行い、院内感染予防に努める。

⑵　目標

①　当院の手指衛生の状況を把握し、組織的かつ包括的な介入により、手指衛生の遵守状況を向上させる。

②　定期的に院内ラウンド（病棟または病棟以外）を行い、必要時介入し、改善できる。

⑶　委員会活動

①　院内感染対策委員会（ICC）

- 月１回12回開催
- ICT活動の審議・承認

②　感染対策チーム（ICT）

- 月２回24回開催
- 週１回の環境ラウンドの実施
- 病院感染対策マニュアルの整備

  作成：１件
  - 2019年３月　「自然災害時における感染対策マニュアル別冊」

  改訂：24件
  - 2018年８月　「はじめに」「共立蒲原総合病院　院内感染対策のための指針」「感染管理組織」「感染症報告の組織図」「使用基準」「ファイルメーカー（感染症報告運用）について」「ファイルメーカー（看護支援ファイル運用図）」「エボラ出血熱」「感染性胃腸炎（ノロウイルス・ロツイルス）」「季節性インフルエンザ」「結核」「重症急性呼吸器症候群（SARS）」「中東呼吸器症候群（MERS）コロナウイルス感染症」「デングウイルス」「鳥インフルエンザA（H7N9）ウイルス感染の類似症患者と患者」「流行性角結膜炎（EKC）」「基質特異性拡張型βラクタマーゼ産生菌（ESBL）」「多剤耐性アシネトバクター菌（MDRA）」
  - 2018年９月　医療廃棄物処理方法/非感染性廃棄物（廃プラスチック類）一覧「湿性生体物質の処理」「患者ケア区域の花と植物等の管理」「消毒薬の管理」「指定抗菌薬」
  - 2018年10月「疥癬」
  - 2018年12月　「感染症法における届出対象疾患一覧」
- 感染防止対策加算「Ｉ－１」「Ｉ－２」に係わる地域連携カンファレンスの活動
  - 「Ｉ－１」　富士市立中央病院と富士宮市立病院の３病院で、地域連携カンファレンス（相互評価とラウンド）の実施
  - 「Ｉ－２」　聖隷富士病院（４回）と新たに川村病院（２回）が参加し、５月23日「手指消毒剤の使用量増加に向けた取り組み」、８月22日「個人防護具（ゴーグル）の適切な使用状況について（業者による、ゴーグル関連製品の説明、展示の実施）、11月28日「自施設における職員のワクチン管理の取り組みについて」、２月28日「インフルエンザ等の院内発生状況について」、計４回実施
- 地域の啓蒙活動

  10月27日健康フェスタ（富士川まちづくりセンター）で、咳エチケットキャンペーンとしてのマスク200組配布した。

③　看護部の環境感染対策委員会
月１回11回参加

⑷　院内感染サーベイランス（実践）
カテーテル関連尿路感染（CA-UTI）サーベイランス６病棟（2019年１月から西３病棟・本４病棟開始）実施

⑸　感染管理コンサルテーション
院外（連携病院や中部感染対策ネットワーク）では25件行うことができた。

⑹　感染管理研修会
①　院外研修

日	研修名	人数	会場
10月７日	平成30年度　第１回感染対策セミナー「相談コーナー」	5名	グランシップ
12月10日	平成30年度　第２回感染対策セミナー「相談コーナー」	5名	グランシップ
12月21日	高齢者介護施設における感染対策～インフルエンザとノロウイルス～	17名	芙蓉の丘

②　院内研修

日	研修内容	対象者	講師	人数
４月３日	新採用者研修会	新採用者	感染管理室 佐藤　八千代	11名
４月９日	直ぐに実践できる感染管理	新人看護師	感染管理室 佐藤　八千代	6名
５月１日	プレシャスナース研修	看護師	感染管理室 佐藤　八千代	1名
５月10日	針刺し・切創、血液暴露防止対策	新人看護師	感染管理室 佐藤　八千代	5名
５月11日	プレシャスナース研修	看護師	感染管理室 佐藤　八千代	1名
６月５日	手指衛生と個人防護具着脱のタイミング洗浄・消毒・滅菌の洗濯	新人看護師	感染管理室 佐藤　八千代	5名
６月18日、26日 ７月５日、13日、18日 ９月28日	前期感染研修会	全職員	薬局 渡辺　俊輔	386名
７月17日	再就業研修会	看護師	感染管理室 佐藤　八千代	1名
７月27日	高校生一日体験ナース	高校生	感染管理室 佐藤　八千代	8名
９月10日	プレシャスナース研修	看護師	感染管理室 佐藤　八千代	1名
10月４日	経路別予防策	看護師	感染管理室 佐藤　八千代	6名
10月26日	中学生職場体験研修会	中学生	感染管理室 佐藤　八千代	3名
11月５日	予防接種	看護師	感染管理室 佐藤　八千代	6名
11月15日、21日、30日 12月４日、10日 ２月13日、22日	後期感染研修会	全職員	感染管理室 佐藤　八千代	381名
11月21日	呼吸器衛生／咳エチケットについて	外来患者	感染管理室 佐藤　八千代	25名
１月18日	感染管理～マネジメント編～	看護師	感染管理室 佐藤　八千代	4名
２月４日、15日	インフルエンザとノロウイルス	看護助手	感染管理室 佐藤　八千代	26名

⑺　まとめ
ICNの役割「実践・指導・相談」を常に意識しながらの活動の年であった。ここ数年の目標であった「災害対策マニュアル」のたたき台が完成し、さらに「自然災害時の感染管理～東日本大震

災から学ぶ～」の職員全体の研修会を開催することができた。このことにより、さらにするべきことの多くの課題がみえてきた。

診療報酬・介護報酬のダブル改定の年であった。感染症対策関連においては、「感染症防止対策加算」の上に、[抗菌薬適正使用支援加算]（100点）が創設された。しかし、当院は、「抗菌薬適正使用推進チーム」（AST）の発足が今年度は見合わせとなったため、加算の創設は来年度以降となった。また、昨年の１月１日から電子カルテが導入され、感染管理においても大きな変遷期だった。感染管理は昨年同様、実践の目的は、①感染から患者を守る②医療スタッフの安全を守る③科学的根拠に基づく対応が感染率を低減し経済効果に繋がると考え、基本姿勢をベースとした積極的な取り組みを行いたいと考え活動した。

Ⅴ　看護部

【看護部総括】

平成30年度は、看護の質向上・患者サービスの充実を目的として、前年度導入の電子カルテシステムを有効活用しながら、顧客の視点と内部プロセスの視点で看護業務の見直しと改善に取り組んだ。当院は急性期から在宅まで切れ目の無い医療・看護・介護を提供しており、各部署で診療科の特殊性、患者の重症度、ケア度が異なり看護業務にも特徴がある。加えて患者の年齢変化、ニーズが多様化してきていることを考慮した際、20年来継続して行ってきた看護提供方式の内容と患者参画型看護計画が適切か、検討する必要性を感じた。そこで、各部署で検討しながら改善策を実施した結果、患者サービスの充実に繋がる時間の確保だけでなく、煩雑になっていた業務も改善出来た。今後も、患者にとって最適な看護・介護とは何か、を追求し業務改善を継続していきたいと思っている。

また、平成30年度は診療報酬改定の年であり、急性期病棟・地域包括ケア病棟いずれも入院基本料が再編される中で、当院が算定できる最大の基本料が維持できた。他にも急性期看護補助体制加算をはじめとした様々な加算も、看護師だけでなく介護職・看護補助者の協力があって算定することができた。６月には緩和ケアチームと排尿ケアチームの立ち上げがあり、両チームに看護部の認定看護師３名が所属し、多職種と協働して加算の算定あるいはチーム医療の促進にも貢献できた。

人員確保では、定年退職・身分切り替えを含み離職率は6.1%だった。昨年度より1.3%増加はしたが、全国・県の平均に比べると低い値で推移している。職務満足度調査でも自己効力感・承認実感が改善してきており、各部署で職場風土の改善に取り組んだ成果と評価している。毎年、人員確保のために学校訪問を実施しているが、近年は実習病院として申し入れされることが増えており、就職に繋がる好機と捉えている。実習に来院する看護学生が「この病院で看護をしたい。この職場で働きたい」と思えるよう、引き続き職場風土の改善・指導者の育成に尽力したい。

（文責：今井 碧）

1　各部署の年間目標に対する評価

⑴　看護部

視点	目標	指標	目標値	アクションプラン (括弧)内は担当	評価
財務	病院経営に参画する	病床利用率	一般病棟 93% 地域包括ケア病棟 94% 療養病棟 98% 外来患者数 380人/日	・ベッド調整会議の開催(各病棟師長＋地域医療支援室＋老健＋医事経営課) ・入院､転入を快く受け入れる。(各病棟)	稼働率：一般病棟 80.5% 地域包括ケア病棟 82.0% 療養病棟97.0% 外来患者数：316.3人/日 一般・地域包括ケア病棟は昨年より増加している。療養病棟のマイナス原因は、他院から受け入れた患者の感染症で受け入れ制限を余儀なくされたことも影響した。 酷暑の７月末から８月には稼働率100%という日もあったが、外来・各病棟・老健の協力で最大限の受け入れを行えた。 手術室はシャントOpeの受け入れもあり、手術件数が昨年比1.8倍となった。 透析センターは５月以降、患者数・診療単価共に昨年を上廻っている。 訪問看護ステーションは、８月以外は患者数が増加しており、新規も増えている。 健診センターは黒字収支となった。
		看護必要度評価 医事経営課データ	看護必要度の齟齬が昨年件数より50%改善	・毎月医事経営課より出されるデータのチェック→齟齬を確認・修正(各病棟) ・病棟内の教育(各病棟) ・定期的な記録の監査	一般急性期と地域包括ケア病棟で取り組んだ。 齟齬は月毎に減少し､東３病棟では｢齟齬無し｣を３ヶ月継続できた。電子カルテ・記録・必要度委員会の委員・病棟担当者が啓蒙・教育したことで、スタッフ全員が正確な知識を習得し、理解度が高まったためと評価する。 ９月よりA・C項目はＥＦファイルを使用して

				(電子カルテ・記録・看護必要度委員会)	いるが、看護必要度はコスト算定の根拠にも通じているので記録として継続する。
		診療報酬改定後の加算	急性期：７対１ 地域包括:10対１の維持 看護補助体制加算 夜間看護配置 認知症ケア加算 入退院支援等の維持と算定	・診療報酬改定に関する情報収集と理解(看護部＋各師長・主任) ３月～４月改定セミナー参加 ・維持・算定するための体制整備(看護部)	看護部３名、看護師長７名が診療報酬改定研修会に出席した。 急性期・地域包括ケアいずれも入院基本料が再編されたが、７対１、10対１が維持できている。急性期看護補助体制加算については、９月末に看護補助者が退職し算定困難となったが、本４病棟の介護職員の協力で継続できた。 地域包括ケア病棟では看護職員夜間配置加算(55点/日)が新設され西２病棟で算定、1,339,800円の増収に繋がった。 療養病棟でも夜間看護加算(35点/日)を算定、9,509,150円の増収となった。また、稼働率を保ちながら在宅復帰率が維持できており、在宅復帰機能強化加算(50点/日)が算定できている。
		死蔵品数 診療材料のシール紛失数 病院全体の電気料金４月～翌１月	死蔵品：０ シール紛失:昨年度比10%改善 電気料金５%削減	・在庫管理(各部署) ・シール紛失理由を明確にし、改善案を立案、実行する。(各部署) ・意識して不必要な電気を消灯、エアコンを切る。(個人)	死蔵品は０、シール紛失は９枚、昨年同時期との比較で16枚の減となった。各部署で看護補助者も協力して取り組んだことが成果に繋がったと評価する。 電気料金は４月～12月で昨年同時期より792,746円増となっている。これは、例年にない酷暑で24時間冷房運転に切り替えた影響が大きい。
顧客	安全で根拠に基づいた看護・介護、快適な療養環境の提供により患者満足度の向上を図る。	３a以上のリスク	件数：10%減少	・各基準手順の遵守を徹底(看護基準・手順検討委員会＋各部署管理) ・新人、プレシャス、看護補助者入職時の指導と遵守の啓蒙を確実に実施(各担当者) ・電子カルテ導入後、多いリスクを抽出し、軽減に向けて取り組む(各部署)	平成30年４月～平成31年１月までのレベル３aリスクは27件、レベル３bリスクは４件だった。 リスクの要因別にみると、確認不足が約53%であり全体の半数となっている。電子カルテが導入され、バーコードリーダーを使用しての３点認証も開始されたが、その３点認証をやらずに起きた注射リスクやダブルチェックをしなかったために起きたリスク、あるいはダブルチェックをしているにもかかわらず起きたリスクが目立った。 基準やルールをしっかり守れば防げたリスクも多く、今後もスタッフへの啓蒙が必要である。 (文責：小林)
		感染症の蔓延	蔓延しない。	・ICN、各部署の環境感染対策委員が実施、評価	本４病棟において、9/10～10/3にかけて角化型疥癬(ノルウェー疥癬)と診断された患者１名と疥癬疑いと診断された患者18名、職員１名予防投与実施する。 インフルエンザ入院患者においては、持ち込み15名、院内発生24名、疑い患者５名。職員については、33名、疑い３名の発症があった。(12/1～2/26現在)　(文責：佐藤)
		患者満足度調査	全ての項目が１～10%改善する。	・各部署で平成29年度の患者満足度調査から改善点を一つ挙げ取り組む(各部署)	看護職員が関連する項目で、0.5%～5.1%満足が増加している。特に病棟部門の接遇についての満足度が5.1%も上昇している。６病棟中５病棟が接遇力向上に向けて、研修への参加を呼びかけ、啓蒙したことが成果に繋がったと評価する。
		看護・介護に関する投書件数	件数：３件以内	・接遇委員会主催の研修受講を促す。 接遇力の強化(看護部＋各師長・主任) ・繁忙時間帯に起きやすいことを考慮し、人員配置の采配を行う。(看護部＋日当直管理)	病院宛看護部門に寄せられた投書件数は７件 お褒めの投書：１(外来内視鏡室スタッフ) お叱りの投書：２(挨拶) １(スタッフの対応) １(外来窓口) １(スタッフ同士の話し声、ドアの開閉、声かけせずに体位変換) １(相手によって態度を変える) 目標値は達成できなかった。投書内容は状況を確認し、改善すべきところは改善し、接遇力の向上に努める。
内部プロセス	業務改善・就労環境を整備し、働きやすい職場を創る。	離職率	正規：0.5%改善 プレシャス：０	・子育て世代の増加に対応できる体制の整備として夜間保育の要望(看護部) ・プレシャス、看護補助者の適応状況を把握し必要時に介入する	離職率：6.1%(定年・身分切り替え含む) 昨年度比1.3%の増加 プレシャスナースは臨時から正規採用になる前の退職者が１名あった。 正規採用後の離職率は0%、本人の努力と各部署の受け入れ・サポート体制が良好だったためと評価する。

				”きらり面談”の実施３・６・12ヶ月(看護部長)	夜間保育・病児保育についてアンケート調査を行い要望したが、近隣公立２病院が実施していない状況で実現は難しかった。 きらり面談は、50%の実施。スケジュールが合わず実施が難しいことを実感している。今後は入職時から予定を立てて実施していきたい。
		超過勤務時間	超過勤務時間の減少 各部署設定	・業務改善(各部署) ・残務量の把握と采配応援の要望 平成29年度に学んだ労務管理の知識を活用する(各管理)	各病棟ではウォーキングカンファレンス・スケジュール表・患者参画型看護計画の必要性について検討を行った。患者層に加え患者背景も変化していること、電子カルテ導入後、情報収集・情報共有が簡便になってきたこともあり、上記は行わない事とした。ただし、自らが意思表示困難な患者が増える中で、患者家族とのコミュニケーションは密に取り、記録していく必要はある。 応援要請については、ベッド調整会議の場で同時に行うことで、他部署の様子も知ることができ、助け合う風土の醸成にも効果があった。ただし病棟の機能上、入院が集中してしまう現状もあり、スタッフに不公平感が出ていることも否めない。今後は、応援体制と連携を強化して改善していく。 超過勤務時間は9,362時間、昨年比1.1倍になっている。月毎の集計では、酷暑が続き稼働率100%を越えた日もあった７月～10月までが昨年度に比べ突出して時間数が増えており、多忙だったことが分る。今後も患者に最適な看護・介護が提供できることを目標に業務を見直し、効率化を図っていく必要がある。
		職務満足度調査	自己効力感・承認実感の素点0.2以上改善	・アサーションスキルの習得、実践 お互いに認め合う職場風土の構築	自己効力感、承認実感ともに0.01上昇した。目標値には達しなかったが、過去４年間の調査で平成28年度に続く高い素点となった。 各部署師長・主任が中心となり、職場風土の改善に取り組んだ成果と考える。
学習と成長	キャリア開発を支援し、ひとりひとりが成長できる	年度末のアンケート	理解度の項目で「理解できた」「だいたい理解できた」と回答する人の割合が60%以上 アンケートで研修に肯定的な意見が60%以上	新しいクリニカルラダーの周知と研修の工夫 ・新しいクリニカルラダーについての研修会の実施(教育担当師長) ・魅力的かつ効率的な研修の工夫(教育委員会)	「よく知っている」「なんとなく知っている」の割合は66.2%であった。当院のラダー表を早期に完成させ、JNAラダーと合わせて説明し理解を促していきたい。 研修について「満足できた」「まあまあ満足できた」と評価した人は93.4%であった。レベルⅤ－２は、ナラティブ研修を行ったが「看護について語り合えた」「他部署の看護師と話して新鮮だった」など研修に対しての満足感が高かった。自分の看護や、他者の看護についての思いや考えを話す機会、聞く機会が少ない中で、立ち止まって、自分の看護を振り返り他者と共有する時間を持てたことが満足感につながったと考える。今後もジェネラリストナースの研修には効果的な印象があるので、研修の中に対話をする時間を設けていきたい。
		到達目標チェックリスト	新人の到達目標チェックリストの達成度が85%以上	新人看護職員研修で技術項目強化 ・集合研修での達成度向上(教育委員会) ・臨床に近づけるよう場面を設定した研修の工夫(教育委員会)	平均では83.8%であったが、急性期病棟では90%代、地域包括ケア病棟では70%代と病棟によって差が大きかった。集合研修では演習の時間を多くとったり、必要物品は自部署から持参するなど工夫したが、病棟によって行われる治療や処置が違ったり、日勤の看護師の人数も違うため差が出てしまうのはいたしかたないことかもしれない。 今年度到達目標とチェックリストの見直しを行ったので、次年度活用し状況を確認しながら修正していきたい。
		新人の社会人基礎力評価表	初回と比べて最終回が改善されている人が60%	社会人基礎力について研修(教育委員会)	当院のラダー表や到達目標の項目と関連するところがあり、社会人基礎力表としては作成しなかったが、新人看護職員研修の中で電話の受け方かけ方、ナースコールの取り方など演習したり、看護職として必要な基本的姿勢や態度について考える機会をもった。 到達目標の見直しを行ったので今後にいかしていきたい。
		新人の離職率・プレ	離職率ともに“０”	新人・プレシャスナ	新人の離職率は“０”であったが、昨年就職した

		シャスの離職率		ースへの支援 スマイル面談追加(教育担当師長) きらり面談(看護部長)	新人１名とプレシャスナースは６名中１名が離職となった。 新人へは臨床心理士と相談しながらスマイル面談の回数を昨年より２回増やし３回実施した。離職がなく新人からの研修内容や指導体制についてよい評価だったことはスタッフの手厚い指導の結果だと考える。しかし、指導していると実感できている人は少なく、達成感につながっていない。病棟との連携を図りさらによりよい新人指導につなげていきたい。
		職務満足度調査	「成長・キャリアの展望」「教育機会」の点数が10％以上改善	外部委託で職務満足度調査の実施 結果をフィードバックし、解決策を検討、実施する。(各部署)	評価項目が変更されたため「成長・キャリアの展望」は全体、看護師、介護職はそれぞれ0.03・27.3%、0.1・90.9%、0.03・17.6%改善が見られたが、助手は昨年より0.19低い結果となった。 スタッフひとりひとりが成長を実感できキャリアを展望できる支援を続けていきたい。
		目標管理シート	共有評価の平均が４以上の人が全体の60%以上	病院・看護部・各部署・チームの方針、目標を受けて、スタッフ一人一人が目標立案、各管理者が面接を通して把握し、支援する。 面接３回/年実施 年度末に共有評価	目標管理については、一部署を除いて目標値をクリアすることができた。 目標管理面接は、個々のキャリア展望だけでなく、細かな背景や考えを把握する好機でもある。各管理者には、安全な医療・看護・介護の提供を最優先に、時間を有効活用して面接の機会が設け、丁寧に関わっていくよう指導する。

⑵　外来

目標１．病院経営の参加

１）外来患者数380人以上を目指す。①患者の意思決定をサポートする関わり。②患者待ち時間を見直し。

経過・結果：意思決定のサポートでは、チーム会を利用したカンファレンスを実施し情報の統一を図った。また、他職種と連携しがん化学療法カンファレンスの定着を図り、患者への関わりに生かしている。

待ち時間の見直しを実施、時間を長く感じさせない為の対策として、標語の募集や掲示物の工夫を行った。また、診察進行時間を示す時間表を確実に使用するよう心がけた。結果は308人/日平均となり目標に達することができなかった。

２）チーム・各自がコスト意識をもった活動をし、確実な物品管理を行いコスト削減につなげる。

経過・結果：チームで物品管理の定数チェック方法を確立し、コスト算定の確実な実施に向け見直しを行い、声掛けを実施、コスト漏れの無いように取り組んだ。また、不明な点は医事経営課に相談し、確認を行った。スタッフ個々においても82％が何らかの取り組みを行っていた。シール紛失件数は３件であった。

目標２．他部署・他科での連携不足によるトラブルを最小限にする。①各科のマニュアルの見直し。②電子カルテにおける問題点を見直し、他部署・他科連携方法を確立する。

経過・結果：マニュアルの見直しを行い、既存のマニュアルを電子カルテに準じた内容へ変更を行ったが完全な作成まで至っていない。新しく追加された科のマニュアルを作成し、応援に入ったスタッフがわかりやすいよう工夫を行った。外来から病棟への申し送り用紙を再検討しＢチームは統一を図り現在使用している。また、退院後の初回受診の際、電子カルテを利用し予約前にサマリーを参照するシステムを構築し、外来受診時に活用をしている。しかし、看護展開を含めた継続看護の必要性のある患者に対し、システム作りが今後の課題である。

目標３．患者満足度より接遇に向けた活動を行い、接遇の苦情が減少する。

経過・結果：各チームで活動を行った。接遇マニュアルを再確認し、日々の業務での読み合わせ、シミュレーションを実施した。投書などを受け年内３回ほど事例の検討を実施。結果接遇への苦情は２件ありスタッフの言葉など接遇力の向上が必要である。

目標４、業務改善を図り、外来での他部署応援ができる。①各外来の課題を抽出し対応策を検討する。②スタッフが新たに１カ所の科を受け持つ。③正規・臨時スタッフが内科・外科CSのカルテ入力応援を実施する。④外来治療室の運営方法の見直し。

経過・結果：業務の見直しを図り、採血室の運用を変更し午前・午後で実施、小児科・内科の予防注射の予約取得方法の改善を行った。また、医師の予約基準の見直しを行い、予約取得方法や検査の変更を実施している。チームを越えての応援は一部分に留まった。その原因には医師数・午後外来の増加、昼過ぎからの救急など業務内容が複雑化され、応援に行ける時間の捻出が難しかったことが考えられる。CS応援として電子カルテ入力については、チームへ依頼・トップダウンでの指示を出したが、導入する事できなかった。継続して実施していきたい。治療室については院内での治療患者の外来CFを実施し、共有を図り現在１名で日々の治療を担当している。基準化が図れていないため、基準作成を行っていく必要がある。

目標５．スタッフを支援しやりがいのある職場環境を作る。

経過・結果：日々の業務の中でスタッフについて主任と日々共有を図り情報交換を行い活動を行った。結果は目標管理では共有評価４以上は全体で68％という結果であった。しかし、内部環境として自己効力感0.23、承認実感は０と言う結果であり、権限委譲などが行えていないことや、スタッフへの関わり不足などから承認されているという実感ができていないと考える。職場環境では医師との関わりも原因として否めない。スタッフへの依頼、評価、声かけなど多方面の視点を持ち関わって行く必要がある。

（文責：高井 裕美）

⑶　東２病棟（内科系、46床、急性期（ＤＰＣ）病棟）

目標１．入院・転入・転院をスムーズに受け入れ、年間を通じて病床利用率93％（43床）と看護必要度30％以上を維持できる。

経過・結果：平成30年度病床稼働率78.9％（１日平均36.3人）であり目標には至らなかった。しかし、緊急入院や転入・転院患者はスムーズに受け入れ、患者家族からの苦情は聞かれなかった。

看護必要度は年間通じて45.4％と達成出来た。看護必要度に沿った記録に関しては記録監査を実施し、記録とコストの整合性の結果は減少傾向ではあったが、０には至らなかった。記入漏れに関しては、付箋を利用して当時者に伝え入力の訂正や汎用の追加を依頼した。更にｅラーニングの継続と委員会で実施した必要度テストの結果が低かった。間違いの多かった問題に関しては全員で再学習する時間を作るような働きかけが必要だった。

目標２．診療材料の適正な在庫管理を行う事ができる。病院経営に参画する。

経過・結果：節電を意識した取り組みに関しては、使用しないPC・病室の電気・エアコンOFF、消灯時間を厳守し、処置室・湯沸室・洗面所の電源OFFを実施、節電を意識した取り組が全員で実施できた。診療材料のシール紛失は０件であった。看護助手の日々の物品管理の協力の結果である。

診療材料の期限切れに関しては､用度担当から事前に配布された情報に沿って物品の確認をし、使用頻度によっては用度担当へ返品したり、物品の使用期限をチェックしながら他部署と交換したり、定数を減らしたりと検討・対応出来、診療材料の期限切れは無かった。

目標３．患者・家族と信頼関係を築き、安全で質の高い看護を提供する。

経過・結果：今年度のリスクレポート提出は50件（前年度93件）であった。当病棟では高齢者が多く、認知機能低下による点滴等の自己抜針・転倒等のリスク報告が多いにも関わらずレポート提出の件数が合致していないと感じた。患者様の安全な療養環境を提供する為に、リスク報告の周知とリスク発生と同時にレポート記入・提出の一連の作業がスムーズに実施できる様、委員と共に働きかけていく事が必要だったと考える。次年度の課題とする。

患者満足度調査の結果では「看護職員の接遇に満足」に関しては「接遇に満足」が87％で昨年より5.1％UPしている。これは院内全体の評価結果である。病棟では、各チームで接遇を意識したチーム活動に取り組み、大きな問題となる様な苦情等は聞かれなかった。また、接遇研修に関しては参加率100％であった。

目標４．職場風土を改善し、スタッフが働きやすい職場環境を作る。

経過・結果：NO残業デーの基準書を作成し、スタッフに周知した。今年度も継続して毎月NO残業デーを一人１回/月付ける事が出来た。毎朝、対象者を発表し、スタッフ皆で声かけをして業務に取り組んだが、緊急入院・業務多忙により実際には時間で終業する事が出来ない日々が多々あった。次年度も継続して取り組んで行きたい。

病棟全体会は計画通り年３回開催出来たが、全体会終了後も記録入力の残務があり、開催時間の確保に問題が残った。

チーム活動の充実に関しては、目標に沿ったチーム活動が実践出来たと評価できた。

スケジュール表に関しては、H31年１月からより廃止した。廃止後も特に患者・家族からは問い合わせもなくスムーズに実施できた。

ウォーキングカンファレンスは廃止して２年目となる。今年度は朝の会の前に夜勤者と日勤者が情報共有を行った。必要時は更にリーダーとメンバーが個々に実施した。

目標５．看護のやりがい感を感じ、個々の目標管理を実践する事で成長出来る。

経過・結果：院内の研修に関しては勤務調整を図り協力出来た。院外研修に関しては対象者が１回/年参加出来た。

受け持ち看護師の役割として看護計画の実施・評価については入退院が多く展開が早い為か評価予定日に評価を行う事が出来ない事もあったが、受持ち看護師として日々意識して可能な限り実施出来た。スタッフ面談に関しては、計画的には出来なかった。日々、問題があれば声掛けをして必要時個々に面接は実施出来た。個々の目標管理の達成度については共有評価の平均が「４」以上の人が全体の85％であり、目標は達成できた。

職務満足度調査の「自己効力感」の素点0.1～0.4のUP、「承認実感」の素点0.2～0.3低かった。「成長キャリアの展望」・「教育機会」の点数が10%以上改善できなかったが、項目においては前回よりも素点02～1.0のUPがあった。

（文責：麻布 香苗）

⑷　西２病棟（36床、地域包括ケア病棟）

目標１．転入・入院を快く受け入れ、継続した看護を行う。

経過・結果：看護の継続として、必要なケアを確実に看護介入に入力。口頭での申し送りをカルテ入力や連携シート記入として行動に移せ、アンケート調査前後で75%のアップがみられた。

看護必要度は、記録委員と協力し、各自が３～５回/１ヶ月ｅラーニングを行い、18点以上取得できるように取り組む。入力間違いの頻度は減少し、正確性の向上がでている。一泊シャント造設術患者の受け入れを新規スタート。緊急時対応として、シャント手術用のマニュアル作成実施。他院との協働や、院外医師とのコミュニケーションも必要となり、突発性の処置が伴う事もあったが、スタッフ全員で新規の取り組みを継続中である。長期療養の高齢者が多く、在宅から施設や療養病棟へ移行の方々が多くでた。包括期限や家族の意向確認を密にし、MSWも交えての支援と受持ち看護師が意識し支援したが、認知症や老老介護、独居のために家族中心や話の時間を十分とれなかった事例もあった。

目標２．安全で根拠に基づく看護の提供をする。

経過・結果：電子カルテ導入後のリスク対策として随時伝達を行い、リスクレポート用紙をファイルにて回覧とした。４月から12月までで21件のリスクレポート提出。昨年度より50%減少する。当日手術患者や脳外・外科・整形という内科以外の科患者受け入れ等、日々変化のある看護体制において、声掛けや確認の励行が現れた結果と考える。

医療者に必要な接遇マナーの資料を各チームに配布し、チーム会で勉強会を行う。また、個々に対しても「あいさつ、笑顔、身だしなみ、態度、言葉づかい」など、患者、家族だけでなく、スタッフ間でも行うようにし、働きやすい環境作りを行った。

目標３．業務改善を行い、働きやすい職場環境をスタッフ全員で創る。

経過・結果：薬剤師やリハビリスタッフとの窓口を主任が行い、薬剤師の力を得ながら薬剤に関することに対して調整をとった。入院や転入、退院指導等もスムーズに行えた。リハビリカンファレンスを含め、日々のリハビリに関する協働について周知し看護介入できた。介護者へも周知し継続した取り組みができた。

スタッフ全員にアンケートをとり、ウォーキングカンファレンスとスケジュール表廃止を12月から実施。全員の意見から状況分析と結果を報告。一週間程は廃止に伴うスタッフの動きや決め事を新たに作成することに費やされたが、業務時間短縮と意見交換の場が増えた。H29年度の職務満足度調査からH30年度では全体で0.2以上の改善があった。

目標４．自己のキャリアを考え、お互いを支援し成長できる。

経過・結果：新人２名は毎月相談役と振り返りを実施。技術のみならず、精神面でのサポートを行った。相談役へのサポートもその都度行い、２年目１名は１～２ヶ月毎振り返り、必要時、教育師長の支援を受け教育にあたった。離職率０％、必須研修参加100％、目標管理面接を３回実施し、目標管理シートの共有評価は、平均値：4.07であり「４」以上が全体の80.2%であった。

職務満足度調査の成長・キャリアの展望はH29年度「-0.31」がH30年度「＋0.11」となった。

（文責：伊藤　さゆり）

⑸　東３病棟（外科系、32床、急性期（ＤＰＣ）病棟）

目標１．年間を通じて病床利用率93％（30床）と、看護必要度30％以上（重症者10名以上）を維持できる。

経過・結果：H30年度の稼働率82.5％、平均在院日数13.3日、看護必要度平均35.6％であった。稼働率が昨年度の73.7％から上昇したひとつの理由として、４月から新たに加わった泌尿器科、婦人科の入院患者数増加と考える。

看護必要度評価誤差は０件の月もあり、多い月でも４件までに低下し、目標の月５件以内を達成できた。これは委員が日々記録監査を行い、訂正がある場合は電子カルテ付箋を利用し内容を記載したこと。また付箋内容を確認し修正できたスタッフの努力の結果であると考える。

死蔵品ゼロ、シール紛失は１枚であり（Ｔ字カミソリ）、昨年度の８枚と比較し大きく改善できた。

電気料金の削減については５月のアンケート結果、節電について「とても意識している」６％、「まあまあ意識している」77％であった。個々で節電できる内容を記載し実践した結果、12月のアンケートでは「とても意識している」14％、「まあまあ意識している」82％と節電意識が上昇した。具体的には不要な電気はこまめに消す。夜間使用しないパソコンをシャットダウンする等、個々で節電を実践することができた。

目標２．看護実践において患者家族へ温かい態度で接し、患者満足度調査の結果『看護師・看護スタッフの対応』が1.5％改善し、苦情がゼロとなるよう信頼関係を築く。

経過・結果：接遇については、各チームがそれぞれ活動を考えた。具体的には「患者が安心して入院生活を送ることができるよう説明する」等のスローガンを月毎に決めた。それを朝のウォーキングカンファレンス前に各チームで斉唱し、接遇への意識を高めた。また、チーム会で接遇勉強会を行うとともに、月毎に接遇が良いと感じたスタッフ名を挙げ評価した。

接遇に対する苦情は４件あり、内容は「ナースコール対応」「家族への対応」等であった。苦情の際は個人へフィードバックし、必要な内容は部署全体へ周知した。

患者満足度調査結果の『看護師・看護スタッフの対応』は昨年度から5.1％上昇し82.6％から87.7％となった。しかし、この結果は入院病棟全体であるため、自病棟では対応への苦情ゼロにできるよう、継続して接遇について取り組む必要がある。

目標３．急性期病棟の特徴である短い入院期間の中で質の高い看護が実践できる。

経過・結果：日々の患者カンファレンスはチーム毎に取り組んだ。カンファレンスは入院１週間以内と転棟前又は退院前にできるよう、患者ファイルに受け持ち看護師と日付を記入するテープを貼付し意識付けした。結果、目標の90％には届かなかったが70％開催できた。

入退院連携シートは、チームアンケートの結果、全患者対象に入院時に印刷し受け持ち看護師が中心となり記入することがほぼ100％できた。

勉強会について、泌尿器科は手術室と合同で１月と２月に「前立腺生検」「TUR-BT」について開催した。婦人科は12月に初めて２名の患者が入院したが勉強会開催までには至らなかったため、次年度の課題とする。

職務満足度調査結果は昨年度の素点と比較し『承認実感』は0.09上昇し、『自己効力感』も0.05上昇した。『自己効力感』では1項目が昨年度偏差値と比較し５以上上昇し、特に『承認実感』では全ての項目において昨年度偏差値と比較し５以上上昇した。病棟内では先輩看護師が若手看護師の良かった点を声に出して褒める風土もあり、このような環境も上昇に繋がったと考える。

目標４．看護力アップのため、看護師の働く環境を改善し、離職者をゼロとする。

経過・結果：今年度も離職率ゼロを維持することができた。新人看護師は８月から夜勤を開始したが、シャドーイング体制とし必ず先輩看護師とペアで業務した。プレシャス看護師も成長に合わせ現任指導者が具体的に計画立案を行い、病棟全体に周知してくれた。日々、指導に携わってくれた先輩看護師と、努力した新人、プレシャス看護師全てに感謝したい。

ノー残業デーの実施については、個々に、定時で帰りたい日の勤務表に印をつけ、部屋割りのホワイトボードにカエル磁石（蛙マーク）をつけた。又、朝の朝礼の際、カエルマークの看護師名を発表し、意識付けを行った。結果、残業時間は月平均９時間であり、昨年度と比較し病床稼

働率は増加したが、1.9時間改善できた。この取り組みは次年度も継続していきたい。

目標５．安心、安全な医療・看護の提供ができる。

経過･結果:今年度のレポート枚数は75枚であり､昨年度の提出枚数161枚と比較し大きく低下した。具体的計画立案したように、すべてのリスク事例に対し速やかに入力する習慣を身につける必要があるが、入力作業は、ほとんどが勤務終了後であるのが現状である。また、レポートには多くの記載項目があり、入力に負担があるように感じる。しかし、ゼロレベルのレポート提出が、重大事故防止に繋がるため、次年度も委員を中心に入力する習慣を身につけていくよう周知していく必要がある。

レベルⅢaは１件であった。体幹抑制をすり抜け、転倒転落により大腿骨頚部骨折となった事例である。

注射のリスクは14件であり、内訳は注射速度４件、血糖測定４件、自己抜去１件、投与忘れ２件、その他であった。昨年度の注射リスク30件と比較し47%減少した。特に、血糖測定については測定忘れがないよう、電子カルテの看護処置欄に「血糖測定」の入力を徹底した。これにより、部屋持ち看護師、夜勤の責任者、休日勤務の際もワークシートで把握することができ、血糖測定忘れの低下に繋がったと考える。

（文責：松永　光代）

⑹　西３病棟（46床、療養病棟）

目標１．看護・介護協力の下、年間を通じて病床稼働率98％（１日平均45人～46人）以上を維持し、在宅復帰機能強化加算をとることができる。

経過・結果：病床稼働率は97.0％であった。空床ができた当日の転入や、療養目的の患者の直接入院、ベッドコントロール会議で相談し、早期に受け入れる事ができた。前期において、患者数が少なかった時期があった為、後期でＣＳの一泊入院も受け入れた。目標値には及ばなかったが、満床を目指してスタッフが気持ちよく患者の受け入れをしてくれた結果、在宅復帰機能強化加算を継続してとることができた。

目標２．患者・家族の思いを尊重することで、患者家族と信頼関係を築き、根拠に基づいた安心・安全な看護・介護を提供する。

経過・結果：チーム活動において、緩和ケア、褥瘡対策のポジショニングの勉強会を行い、日々の看護に生かすことができた。ウォーキングカンファレンスを廃止し、曜日ごとに、全体、チーム、認知症カンファレンスを行なった。患者カンファレンスを介護職と共に行なうことができ、意見交換することができた。しかし、内容が患者情報交換となってしまっていることが多い為、検討していくことが必要である。病院全体の患者満足度において、看護師スタッフの対応についての満足が87.7％であった。患者、家族からの要望や疑問に対し、その都度説明し、対応している為、スタッフに対するクレームはなかった。長年継続している誕生日会や、家族に対しての声かけもより人間関係を深めることに繋がっている。

目標３．スタッフの到達目標の達成の支援、業務改善することで、看護、介護のやりがい感、質の向上をはかることができる。

経過・結果：チーム目標の達成率は80％達成、希望する院外の研修の申し込みは行なったが、希望者が多く、受講不可となってしまい、全員受講にはならなかったが、目標管理の個人目標達成率は、評点４以上が83％であった。

業務改善においては､チーム間の応援態勢を患者数や重症度に応じてその都度話し合いを持ち、数名の患者を他チームで担当してもらった。日々のリーダーの負担軽減の為、口腔ケアの担当を決めるようにしたが、人員的に困難であったため、予定通りに行うことができなかった。療養病棟でも経過一覧表の観察項目だけでなく、看護記録の入力を12月から行う事になった為、リーダーの負担が増え、超過勤務が増えた。対策として、処置を行った看護師も記録を行い、療養病棟用のダイナミックテンプレートでの記録を作成し、使用している。リーダーだけでなく、メンバーの部屋持ちを検討していく必要がある。

目標４．診療材料の適切な在庫管理を行うことができる。

経過・結果：シールがない時は早期に気がつき、対応することができた。しかし、シールの紛失は使用頻度が高い経管栄養のルートだった。シールを剥がした後の用紙を確実に一時預り箱に入れるように意識付けをしていく必要がある｡節電意識については､アンケートの結果､｢できている｣「まあまあできている」併せて97％であった。夜間のパソコンや使用していない電気の消灯を意識して行うことができたが、休日に使用していないパソコンの電源がついて必要の無い所の電気がついていることがあった。引き続き啓蒙していく必要あり。

（文責：岩崎　百代）

⑺　本４病棟（46床、療養病棟）

目標１．看護介護が協力し他病棟からの転入を受け入れる。

経過・結果：平成30年度も待機期間の短縮に向け、空床があれば直ぐに患者を受け入れた。稼動率は97.0％、目標値達成には至らなかった。４から５月までは院内全体の稼働率が低かったこと、９月に他院から受け入れた患者の感染症があり、転入受け入れができなくなったことが大きな要因と考える。

もう一つの経営貢献として、不要な電気・エアコンを切ることを目標に活動した。意識して行動できたかのアンケート結果では、Ｂチームは前半後半とも100％と高かった。Ａチームは前半84％と低かったが後半は100％と上昇し、意識が改善したことがわかった。今後も経費削減のためにも継続していきたい。

目標２．安全で快適な療養環境を提供し「温かい」看護をめざす。

経過・結果：４月からチームの志気を高めるため各チームで合い言葉を考え、Ａチームは「ステップ・たすけあい」、Ｂチームは「あなたを思って」とした。

認知症患者にユマネチュードを用いた対応が出来ることを目標にして活動した結果、対応できたスタッフが100％、認知症状が改善した事例もあった。この活動には他部署からも「院内モデルとして継続してほしい」と評価された。一方、患者様からのクレームは３件、オムツ交換の言葉かけ対応の悪さであった。カンファレンスを開き、オムツ交換時の言葉かけ対応を徹底した。

医療安全面では、インシデントレポートは100％提出できており、安全への意識は高まっていると評価する。

目標３．業務改善・労務環境を整え働きやすい職場環境を創る。

経過・結果：看護のやりがい感は94％であった。職務満足度調査の「ワークエンゲージメント」は0.15％上昇、「看護への肯定感」は0.01％下降した。５％と高い目標を掲げたが目標値にはいたらなかった。チーム会は毎月開催し、出席率はＢチーム59.6％、Ａチーム66％ではあったが、朝のカンファレンスを有効活用したことでチーム内のコミュニケーションは取れていたと考える。

目標４．看護師ひとりひとりのキャリア開発を支援し成長できる。

経過・結果：平成30年度は介護福祉士も含め、スタッフ全員が院外研修に参加した。内容は介護福祉士が緩和ケア・認知症看護、看護職は後輩育成・看取りの看護・暮らしをつなげる看護・看護倫理の考え方、等であった。しかし、看護協会の研修は人数制限があり参加できないスタッフもいた。そこで、他に開催される希望の研修を抽出し、自分の時間を利用して研修参加し病棟で成果発表を行った。個々の成長にもつながり看護の質向上にもなったと評価する。目標管理シートの共有評価は平均値「４」以上が全体の60％以上を満たした。

目標５．在庫の管理を行い・診療材料の紛失をゼロにする。

経過・結果：診療材料のバーコードシールの紛失は２枚あり、フィーデングチューブと気切カニューレの紛失であった。今年度は、診療材料のパッケージを捨てる専用のゴミ箱を作りその中に入れておき、シールの取り忘れが無いか確認してから廃棄する方法を考えた。紛失０にはならなかったが来年度も引き続き継続していきたい。

（文責：山島 明美）

⑻　新３病棟（29床、地域包括ケア病棟）

目標１．病床稼働率94％と在宅復帰率70％以上を目指し病院経営に貢献する。

経過・結果：病床稼働率86.4％であった。昨年に引き続き緊急入院・転入・休日入院を積極的に受け、病床利用率は昨年度より7.5％上昇した。在宅復帰率は、79.8％で地域包括ケア病棟の要件を満たしているが、昨年より7.4％低下した。これは４月の診療報酬改定により、在宅復帰率の対象となる施設が狭まれた事も要因と考えられる。看護必要度の齟齬は、４月から８月まで平均6.6件であった。機材庫管理をしている診療材料について死蔵品は発生しなかったが、救急カート内の診療材料に死蔵品があった。シール紛失は、酸素カヌラの１件であった。緊急時にシール紛失がみられたため､シール一時保管場所の活用と汎用を入力する際､シール貼付の再確認を啓蒙した。節電意識を高めるために、照明スイッチ付近に節電を呼びかける表示を提示した。アンケート結果より節電の意識が76％から88％に上昇した。

目標２．快適な療養生活を提供するため安全な看護・介護を実践する。

経過・結果：「退院する際の説明のわかりやすさ」は、71.4％と昨年より４％上昇した。退院日に説明する内容が多いため、退院までの間に段階を得て説明をするようにした。病棟におけるリハビリ機能を高める方法として、患者個別の筋力強化運動と集団レクリエーションを導入した。

看護・介護に対する投書は０件、苦情は２件、内容は認知症患者のケアに関する事であった。

リスクレポートⅢa以上は６件で、うち４件は転倒であった。電子カルテ導入後、点滴投与忘れが３件あった。原因は、電子カルテからの点滴に関する情報取得不備によるものであった。

目標３．やりがいを感じ働きやすい職場風土をつくる。

経過・結果：業務改善として、週間業務の業務量調整を行った。しかし、１人頭の平均普通残業は、１時間増加している｡受け持ち主体のカンファレンス開催が定着するようチーム毎大勢を整えた。

退院支援困難事例が増加する中、個々の退院支援能力を高めるために、看護師による定期的な勉強会を開催した。集団レクリエーションの企画・運営を介護職と協働で行った。週１回の開催で現在も継続中である。職務満足度調査の結果、「自己効力感」は素点0.02の改善、「承認実感」は素点の変化はなかった。

目標４．個々のラダーレベルに応じたキャリア開発が支援できる。

経過・結果：新人の目標達成率は70％である。新人指導者とチームメンバーは、新人看護師が患者アセスメントをしながら看護技術が取得できるよう指導を行った。現任指導は、受け持ち看護師としての役割が担えるように指導した。夜間業務・夜間看護が習得出来るよう、個々のペースに合わせて取り組んでいる。職務満足度の結果、「成長・キャリアの展望」が素点0.21で、「教育機械」が素点0.19で､昨年度より10％改善した｡目標管理シートの共有評価の平均値は､4.28で「４」以上が全体の60％以上を満たしていた。目標管理面接は２回実施した。

（文責：後藤 ひさみ）

⑼　人工透析センター

目標１．当院の透析医療を取り巻く状況に対応し、適切な治療を提供できる。

経過・結果：今年度は東名富士クリニックとの連携により、当院に於いてシャント手術が可能となり、尿毒症の進行前に患者自身が透析の必要性を理解して計画的に導入できるようになった。今年度は５名の透析導入があり、うち１名が外来透析を実施中である。

臨床工学技士が昨年度増員し、近年注目されているIHDF（間歇補充型血液透析濾過）を積極的に実施している。常勤医不在だが経験豊富な臨床工学技士により、症例は少ないが緊急透析の対応も可能となった。地域連携パスや療養目的、レスパイト等近隣病院や透析施設の患者を積極的に受け入れたが外来患者４名が死亡し患者数の変化はない。しかしベッド稼働率は72.7％で昨年度と比較し4.7％上昇となった。金井医師の意向で検査名人システムの利用が可能となり、透析量の評価も容易になった。入院患者増加に伴い月水金カンファレンスが十分に実施できない状況の中、受持ち看護師全員が個々に患者と向き合い状況把握を行っている。情報不足によるリスクを防ぐため、全体カンファレンスを定例で実施する方向である。

目標２．診療材料の適切な管理と省エネを意識して実践することができる。

経過・結果：手術目的による他の透析施設患者の受け入れに伴い血管内留置カテーテル患者数も増加し、カテーテル処置関連の新規診療材料も増えた。また薬剤の取扱いに関しても、納入業者変更に伴い箱単位で納入することとなり、多数の薬剤を透析室内で管理する状況となった。新規診療材料に関しては、取り扱い方法をスタッフに説明し周知を図った。死蔵品は「０」であったが看護助手が長期不在時にアクションシール紛失が１件発生し、シールの取扱い方法を看護助手と検討を行った。不適切なプライミングの実施が４件発生した。カンファレンスで検討し、前日の準備はスケジュールを再確認すること、状態が不安定な患者は、当日朝患者の状態を電子カルテで確認してからプライミングを行うことで周知を図り、以降不適切なプライミングによる無駄は発生していない。年度末のスタッフ聞き取り調査にて診療材料の節約と省エネの意識付けは89％が出来たという結果を得た。

目標３．看護及び臨床工学それぞれの専門分野を、やりがい感をもって業務できる。

経過・結果：看護師と臨床工学技士が知識を共有し統一した看護・技術を提供出来るように、看護、技士各々の一日の業務を明確にし、協働業務を作成した。業務マニュアルも改訂できた。技士からは患者移乗の知識技術を身に付けたいと意見があり、理学療法士による実技指導を行った。他部門との連携では、透析関連部署を対象に75名の看護師に透析勉強会を実施し、好評価を得ることができた。固定チームの小集団活動について８割以上が自分の役割を意識しやりがい感をもって活動できたと答え、目標管理シートの共有評価が「４」以上のスタッフは全体の75％を占め、有意義なチーム活動であったと評価する。

臨床工学技士を対象に固定チーム活動の説明が不十分な部分があった、次年度は、固定チーム活動においての役割を理解できるように説明を行っていく。

目標４．安全で信頼される療養環境を提供できる。

経過・結果：リスクマネジャーを中心に、些細なこともインシデントレポート入力をするよう促し、発見者以外の関連者にもレポート入力を依頼した。朝のカンファレンスでは、ヒヤリハット事例と対策を報告し、事例内容によってはリスクカンファレンスを実施し、皆で対策を検討し合った。インシデントレポートの入力を自主的に行う姿もみられるようになり、リスクに対する意識向上が図れたと感じることができた。接遇面では、挨拶の強化を図った。スタッフは挨拶に対する意識は持っており、透析患者からの挨拶に関する苦情はなかった。院内の投書事例を報告し、患者は医療者（蒲原病院の）の態度を意識して見ていることを再認識した。透析スタッフは長期に渡り患者と関わる為、良好な信頼関係を築く必要がある。スタッフとの会話を楽しみに通院する患者も多い。今後も接遇の意識付けを行っていく。

（文責：手塚 紀代美）

⑽　手術室

目標１．　業務内容を整備し、安全で根拠に基づいた看護を提供する。

経過・結果：全身麻酔用パンフレットを使用して、外科患者に術前訪問をほぼ全例行うことができた。呼吸訓練（トライボール実施）の説明に必要な内容も追加し、スタッフからは説明しやすくなったという評価が得られた。ただし、１年間使用してみて、外科外来と病棟に使用後のアンケートを実施する予定だったが、できなかったので今後の課題としたい。

外科の腰椎麻酔患者の外来での術前訪問を開始することができた。早い時期から情報収集をすることができ、スタッフからは入院後の術前訪問時にもコミュニケーションがとりやすくなったという意見が聞かれた。また、患者からも面識のある看護師がいることにより安心したなどの意見があった。このようなことから外来での術前訪問時や入院後の術前訪問実施により、術前看護の充実が図れたと考える。

振り返り用紙を改善し、患者のパーソナルな情報を記入する欄や手術時の状況をチェックする欄を設け、より記入しやすい内容とした。そして、全症例に対し振り返り用紙を記入し、必要時その用紙を活用してカンファレンスを実施することができた。手術件数の増加に伴い週1回のカンファレンスを開催することはできなかったが、スタッフ全員がカンファレンスをしようと意識していたため、短時間で情報交換を行った。その結果、話し合った内容を次の手術で役立てることができた。

目標２．手術室看護師として専門的知識を高め、個々が成長できる。

経過・結果：膀胱癌、前立腺癌の勉強会を実施した。全ての泌尿器科手術が初めての経験であり、医師にも確認をしながら、学習と手術の振り返りを繰り返し、手順書の作成や修正ができた。手順書を作成すること､振り返り用紙を活用することなどにより､全てのスタッフが情報を共有し、器械出し業務を行うことができた。

勉強会実施や医師に体位や手術の流れの確認を行い、手術時の外回り看護の流れを確立することができた。特に体位については、砕石位、体外衝撃波結石破砕術（ESWL）時のシミュレーションを繰り返し、患者の安全・安楽、羞恥心に対し配慮することができた。また、患者より手術内容が理解できていないような言動があり、新たな術前オリエンテーション用紙の必要性を感じ、前立腺生検、ESWLのオリエンテーション用紙を作成し使用を開始した。

病棟とは入室時・帰室時の方法、術衣の選択などについて協力し実施できた。また、作成したオリエンテーション用紙を病棟看護師にも確認してもらい､一連の流れを共有することができた。病棟と外来との連携はまだスムーズではないが、今後は病棟との合同勉強会や手術の見学などを進めていきたい。また、術前訪問の実施を泌尿器科外来にも導入していきたい。

目標３．働きやすい職場環境を創り、手術室看護師としてのやりがいを感じることができる。

経過・結果：職務満足度調査では、自己効力感・承認実感ともに素点は下がってしまった。勉強会実施や手順書の作成はできたが、新たな手術に対して、十分な知識や技術を習得できないまま始まってしまったため、専門職としての自信や満足感を得ることができなかったのではないかと考える。また､昨年まで経験しなかった手術に対し不慣れな状況の中､医師との関係性（信頼関係）に戸惑いが生じたこと、また、勤務異動により職場の環境や業務内容に慣れないスタッフがなかなか自信を持てないことなどがポイントダウンした要因ではないかと考える。目標管理の面接が計画通りに行うことができず、スタッフ個々の目標や想いを確認することができなかったので、承認実感が得られなかったとも考えられる。

問題解決支援はポイントアップした｡手術件数が増加したことにより生じた様々な問題に対し、医師への交渉や物品の購入など関連部署と連携をとったり、いろいろな場面でスタッフが働きやすい環境を心がけ支援に努めた結果ではないかと考える。

スタッフ各自の目標管理の評価については、全員が達成度「４」以上の評価であった。看護部の目標値である目標管理の達成度「平均４」が60％以上を達成することができた。

（文責：小林 千也子）

⑾　訪問看護ステーション

目標１．診療報酬、介護報酬改定による収益アップに繋がる加算をとる。

経過・結果：算定条件を満たし、継続して看護体制強化加算(１)600単位/月/人を算定した。

ターミナルケア加算は18件(昨年度８件)、退院時共同指導加算は21件算定し目標は達成できた。

退院時共同指導加算は、退院後の初回訪問時に算定する為、会議に出席しても退院できない場合算定できない。会議に出席したが、算定できないケースが２件あった。

収益アップに繋がる加算は算定できているが､ステーション収益に反映されていない現状がある。

職務満足度調査において､「効率低下の原因：記録・入力に、必要以上に時間を使っている」の偏差値が昨年度より低下している。業務を見直し、残業を減少させる対策が必要である。

目標２．受け持ち患者が中心となり、患者・家族の思いに沿った温かな看護を実践する。

経過・結果：ケアに対する苦情はなかったが、訪問看護費集金後の領収書に対し苦言があり、集金時に「預かり証」を渡すことにした。集金は訪問看護師にとって負担となる業務であり、病院事務部を含め対策を検討する必要がある。

各病棟で訪問看護について勉強会を行った。質問や意見がみられ在宅移行支援への関心の高さが伺えた。外来カンファレンスは継続して出席している。院内にある訪問看護ステーションであり、連携が取りやすいという利点を活かし支援を継続した。

訪問看護終了患者15人にアンケートを配布し、無記名で投函をお願いし８人回収できた。全員が「良かった」」という回答だった。介護指導、24時間対応、心の支え、看取りへの支援、多職種連携に感謝の言葉が綴られていた。患者・家族の思いに丁寧に関わり、心温かな看護を実践できた結果だと評価する。

目標３．理学療法士と連携し、介護報酬改定に沿った支援を実践する。

経過・結果：朝のカンファレンスの際に理学療法士と情報交換している。介護報酬改定により理学療法士等によって提供される訪問看護について、定期的な看護職員による訪問が義務付けられ、看護職員と理学療法士の連携が求められた。理学療法士による訪問看護に対し、看護師が月に１回定期訪問し状態を観察している。患者への経済的負担を懸念したが、患者からも理学療法士からも「安心である」と感想を得ており、リスクの報告はなかった。報告書、計画書も修正し、理学療法士との連携が見える書式とした。

目標４．訪問看護師として個々が成長し、やりがい感を持って業務を遂行する。

経過・結果：職務満足度調査の結果、自己効力感、承認実感の偏差値が昨年を上回ることができた。新採用や異動により訪問看護の経験が浅いスタッフもいる。今後も主任やチームリーダーと協力し、個々のスタッフがやりがいを持って仕事ができるよう支援していく。静岡県訪問看護協議会や医師会主催の研修が数多くあり、スタッフの希望に沿って参加し自己研鑽している。「ストマ研修」「看取り」「精神科看護」「訪問看護e-ラーニング」「重度心身障害児看護」等の院外研修へ参加した。参加後は日々のカンファレンスで報告し、実践に活かしている。ステーション内の勉強会は理学療法士による勉強会ができず、実施率は80%であった。

（文責：吉野　深雪）

⑿　健康診断センター

目標１．特定保健指導実施件数を増やし、質の向上を図ることで、病院経営に貢献する。

経過・結果：特定保健指導初回面談実施件数は821件（昨年度484件）で、前年比約170％であり、目標件数を超えて大幅に増加し、約500万円の増収となった。今年度、制度の変更に伴い、出張健診先での健診と同時に実施する「初回面談分割実施」を取り入れたことや、新たな事業所との契約が増えたことなどが件数の増加に繋がった。アウトカムとしては、体重が２㎏以上減少、または腹囲２㎝以上減少、または血液検査でHbA1ｃの改善が見られた人が35.3％であり、目標値を達成した。

特定保健指導は、生活習慣病の発症、重症化を予防し、医療費適正化に寄与することが明らかになっており、各医療保険者に対して実施率の向上が求められている。当センターにおいても、今後、受託件数の増加が見込まれており、また2019年度より単価が上がり、さらなる収入の増加が期待される。質の向上にも努め、特定保健指導を通して、地域の人々の健康を守る使命を果たしていけるように取り組んでいきたい。

目標２．がんの早期発見、生活習慣病予防のための適切な支援を実施する。

経過・結果：がん検診精密検査受診率　2018年（2017年）

	大腸がん（便潜血）	肺がん	胃がん（胃透視）	乳がん
人間ドック受診者　(%)	65.6（70.5）	85.2（75.7）	62.5（60.6）	52.4（16.4）
集団健診受診者　(%)	40.5（29.0）	50.3（51.4）	50.9（52.8）	50.0（30.0）

がん検診の精密検査受診率は上記の通りである。いずれの項目も集団健診受診者の受診率が低いが、大腸がん検診の受診率は今まで20％台を低迷していたのが、大きく上昇した。精密検査の受診勧奨を継続して行ってきた成果が出ていると考えられるが、国は精密検査受診率の目標値を90％以上としており、まだまだ及ばない状況にある。今後も効果的な受診勧奨を健診センター全体で取り組んでいく必要がある。

生活習慣病予防に関しては、出張健診先での特定保健指導の実施に伴い、同時に受診勧奨や保健指導を実施することで、当院の糖尿病外来へつないだケースもあり、生活習慣病予防への意識を高める関わりを行なうことができた。

目標３．多職種で連携・協同し、接遇の向上、業務改善を行い、受診者満足度の高い健診を提供する。

経過・結果：健診センターに設置したご意見箱には15件の投書があり、接遇に関するものが７件、システムや設備等に関するものが８件だった。接遇に関するものは、全て好意的な意見であり、その他の意見についても、多職種で協力し、迅速な対応に努めた。

ドック受診者を対象とした満足度調査の結果については、看護師の対応に関する項目について「満足」「やや満足」が99％以上だった。また、満足度調査の結果について、多職種での話し合いの場を持ち、改善につなげる提案を行うことができた。来年度は、今までも多数意見が寄せられていた「待ち時間の長さ」について、改善に向けての取り組みを健診センター全体で進めていきたい。

目標４．スタッフが健診センターで働く保健師として専門性を高め、誇りを持って仕事を行うことができる。

経過・結果：保健師、管理栄養士合同カンファレンスを２ヶ月に１回実施し、事例検討や研修参加報告などを行った。全てのスタッフが院外の研修に参加して、専門性の向上に努めることができ、職務満足度調査で「成長・キャリアの展望」は前回より偏差値が13％上昇した。また、個々の目標管理において、共有評価が「４」以上が全体の71％であった。

（文責：大川 香）

2　看護部教育院外研修

主催	開催月日	内　容（目的）	参加人数
静岡県看護協会	4/11～13	平成30年度診療報酬・介護報酬改定説明会	5名
静岡県看護協会	5/9	周手術期の看護－手術を受ける患者・家族のQOLを高める	3名
静岡県看護協会	5/17～18	看護倫理の考え方－みんなで考える倫理問題	2名
静岡県看護協会	5/19	発達障害を理解する	2名
静岡県看護協会	5/31	知っておきたい認知症ケアの基本	5名
静岡県看護協会	6/2	もう迷わない!迷わない!高齢者施設・在宅での感染予防	3名
日本通所ケア研究会	6/3	入院中に起こりやすいBPSD対応と認知症ケア加算取得と活動の実際セミナー	1名
静岡県看護協会	6/4	後輩育成に活かすコーチングとティーチング	5名
静岡県看護協会	6/5～9/5	認定看護管理者教育課程　ファーストレベル	1名
静岡県看護協会	6/7	新入会員研修	2名
静岡県看護協会	6/9～10	教育担当者のためのシミュレーション研修	1名
静岡県看護協会	6/11	おさえておきたい糖尿病看護の基礎	6名
静岡県看護協会	6/13	看護研究の第一歩～研究テーマの絞り込み～中部	2名
静岡県看護協会	6/16	第1回労働環境に関する研修会	2名
日本看護協会インターネット配信研修	6/21～22	認知症高齢者の看護実践に必要な基礎知識	1名
静岡県看護協会	6/29	災害看護一般研修Ⅰ	1名
静岡県看護協会	6/30	看護研究の第一歩～研究テーマの絞り込み～東部	1名
静岡県看護協会・静岡県ナースセンター	7/12	再就業者フォローアップ研修会	1名
全国自治体病院協議会	7/19～20	看護師研修会	1名
静岡県看護協会	7/21	静岡県看護教員継続研修	4名
静岡県看護協会	7/25	新入会員研修	3名
静岡県看護協会	7/26～27・30	静岡県看護職員認知症対応力向上研修－認知症ケア体勢構築推進者研修	2名
静岡県訪問看護ステーション協議会	7/28、8/4・18	平成30年度　精神科訪問看護研修	1名
静岡県看護協会	8/2～H31/2/1	訪問看護師養成講習会	1名
静岡県看護協会	8/6	フィジカルアセスメント	2名
静岡県看護協会	8/18	看護リフレクション	5名
静岡県看護協会	8/21～22	災害支援ナースの第一歩	5名
全国自治体病院協議会	8/22～24	看護管理研修会（第１回）	2名
日本臨床看護マネジメント学会	8/26	重症度、医療・看護必要度評価者　院内指導者研修	5名
静岡県看護協会	8/30	災害支援ナース登録者研修	8名
静岡県看護協会	8/31～9/1	感染管理～感染予防リンクナース研修～	1名
静岡県看護協会	9/1～H31/2/16	e-ラーニングで学ぶ医療安全管理者養成研修	1名
静岡県看護協会	9/6～42日間	平成30年度　看護職員実習指導者等講習会	1名
静岡県看護協会	9/8	その人らしさを尊重した看取りの支援を行うために施設ナースにできること	4名
日本通所ケア研究会	9/8～9	入院中に起こりやすいBPSD対応と認知症ケア加算取得と活動の実際セミナー	2名
静岡県病院協会	9/16	エマルゴ机上シミュレーション	2名
静岡県看護協会	9/25	認知症対応力向上研修	1名
静岡県訪問看護ステーション協議会	9/27、10/3・16・22	医療機関の看護師研修	1名
全国自治体病院協議会	9/27～28	臨地実習研修会	1名
静岡県立静岡がんセンター	9/29	がん介護実践研修会	3名
静岡県看護協会	10/9	災害看護一般研修Ⅱ	2名
静岡県看護協会	10/10～H31/1/17	認定看護管理者教育課程　　セカンドレベル	2名
静岡県看護協会	10/11～12	多死社会に求められる看取りの看護	7名
静岡県自治体病院協議会　看護部長会部会	10/12	第1回　看護部長部会研修会	3名
静岡県看護協会	10/20	コンピテンシーを基盤とした看護管理	2名
静岡県看護管理者会	10/23～25	中間管理者研修会	2名
静岡県看護協会	10/27	効果的なプレゼンテーション技法	1名
静岡県看護協会	10/30	暮らしをつなげる看護職員のためのフォローアップ研修	3名
静岡県看護協会	11/2	次世代をみすえた看護管理	2名
静岡県看護協会富士地区支部	11/6・17	災害看護地区研修	1名
静岡県看護協会	11/9	看護補助者活用推進のための看護管理者研修	3名
静岡県看護協会	11/15～16	看護倫理の考え方－みんなで考える倫理問題	4名
静岡県自治体病院協議会　看護部長会部会	11/16	第2回　看護部長部会研修会	1名
ライフプランニングセンター	11/17～18	平成30年度　がんリハビリテーション　第5回	1名

静岡県看護協会	11/10	第2回労働環境に関する研修会	1名
全国自治体病院協議会	11/28～30	看護管理研修会（第3回）	1名
静岡県看護協会	11/30	意思決定の支援－あなたは支援者になっていますかー	3名
静岡県看護協会	12/１	脳卒中リハビリテーション看護　フォローアップ研修	1名
静岡県理学療法士会	12/１～２	平成30年度静岡呼吸リハビリテーション研修会	1名
全国自治体病院協議会	12/３～４	医療安全管理者養成研修会〈管理コース〉	1名
全国自治体病院協議会	12/５～７	医療安全管理者養成研修会〈実践コース〉	1名
全国自治体病院協議会	12/３～４	医療安全管理者養成研修会〈第2回専門コース〉	1名
静岡県看護協会	12/８	透析に移行させない糖尿病の重症化予防	4名
静岡県看護協会	12/13・15、１/23～24	新人看護職員研修指導者研修　実地指導者研修	3名
静岡県看護協会	12/15	看護師長交流会	1名
日本看護協会インターネット配信研修	11/28～29	認知症高齢者の看護実践に必要な基礎知識	1名
日本看護協会インターネット配信研修	12/19～20	認知症高齢者の看護実践に必要な基礎知識	2名
静岡県看護協会	１/17	脳卒中リハビリテーション看護ー回復期・生活期を変える急性期ケア	2名
静岡県看護協会	１/27～29	平成30年度　災害支援ナース育成研修	1名
静岡県看護協会	２/７	平成30年度　労務管理研修	5名
医学会総合研究機構	３/９	看護師の看護師による看護師の為の災害看護研修～病院対応編～	2名
東北地方慢性期医療協会	２/11～12	排尿機能回復のための治療とケア講座	3名
静岡県病院協会	２/12・14	平成30年度静岡県災害医療従事者研修会	1名
静岡県看護協会	２/23	認知症ケアをつなぐ看看連携	3名
静岡県看護協会・看護連盟	３/14	少子・超高齢・多死社会を生き生きと活躍する看護師になるために	2名

3　院内看護研究会（平成31年３月８日発表会）

⑴　特定保健指導を受けて3年経過後、血圧・糖代謝・脂質代謝において受動勧奨値に達した人とそうでない人の生活習慣の変化　～「標準的な質問票」と健診結果の分析から～
健診センター　○佐藤 杏子、高橋 愛、原 知聖

⑵　不穏行動のある患者に安心安楽を提供するケアについての一考案
～オルゴールCDと共に、タッチング・手浴・足浴を実施して～
西３病棟　○小田 映美、山田 佳奈美、錦織 和恵

⑶　検査時における苦痛緩和が及ぼす影響と課題
～上部内視鏡検査受診者の心理状態を検証して～
外来　○塩川 祐子、清 浩子、石黒 知明、山本 清美

⑷　地域包括ケア病棟における多職種連携に関する現状と意識の相違
西２病棟　○大垣 陽子、大石 晋平、篠原 鈴巳

⑸　高齢者の永続的な治療に対する思いを知る
～透析スタッフから聴く患者との会話からの分析～
透析センター　○内垣内 清奈、佐野 香保里

4　認定看護師の活動報告

⑴　感染管理認定看護師

①　実践の目的は

ア　感染から患者を守る

イ　医療スタッフの安全を守る

ウ　科学的根拠に基づく対応が感染率を低減し経済効果に繋がる

②　活動内容

ア　院内感染対策委員会（ＩＣＣ）：毎月１回　第２木曜日開催

イ　感染対策チーム（ＩＣＴ）：毎月２回　第２・４火曜日開催

・週１回　ラウンド

・感染防止対策加算「Ｉ－１」「Ｉ－２」に係わる地域連携カンファレンスの活動実施

「Ｉ－１」：富士市立中央病院と富士宮市立病院の３病院で、地域連携カンファレンス（相互評価とラウンド）の実施

「Ｉ－２」：聖隷富士病院（４回）と新たに川村病院（２回）が参加し、５月23日「手指消毒剤の使用量増加に向けた取り組み」、８月22日「個人防護具（ゴーグル）の適切な使用状況について（業者による、ゴーグル関連製品の説明、展示の実施）、11月28日「自施設における職員のワクチン管理の取り組みについて」、２月28日「インフルエンザ等の院内発生状況につい」４回実施した

ウ　看護部環境感染対策委員会：毎月１回　第３火曜日出席

エ　マニュアル作成（１件）・改訂（24件）

オ　カテーテル関連尿路感染（CA-UTI）サーベイランス６病棟実施

・2019年１月から、西３病棟・本４病棟開始

カ　研修会講師

	No.	日	時間	依頼元・対象	研修内容
看護部教育委員会	1	４月９日	８:00～９:00	ラダーⅠ	直ぐに実践できる感染対策
	2	５月10日	15:30～16:30	ラダーⅠ	針刺し・切創、血液暴露防止対策
	3	６月５日	13:00～14:45	ラダーⅠ	手指衛生と個人防護具着脱のタイミング洗浄・消毒・滅菌の洗濯
	4	10月４日	15:30～16:30	ラダーⅡ	経路別予防策
	5	11月５日	15:30～16:30	ラダーⅢ	予防接種
	6	１月18日	13:00～16:00	マネジマント	感染管理～マネジメント編～
	7	２月４日	14:30～15:30	看護助手	インフルエンザとノロウイルス①
	8	２月15日	14:30～15:30	看護助手	インフルエンザとノロウイルス②
	9	５月１日	８:45～９:45	プレシャスナース	
	10	５月11日	９:30～10:30	プレシャスナース	
	11	７月９日	８:15～９:15	プレシャスナース	
	12	９月10日	９:45～11:00	プレシャスナース	
院内研修	13	４月３日	10:30～12:00	事務部	新採用者研修
	14	７月17日	10:00～11:00	看護部	再就業研修会
	15	７月27日	14:45～15:30	看護部	高校生一日体験ナース
	16	11月21日	10:30～11:00	認定委員会	呼吸器衛生／咳エチケットについて
	17	10月26日	９:00～10:00	看護部	中学生職場体験研修会
	18	11月15日	16:00～16:45	病院	後期感染研修会①
	19	11月21日	16:00～16:45	病院	後期感染研修会②
院外研修	20	10月７日	13:00～16:30	静岡県病院協会	平成30年度　第１回感染対策セミナー「相談コーナー」
	21	12月10日	13:00～16:30	静岡県病院協会	平成30年度　第２回感染対策セミナー「相談コーナー」
	22	12月21日	17:00～18:00	芙蓉の丘	高齢者介護施設における感染対策～インフルエンザとノロウイルス～

キ　地域の啓蒙活動

・10月27日（土）に健康フェスタ（富士川まちづくりセンター）で、咳エチケットキャンペーンとしてのマスク200組配布

ク　コンサルテーション

・院内、院外（連携病院や中部感染対策ネットワークでは25件）において実施

③　認定看護師会の活動

ア　認定看護師会（毎月１回開催）

・看護外来：テーマ「呼吸器衛生/咳エチケットについて」　当館１階待合ホール　11月21日

④　感染管理認定看護師の自己研鑽

ア　静岡県中部感染対策ネットワークに参加：毎月１回

イ　静岡県病院協会の感染対策セミナー：参加また相談コーナーを担当　10月７日・12月16日

ウ　第34回　日本環境感染学会総会参加：神戸　２月22日～23日

（文責：佐藤 八千代）

⑵　がん化学療法看護認定看護師

①　院内研修講師

ア　ＦＯＬＦＩＲＩ＋ＢＶ療法	内科外来	５月８日
イ　ＸＥＬＯＸ療法	東３病棟	５月21日
ウ　ＡＣ療法	東３病棟	６月４日
エ　ジェムザール療法	西２病棟	６月13日
オ　ＡＣ療法	東３病棟	10月23日
カ　ハーセプチン・アブラキサン療法	東３病棟	11月27日
キ　ＸＥＬＯＸ療法	東３病棟	１月29日

②　学会発表

富士富士宮地区　消化器癌研究会

テーマ：当院でのXELOX療法時における血管痛対策への取り組み

2018年11月28日　ホテルグランド富士

③　がん化学療法看護に関する自己研鑽

第56回　日本癌治療学会学術集会　10月18日～20日　パシフィコ横浜

④　外来化学療法委員会活動

ア　化学療法多職種カンファレンス（看護師、緩和ケア認定看護師、薬剤師、理学療法士）

５月９日、７月13日、９月14日、11月９日、１月11日

⑤　認定看護師会（毎月１回開催）

（文責：松永 光代）

⑶　透析看護認定看護師

透析看護認定看護師の実践の目的は、

- 透析療法にならないための予防活動をする。
- 透析をせざるを得なくなった患者様が、生活の中に透析療法を取り入れられるよう支援する。
- 患者様に安全・安楽な透析を提供する。
- 地域住民に健康生活について語る。

①　認定看護師会（毎月１回開催）

②　看護外来

『透析療法の実際』　７月

③　看護学校講師

腎不全・透析看護　５月18日・25日、６月１日　ＪＡ静岡厚生連するが看護専門学校

④　院内看護師透析看護研修会

ア　シャント・カテーテルについて　９月14日（金）13：30～病院内

イ　透析療法・ドライウェイトとは、透析患者の食事・水分摂取・内服について

９月19日（水）13：15～病院内

ウ　透析導入～退院までの流れについて　９月19日（水）13：15～病院内

⑤　共立蒲原総合病院フェスタ

『爪ケア』　10月27日

⑥　透析看護における自己研鑽

第52回日本成人病（生活習慣病）学会　１月13日～14日

⑦　コンサルテーション

（文責：谷沢 美恵子）

⑷ 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

① 院内研修講師

ア 「廃用症候群・関節可動域訓練・体位ドレナージ」 新人研修 5月30日

イ 「リハビリテーション看護」 ラダーⅡ 10月４日

② 院外研修講師

「看護・健康教室」コーディネーター

「転倒しないための体操」 ヒューマンライフ富士 会議室 7月２日

③ 学会参加

「stroke2019」 横浜 3月21日～23日

④ 脳卒中リハビリテーション看護に関する自己研鑽

ア 「脳卒中リハビリテーション看護認定看護師フォローアップ研修」

静岡県脳卒中リハビリテーション看護認定看護師会主催 12月１日

イ 「東海脳神経看護研究会」

日本脳神経看護研究会 東海地方部会 ２月10日

⑤ コンサルテーション

⑥ 認定看護師会（毎月１回開催）

看護外来 テーマ「脳卒中の発症と予防」 12月27日

⑦ 排尿ケア委員会（毎月第１月曜日開催）

排尿ケアチーム ラウンド（毎週木曜日）

（文責：稲葉 映）

⑸　認知症看護認定看護師

①　院内研修講師

ア　ラダーⅡ	５月２日、７月12日	認知症ケア
イ　ラダーⅠ	７月12日	高齢者の理解
ウ　派遣型再就職支援	７月19日	認知症看護
エ　高校生一日ナース体験	７月27日	認知症看護について
オ　芙蓉の丘	８月９日・23日・31日	認知症とは
カ　中学生職場体験	10月25日	認知症看護について
キ　助手研修	３月７日・29日	認知症患者の理解

②　院外研修講師

つどいのおかデイサービスセンター　１月30日　高齢者の権利擁護と身体拘束

③　院外活動

ア　平成30年度　富士市認知症施策推進委員会　７月17日、11月13日、２月13日
イ　富士市健康まつり　健康相談　９月16日
ウ　蒲原病院フェスタ　認知症相談　10月27日
エ　三島すこやかふれあいまつり（まちの保健室）健康相談　11月18日
オ　平成30年度　富士市認知症カフェ交流会　３月20日

④　認知症看護に関する自己研鑽

ア　静岡県東部地区認知症看護認定看護師会　１回／月
イ　認知症の人へのケア＆リハビリテーション８つの具体策（日総研）　５月20日
ウ　入院中起こりやすいBPSD対応と認知症ケア加算取得と活動の実際（日本通所ケア研究会）　６月３日
エ　日本老年看護学会　第23回学術集会　６月23日・24日
オ　急性期医療での“抑制しない看護”（日総研）　９月１日
カ　転倒予防学会　第５回学術集会　10月７日

⑤　認知症・せん妄ケア委員会

ア　ケアチームでのカンファレンス・ラウンド　１回／週
イ　院内研修　２回／年開催
「せん妄と薬」　８月３日・28日、９月６日・26日
「認知症の人と共に　DVD研修」　１月11日、２月21日・26日、３月11日
ウ　院内デイケア　（７月、12月開催）

⑥　コンサルテーション

⑦　認定看護師会（毎月１回開催）

看護外来　10月24日　「認知症について」

（文責：齋藤 美和）

⑹　緩和ケア認定看護師

①　院内研修

リラクゼーション　新人研修　７月24日

患者・家族との関わりを深めるコミュニケーション　西３病棟　11月13日・27日

②　緩和ケアに関する自己研鑽

ア　第33回　日本がん看護学会学術会　福岡国際センター　２月23日～24日

③　院内活動

ア　緩和ケアチーム（５月発足：横山医師、がん化学療法認定看護師、薬剤師、作業療法士、理学療法士、栄養士、メディカルソーシャルワーカー）

週１回　カンファレンス・回診

イ　外来化学療法カンファレンス（がん化学療法認定看護師、外来看護師、訪問看護師、薬剤師、理学療法士、メディカルソーシャルワーカー）

２ヶ月に１回

④　認定看護師会（毎月１回開催）

看護外来：テーマ「緩和ケアについて」　８月22日

（文責：鈴木 千恵）

Ⅵ　研究

1　医局

⑴　学会・研修会等出席者数

49件　　延べ58名

⑵　著書・刊行論文

- 「関節胃集団検診における検査前48時間以上の禁煙が偽陽性判定数を減少させる」
  雑誌名：日本消化器がん検診学会雑誌 2018年56巻５号
  著　者：谷若 弘一

⑶　学会及び研究会報告

- 「職場検診からみた前喫煙者の家族の癌罹患から受ける禁煙意識の検討」
  谷若 弘一
  第12回　日本禁煙学会学術総会　2018年11月10日～11日　香川

⑷　対外活動（講演会等）

① 富士富士宮地区糖尿病講演会
一般講演演者：古川 卓　2018年４月９日　富士

② 薬学講座「タバコの害：お酒の害・だめぜったい薬物！」（富士市立田子浦小学校）
講師：谷若 弘一　2018年６月14日　富士

③ 薬学講座「喫煙と薬物における健康被害について」（富士市立伝法小学校）
講師：谷若 弘一　2018年６月28日　富士

④ 喫煙防止講座「喫煙の怖さについて」（富士市立富士川第二中学校）
講師：谷若 弘一　2018年６月29日　富士

⑤ 薬学講座「たばこ・アルコール・薬物が体に与える影響について」（富士市立丘小学校）
講師：谷若 弘一　2018年７月３日　富士

⑥ 薬学講座「タバコ、アルコール、薬物」（富士市立富士見台小学校）
講師：谷若 弘一　2018年７月５日　富士

⑦ 薬学講座（富士市立富士川第一小学校）
講師：谷若 弘一　2018年７月６日　富士

⑧ 薬学講座「喫煙飲酒薬物乱用防止について」（富士市立鷹岡小学校）
講師：谷若 弘一　2018年７月10日　富士

⑨ 「Diabetes Paradigm shift～SGLT2阻害剤とその結果～」
演者：古川 卓　2018年７月12日　富士

⑩　生活習慣病予防教室（静岡市立由比小学校）
講師：谷若 弘一　2018年７月18日　静岡

⑪　喫煙防止教室（静岡市立由比小学校）
講師：谷若 弘一　2018年７月19日　静岡

⑫　第２回富士市緩和医療連携カンファレンス
パネリスト：横山 ともみ　2018年７月31日　富士

⑬　静岡東部骨粗鬆症リエゾンサービスカンファレンス
司会：加藤 純一郎　2018年９月９日　沼津

⑭　薬学講座「薬物乱用防止に関する講話」（富士市立富士川第二小学校）
講師：谷若 弘一　2018年９月13日　富士

⑮　「第135回薬物療法研修会」
演者（特別講演等）：古川 卓　2018年９月18日　沼津

⑯　薬学講座「たばこの害及び薬の害」（富士市立吉原小学校）
講師：谷若 弘一　2018年11月１日　富士

⑰　富士肝炎フォーラム
座長：河合 勉　2018年11月19日　富士

⑱　薬学講座「タバコ、アルコール、覚醒剤による健康被害」（富士市立富士中央小学校）
講師：谷若 弘一　2018年12月11日　富士

⑲　「第４回Diabetes Forum」
一般演題演者：古川 卓　2019年１月23日　富士

⑳　Kowa Web カンファレンス
演者：古川 卓　2019年２月20日　富士

2　診療技術部

⑴　学会・研修会等出席者数

薬局	4件	延べ11名
放射線科	14件	延べ32名
検査科	12件	延べ29名
リハビリテーション科	33件	延べ40名

⑵　著書・刊行論文

薬局

- 雑誌名：静岡県病院薬剤師会　会報　2019 年３月　学術部報告
  著　者：久保田 倫代

- 雑誌名：静岡県病院薬剤師会　会報　2019 年３月　中堅薬剤師の声
  著　者：渡辺 俊輔

リハビリテーション科

- 「脳卒中片麻痺患者におけるホームエクササイズ指導のポイント」
  雑誌名：『理学療法第36巻第３号』p196-204，メディカルプレス，2019
  著　者：和泉謙二他

- 書評「樋口貴広著『研究的思考法―想いを伝える技術』」
  雑誌名：『理学療法第36巻第３号』p196-204，メディカルプレス，2019
  著　者：和泉謙二9

⑶　学会及び研究会報告

薬局

- 「療養病棟における高齢者の薬剤使用量の評価と薬学的介入」
  竹下 秀司、佐野 一也、久保田 倫代
  第28回日本医療薬学会年会　2018年11月23日

放射線科

- 「蒲原病院における乳房の構成と高濃度乳房問題」
  谷本 清美
  第28回診療放射線技師富士富士宮研究会　2018年４月20日

- 第28回診療放射線技師富士富士宮研究会
  座長　渡邉 知巳　2018年４月20日

- 骨粗鬆症リエゾンサービスカンファレンス
  渡邉 知巳　2018年９月９日

- 「当院における骨シンチの現状（半定量検査の実施状況）」
  澤瀬 敏之
  第29回診療放射線技師富士富士宮研究会　2018年10月12日

リハビリテーション科

- 「床上基本動作を通し歩行機能の改善に繋がった視床出血の一症例」
  高林 佑介、 原木 公祐、 杉山 基、和泉 謙二
  第34回東海北陸理学療法士学術大会　2018年10月27日　三重県総合文化センター

⑷ 対外活動（講演会等）

リハビリテーション科

- エコロジカルアプローチ研究会スキルアップセミナー（2018年度第1回）
  「パーキングファンクションに近づけるための評価と治療的アプローチ」
  講師：和泉 謙二　2018年４月14日～15日　藤田医科大学

- 静岡エコロジカルアプローチ研究会主催講習会（ベーシックコース）
  「姿勢・動作の理解と評価の視点～ヒトの動きと取り巻く環境に着目して～」
  講師：和泉 謙二　2018年６月30日～７月１日　富士リハビリテーション専門学校

- 京都エコリハ研究会主催第１回研修会
  「エコロジカルアプローチ：京都導入編：パーキングファンクション」
  講師：和泉 謙二　2018年９月22日　仏教大学

- 静岡県理学療法士会新人教育部研修会
  「理学療法と倫理」
  講師：和泉 謙二　2018年８月５日　藤枝市立総合病院

- エコロジカルアプローチ研究会福井講習会
  「エコロジカルアプローチ入門編～生態心理学の基礎的な概念に触れる～」
  講師：和泉 謙二　2018年11月10日　公立丹南病院

- 静岡エコロジカルアプローチ研究会主催講習会（アドバンスコース）
  「感受性の高い身体へ導く治療的アプローチ～自律的な反応を引き出すために～」
  講師：和泉 謙二　2018年11月23日～24日　浜松市リハビリテーション病院

- 第３回滋賀エコロジカルアプローチ研究会講習会
  「エコロジカルアプローチから基本動作をみる」
  講師：和泉 謙二　2018年12月22日～23日　京都橘大学

- 静岡県理学療法士会部門責任者協議会
  「パワハラ・モラハラ～職場のパワーハラスメントを考える～」
  講師：和泉 謙二　2019年１月26日　静岡市

- 静岡県理学療法士会領域別管理者研修会
  「地域包括ケア病棟」
  講師：和泉 謙二　2019年１月26日　静岡市

- 静岡市医療・介護専門職のための研修会
  「多職種協働で「自宅でずっと」を支える」

ナビゲーター：和泉 謙二　2019年１月26日　もくせい会館

- 藤田保健衛生大学リハビリテーション学科卒後研修会臨床動作分析講習会基礎編
  「姿勢・動作を重力下の環境で理解する～パーキングファンクションの視点から～」
  講師：和泉 謙二　2019年２月９日～10日　藤田医科大学

3　看護部

⑴　学会・研修会等出席者数　79件　延べ182名

⑵　学会及び研究会報告

- 「退院支援の評価」
  石原 英子、長岡 知子
  固定チームナーシング全国研究集会
  平成30年９月15日　神戸ポートピアホテル

- 「レスパイト入院に対する病棟看護師の認識の実態」
  桑原 和美、溝尻 結美、西川 純子
  第49回日本看護協会－慢性期看護－学術集会
  平成30年９月27日　静岡県コンベンションセンター（グランシップ）

- 「地域包括ケア病棟の現状と課題　第２報」
  伊藤 さゆり
  第57回全国自治体病院学会
  平成30年10月18日～19日　福島県郡山市民文化センター

- 「入院前情報用紙、退院時カンファレンス用紙を作成して～ケアマネジャーと連携し退院支援に繋げる」
  大垣 陽子
  固定チームナーシング研究会　中部地方会
  平成30年11月23日　愛知県産業労働センター（ウインクあいち）

- 「外来手術患者への手術室看護師による術前訪問の効果～不安の軽減に努めて～」
  安藤 公子、久保田 恵
  平成30年度静岡県看護協会富士地区支部　看護実践報告会
  平成31年２月２日　富士市立中央病院

⑶　対外活動（講演会等）

- 職業講話
  「看護の仕事」
  講師：桑原 和美　平成30年６月21日　常葉大学附属橘中学校２年生

- 学会座長
  第49回日本看護学会－慢性期看護－学術集会
  「身体のケア」
  座長：今井 碧　平成30年９月28日　静岡県コンベンションセンター（グランシップ）

- 「訪問看護」
  講師：杉山 博世　平成30年11月16日　富士市立鷹岡中学校１年生

Ⅶ　その他

1　年間行事

平成30年４月

日	曜	行事とその内容
1	日	
2	月	辞令交付　新職員研修(５日まで)
3	火	NST委員会
4	水	
5	木	
6	金	排尿ケアチーム
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	ICT委員会輸血療法委員会
11	水	
12	木	
13	金	衛生委員会　防災部会
14	土	
15	日	
16	月	
17	火	病院情報システム委員会
18	水	
19	木	認知症・せん妄ケア委員会
20	金	褥瘡対策委員会
21	土	
22	日	
23	月	
24	火	ICT委員会
25	水	診療材料委員会
26	木	管理会議 給食委員会 医療安全管理委員会
27	金	
28	土	
29	日	昭和の日
30	月	振替休日

平成30年５月

日	曜	行事とその内容
1	火	NST委員会
2	水	
3	木	憲法記念日
4	金	みどりの日
5	土	こどもの日
6	日	
7	月	排尿ケアチーム
8	火	ICT委員会 ファイルメーカー標準化部会
9	水	防災部会
10	木	
11	金	衛生委員会
12	土	
13	日	
14	月	
15	火	医療安全管理委員会 病院情報システム委員会
16	水	電子カルテシステム導入委員会
17	木	認知症・せん妄ケア委員会
18	金	褥瘡対策委員会
19	土	
20	日	
21	月	薬事審議会
22	火	ICT委員会
23	水	
24	木	給食委員会 救急部会
25	金	診療録管理委員会
26	土	
27	日	
28	月	
29	火	臨床検査適正化委員会
30	水	
31	木	管理会議

平成30年６月

日	曜	行事とその内容
1	金	
2	土	
3	日	
4	月	
5	火	NST委員会 地域医療支援委員会
6	水	
7	木	
8	金	衛生委員会
9	土	
10	日	
11	月	
12	火	防災訓練 ICT委員会
13	水	防災部会 共立蒲原総合病院-保険薬局地域医療連携会議
14	木	
15	金	褥瘡対策委員会
16	土	
17	日	
18	月	
19	火	医療安全管理委員会 病院情報システム委員会
20	水	電子カルテシステム導入委員会
21	木	認知症・せん妄ケア委員会
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	ICT委員会 輸血療法委員会
27	水	
28	木	管理会議 給食委員会 救急部会
29	金	
30	土	

平成30年７月

日	曜	行事とその内容
1	日	
2	月	防災管理委員会
3	火	NST委員会
4	水	
5	木	
6	金	医療ガス安全管理委員会
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	ICT委員会
11	水	防災部会
12	木	
13	金	衛生委員会
14	土	
15	日	
16	月	海の日
17	火	医療安全管理委員会
18	水	
19	木	認知症・せん妄ケア委員会
20	金	褥瘡対策委員会
21	土	
22	日	
23	月	
24	火	管理者による職員講話 ICT委員会
25	水	電子カルテシステム導入委員会
26	木	給食委員会 救急部会
27	金	管理会議院外広報委員会
28	土	
29	日	
30	月	接遇委員会
31	火	

平成30年８月

日	曜	行事とその内容
1	水	
2	木	市民公開講座
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	NST委員会 輸血療法委員会
8	水	防災部会 職員健康診断(17日まで)
9	木	院内感染防止対策委員会
10	金	衛生委員会
11	土	山の日
12	日	
13	月	
14	火	ICT委員会
15	水	
16	木	認知症・せん妄ケア委員会
17	金	褥瘡対策委員会
18	土	
19	日	
20	月	薬事審議会 診療録管理委員会
21	火	医療安全管理委員会
22	水	電子カルテシステム導入委員会
23	木	管理会議 救急部会
24	金	院内コンサート
25	土	
26	日	
27	月	防災管理委員会
28	火	ICT委員会
29	水	院外広報委員会
30	木	医師負担軽減対策委員会
31	金	院内コンサート

平成30年９月

日	曜	行事とその内容
1	土	
2	日	静岡市・静岡県総合防災訓練
3	月	共立蒲原総合病院組合議会定例会
4	火	NST委員会 地域医療支援委員会
5	水	
6	木	
7	金	健康診断センター委員会
8	土	
9	日	
10	月	
11	火	ICT委員会 ファイルメーカー標準化部会
12	水	防災部会
13	木	院内感染防止対策委員会
14	金	衛生委員会
15	土	
16	日	
17	月	敬老の日
18	火	医療安全管理委員会 病院情報システム委員会
19	水	診療材料委員会
20	木	DPC委員会 認知症・せん妄ケア委員会
21	金	褥瘡対策委員会
22	土	
23	日	秋分の日
24	月	振替休日
25	火	ICT委員会
26	水	
27	木	管理会議 救急部会 給食委員会 共立蒲原総合病院経営懇話会
28	金	
29	土	
30	日	

平成30年10月

日	曜	行事とその内容
1	月	
2	火	NST委員会 輸血療法委員会
3	水	
4	木	
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	体育の日
9	火	ICT委員会
10	水	防災部会
11	木	院内感染防止対策委員会
12	金	衛生委員会
13	土	
14	日	
15	月	
16	火	病院情報システム委員会 医療安全管理委員会
17	水	
18	木	認知症・せん妄ケア委員会
19	金	褥瘡対策委員会
20	土	
21	日	
22	月	薬事審議会
23	火	ICT委員会 診療録管理委員会
24	水	電子カルテシステム導入委員会
25	木	管理会議 救急部会 給食委員会
26	金	
27	土	健康フェスタ
28	日	
29	月	接遇委員会
30	火	
31	水	

平成30年11月

日	曜	行事とその内容
1	木	
2	金	
3	土	文化の日
4	日	
5	月	個人情報保護委員会
6	火	NST委員会
7	水	
8	木	院内感染防止対策委員会
9	金	衛生委員会
10	土	
11	日	
12	月	
13	火	ICT委員会
14	水	防災部会
15	木	糖尿病教室
16	金	褥瘡対策委員会 院内コンサート
17	土	
18	日	
19	月	
20	火	医療安全管理委員会 病院情報システム委員会
21	水	
22	木	救急部会 給食委員会
23	金	勤労感謝の日
24	土	
25	日	
26	月	看護職員負担軽減対策委員会
27	火	管理会議 ICT委員会
28	水	電子カルテシステム導入委員会
29	木	市民公開講座
30	金	

平成30年12月

日	曜	行事とその内容
1	土	
2	日	
3	月	
4	火	NST委員会 地域医療支援委員会 医療安全対策地域連携相互評価
5	水	保健所立入検査（医療監視）
6	木	
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	
11	火	ICT委員会 ファイルメーカー標準化部会
12	水	防災部会
13	木	院内感染防止対策委員会
14	金	衛生委員会
15	土	
16	日	
17	月	接遇委員会
18	火	医療安全管理委員会 病院情報システム委員会
19	水	
20	木	認知症・せん妄ケア委員会
21	金	褥瘡対策委員会
22	土	
23	日	天皇誕生日
24	月	振替休日
25	火	ICT委員会
26	水	電子カルテシステム導入委員会
27	木	管理会議 給食委員会
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	

平成31年１月

日	曜	行事とその内容
1	火	元日
2	水	
3	木	
4	金	院長年頭挨拶
5	土	
6	日	
7	月	
8	火	NST委員会 ICT委員会 輸血療法委員会
9	水	防災部会
10	木	院内感染防止対策委員会
11	金	衛生委員会
12	土	
13	日	
14	月	成人の日
15	火	医療安全管理委員会 病院情報システム委員会
16	水	
17	木	認知症・せん妄ケア委員会 共立蒲原総合病院経営懇話会
18	金	DPC委員会 褥瘡対策委員会
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	ICT委員会
23	水	電子カルテシステム導入委員会
24	木	管理会議
25	金	院外広報委員会
26	土	
27	日	
28	月	管理会議 薬事審議会 接遇委員会 看護職員負担軽減対策委員会
29	火	
30	水	
31	木	

平成31年２月

日	曜	行事とその内容
1	金	
2	土	
3	日	
4	月	
5	火	NST委員会
6	水	
7	木	
8	金	看護職員負担軽減対策委員会 衛生委員会
9	土	
10	日	
11	月	建国記念日
12	火	ICT委員会
13	水	防災部会
14	木	
15	金	褥瘡対策委員会
16	土	
17	日	
18	月	接遇委員会
19	火	病院情報システム委員会
20	水	
21	木	認知症・せん妄ケア委員会
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	電子カルテシステム導入委員会
28	木	管理会議 給食委員会

平成31年３月

日	曜	行事とその内容
1	金	院外広報委員会
2	土	
3	日	
4	月	
5	火	輸血療法委員会
6	水	診療材料委員会
7	木	
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	
12	火	
13	水	防災部会
14	木	院内感染防止対策委員会
15	金	褥瘡対策委員会 衛生委員会
16	土	
17	日	
18	月	DPC委員会
19	火	病院情報システム委員会 医療安全管理委員会
20	水	
21	木	春分の日
22	金	認知症・せん妄ケア委員会 院内コンサート
23	土	
24	日	
25	月	共立蒲原総合病院組合議会定例会 薬事審議会 診療録管理委員会 看護職員負担軽減対策委員会
26	火	ICT委員会
27	水	電子カルテシステム導入委員会
28	木	管理会議 給食委員会 医師負担軽減対策委員会
29	金	院内コンサート
30	土	
31	日	

2　平成30年度蒲原病院健康フェスタ

⑴　目的

地域住民が医療・看護・健康・関心を持ち、健康維持・増進に役立てることができるよう健康チェックや健康相談を行う。

⑵　テーマ

「健康で安心して生活できる身体づくりを目指して」

⑶　開催日時

平成30年10月27日（土）９：00～14：00

⑷　場所

富士川まちづくりセンター

⑸　来場者数

130人

⑹　参加費

無料

⑺　開催内容

マスク配布	バルーンアート
看護師になりたい人この指とーまれ	写真撮影
体力テスト	血管年齢測定・体組成測定
骨密度測定	フットケアー
ハンドトリートメント	アルコールパッチテスト
血圧測定・健康相談	介護用品展示
認知症について	

3　市民公開講座

第１回　開催日時：平成30年８月２日（木）15：00～16：00
　　場　　所：当院　本館５階会議室
　　テ ー マ：夜間頻尿について“おしっこでお困りの方へ”
　　講　　師：赤　澤　信　幸　医師
　　来場者数：42名

第２回　開催日時：平成30年11月29日（木）15：00～16：00
　　場　　所：当院　本館５階会議室
　　テ ー マ：婦人科検診について“婦人科癌は集団検診だけでよいのか!?”
　　講　　師：伊　吹　友　二　医師
　　来場者数：30名

4　蒲原病院だより

- 平成30年度　春号
  - ・新任医師紹介
  - ・市民公開講座のご案内
  - ・緩和ケア、排尿ケアチーム発足
  - ・部署紹介（検査科）
  - ・健康診断センターリニューアル　　ほか

- 平成30年度　秋号
  - ・健康フェスタ開催のお知らせ
  - ・市民公開講座のご案内
  - ・部署紹介（放射線科）
  - ・インフルエンザワクチン接種について
  - ・検診車更新　　ほか

共立蒲原総合病院年報

（第８号　平成 30 年度）

令和元年８月１日発行

編集・発行

〒421-3306　静岡県富士市中之郷 2500 番地の 1

共立蒲原総合病院

電話〈0545〉81-2211

Kanbara